

日本女子体育大学 | 2021年度

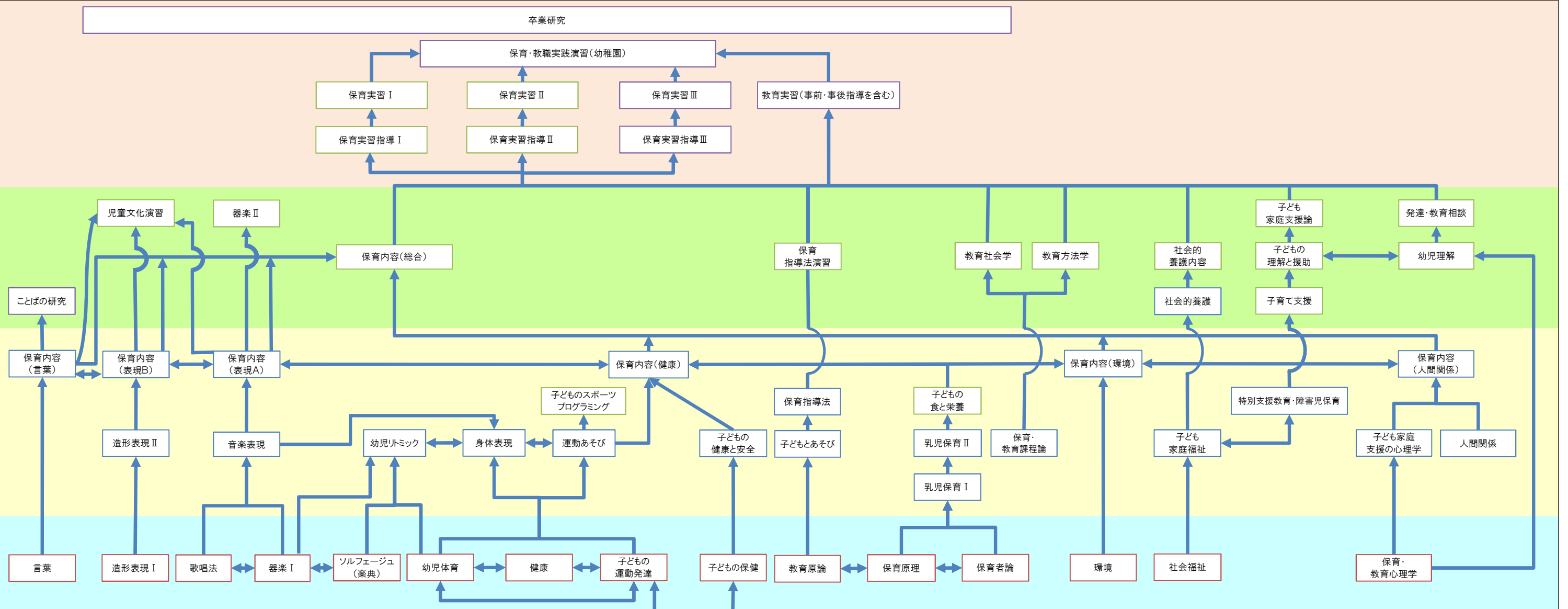
シラバス



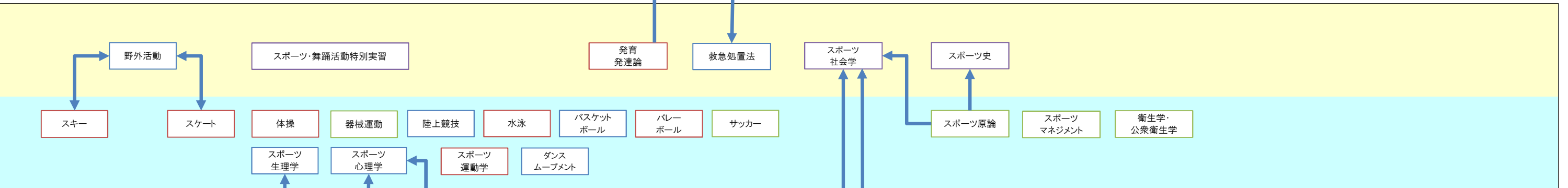
Japan Women's College of Physical Education

子ども運動学科 カリキュラムマップ

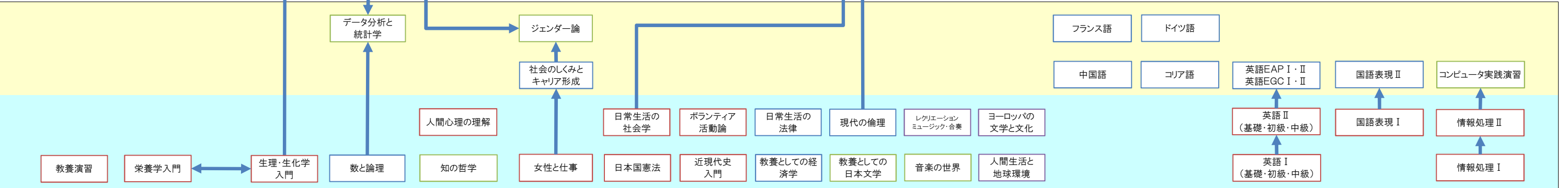
専門基礎教育・専門教育科目



体育関連科目



教養科目



科目名	日本国憲法			担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		
【目的とねらい】 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、なぜ憲法を学ぶか。憲法とはどのような法か。 【到達目標】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 (2) 憲法がどのような法であるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)			第9回 社会権 【到達目標】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第8章を熟読する。(4.0hr)			
第2回 日本における憲法の歴史 【到達目標】 (1) 大日本帝国憲法の制定過程と、その内容について理解する。 (2) 日本国憲法の制定過程とその基本原則について、大日本帝国憲法と比較しつつ理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章を熟読する。(4.0hr)			第10回 天皇と国民 【到達目標】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第1章・第11章を熟読する。(4.0hr)			
第3回 基本的人権総論 【到達目標】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権の種類を理解する。 (3) 基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第11章を熟読する。(4.0hr)			第11回 平和主義 【到達目標】 (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第15章を熟読する。(4.0hr)			
第4回 法の下での平等 【到達目標】 (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第12章を熟読する。(4.0hr)			第12回 国会の役割 【到達目標】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
第5回 精神的自由権① 【到達目標】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第4章を熟読する。(4.0hr)			第13回 内閣の役割 【到達目標】 (1) 行政権の概念について理解する。 (2) 内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第13章を熟読する。(4.0hr)			
第6回 精神的自由権② 【到達目標】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)			第14回 裁判所の役割① 【到達目標】 (1) 司法権の概念について理解する。 (2) 裁判所の構成について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
第7回 精神的自由権③ 【到達目標】 (1) 表現の自由の重要性を理解する。 (2) 表現の自由に対する規制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第3章・第4章を熟読する。(4.0hr)			第15回 裁判所の役割② 【到達目標】 (1) 司法権の独立について理解する。 (2) 違憲審査制について理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第14章を熟読する。(4.0hr)			
第8回 経済的自由権 【到達目標】 (1) 経済的自由権には具体的にどのようなものがあるかを理解する。 (2) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (3) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書の第6章を熟読する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけでなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料及び復習課題である。配信は、対面授業が設定されている日の前日に行い、その日を起点として7日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする。各回の出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 「【合格水準】教職のための憲法」志田陽子 編著、法律文化社、2017						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。						

科目名	女性と仕事			担当者	未定	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		
【目的とねらい】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。その方法として「問い」を重視する。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら「問い」を立て思考することによって、4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 本講義の目的と狙いを理解し、現時点の自己を把握するために自らの振り返りと未来の予測を、具体的に書きまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。(4.0hr)			第9回 社会を知る(7) 講演⑤ 【 到達目標 】 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。また、自分なりの問いを立てる。 【授業時間外学習】 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			
第2回 「問い」の力を知る 【 到達目標 】 本授業の目的を達成するために自ら「問い」を立てることを目指す。その「問い」の持つ力について知り、考える。 【授業時間外学習】 「問い」に関する練習問題を行う。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			第10回 自分を知る(1) 社会人基礎力 【 到達目標 】 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について、自分なりの「問い」を立てる。 【授業時間外学習】 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			
第3回 社会を知る(1) 講演① 【 到達目標 】 卒業生から「働くこと」「仕事をする事」について多方面からの視点を学び、考え、自分なりに「問い」を立てる。 【授業時間外学習】 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			第11回 自分を知る(2) 2年次「社会の仕組みとキャリア形成」への導き 【 到達目標 】 人生100年時代の働き方と自分の可能性について考え、自分なりの「問い」を立てる。 【授業時間外学習】 関連書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)			
第4回 社会を知る(2) 講演② 【 到達目標 】 業界や業種について知る。ニチジョの卒業生が就職している業界について、資料を通じて具体的に知る。業界や業種に関して、自分なりの問いを立てる。 【授業時間外学習】 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			第12回 自分を知る(3)「教員」と言う仕事について 【 到達目標 】 「教員」として身に付けておくべき力は、全業界、全業種にも求められる力であることに気づき、自分なりの「問い」を立てる。 【授業時間外学習】 冬休みを利用して、プレゼンテーションのための準備をする。(4.0hr)			
第5回 社会を知る(3) 講演③ 【 到達目標 】 キャリアセンターと連携し、上級生のインターンシップ体験報告を視聴し、雇用とキャリア形成に関して自分なりの「問い」を立てる。 【授業時間外学習】 自分の「問い」について答えをまとめる。テキストの該当部分を予習する。(4.0hr)			第13回 自分らしく生きるために 【 到達目標 】 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンテーションの準備を通して大学生活と将来についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成 【 到達目標 】 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。(4.0hr)			第14回 プレゼンテーション(1) 【 到達目標 】 「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
第7回 社会を知る(5) 講演④ 【 到達目標 】 企業に勤務する卒業生による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分なりの問いを立てる。 【授業時間外学習】 キャリアセンターHPのOG図鑑を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる(4.0hr)			第15回 プレゼンテーション(2) 【 到達目標 】 「キャリアデザインに関する私の問いと答え」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションをする。仲間のプレゼンテーションにコメントを寄せ、他者理解を深める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。期末レポートを執筆する。(4.0hr)			
第8回 社会を知る(6) キャリアデザイン 【 到達目標 】 キャリアデザインについて学び、自ら「問い」を立てる。グループワークを通して、視野を広げ、さらに自らの「問い」を掘り下げていく。 【授業時間外学習】 関連HPや書籍を参考に、自分の「問い」についての答えをまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 「質問づくり」という手法を用いて、講義を聴講するだけでなくキャリアデザインを自分自身の問題として捉えるアクティブラーニング的手法で授業を行う。また、ゲストセッションを通して、書籍や資料だけでは得難い体験に基づいた講話やオンタイムの情報を得る機会を学生諸君に提供する。この授業をきっかけに視野を広げ、自ら「問い」を立て探求する姿勢を身に付けてほしい。各自の理解度や気づきの程度の確認のため、小レポートの提出を課し、授業の課題達成度を確認する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容の大幅な変更はしない。第13回～第15回のプレゼンテーションは発表内容をレポート課題で代替とする。						
【教科書・参考書など】 【対面授業の場合】 キャリアデザインテキスト(配布) 【オンライン授業の場合】 キャリア・ノート(各自)						
【成績評価方法】 対面授業の場合もオンライン授業の場合も評価方法は変わらない。 授業における課題達成度(50%)、プレゼンテーション並びにプレゼンテーションの要旨レポート(50%)で評価する。						

科目名	教養演習			担当者		
英文名	Preparations for Academic Studies					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		
【目的とねらい】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップの内容も実施する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 アイスブレイク 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)			第9回 レポート・論文作成の技術(1) 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第2回 私の大学生活 【 到達目標 】 これまでの大学生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものにしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。 【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)			第10回 レポート・論文作成の技術(2) 【 到達目標 】 レポート・論文作成における各種の不正行為を防ぐ方法、および研究倫理を具体例を通して学習する。また参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)			
第3回 日本女子体育大学を知る(1) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			第11回 プレゼンテーションの技術 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。 【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)			
第4回 日本女子体育大学を知る(2) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。 【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)			第12回 専門への架け橋 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)			
第5回 話し合いの技術 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第13回 レポート・プレゼンテーション① 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第6回 ノートテイクの技術 【 到達目標 】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。 【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第14回 レポート・プレゼンテーション② 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。(4.0hr)			
第7回 データを眺む技術 【 到達目標 】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。 【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)			第15回 レポート・プレゼンテーション③ 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。 【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)			
第8回 データをまとめる技術 【 到達目標 】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「KJ法」を習得する。 【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。 【オンライン授業の場合】 担当教員の指示に従って毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 オンライン上の演習で行ったスキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。						

科目名	情報処理 I				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥 水野 有希・阿南 大	
英文名	Information Literacy I						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104			
【目的とねらい】 ICT (Information & Communication Technology) の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメールの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 インターネットについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。 (2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第9回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第2回 情報倫理と著作権 【 到達目標 】 (1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。 (2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第10回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第3回 メディアリテラシーとWebコミュニケーション 【 到達目標 】 (1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。 (2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第4回 情報化社会の問題と情報セキュリティ 【 到達目標 】 (1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。 (2)情報セキュリティの必要性と対策を理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第5回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第6回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第7回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第8回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要な情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスをもっていることが望ましい。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面・オンライン授業共通】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	情報処理Ⅱ				担当者	鈴木 信夫・水野 有希 阿南 大・牧 琢弥	
英文名	Information Literacy Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105			
【目的とねらい】 「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学ぶ。Excelでは、のデータの並べ替えや抽出等を活用できるようにする。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションをおこなう。また、画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、発表する。さらに、ネットワークコンピューティング、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 情報ツールとネットワーク・コンピューティング 【 到達目標 】 (1)情報端末機器とWebについての理解する。 (2)情報ツール、Wifiについて理解する。 (3)クラウド (Cloud) について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第9回 数値データのビジュアル化 【 到達目標 】 (1)分析に適したグラフを理解する。 (2)分析結果をグラフで表現する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第2回 パソコンの構成と周辺機器 【 到達目標 】 (1)パソコンの構成を理解する。 (2)パソコンの周辺機器の用途や機能について理解する。 (3)パソコンの設定について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第10回 データベースのデータの活用 【 到達目標 】 (1)データベースについて理解する。 (2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第3回 文書作成の方法 (応用) 【 到達目標 】 (1)高度なワード文書の作成に必要な機能を理解する。 (2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。 (3)校閲、参考資料の機能を理解し、操作方法を修得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第11回 マルチメディアデータの取込と編集 【 到達目標 】 (1)知的財産権について理解する。 (2)マルチメディアのファイルについて理解する。 (3)マルチメディアをPCで取込む方法や編集ソフトの利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第4回 ビジュアル表現の方法 (応用) 1 【 到達目標 】 (1)目的・用途に合わせた表や図形の編集方法を習得する。 (2)画像編集ソフトの活用を修得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第12回 スライドを使ったプレゼンテーション 1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。 (2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第5回 ビジュアル表現の方法 (応用) 2 【 到達目標 】 (1)複雑な図形表現の方法を習得する。 (2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第13回 スライドを使ったプレゼンテーション 2 【 到達目標 】 (1)スライドの作成を完了する。 (2)プレゼンテーションを行うための資料作成を行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第6回 ビジュアル表現の方法 (応用) 3 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第14回 スライドを使ったプレゼンテーション 3 【 到達目標 】 (1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う。 (2)他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第7回 数値データの分析 1 【 到達目標 】 (1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。 (2)絶対参照の利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)				第15回 ファイル管理とPCの設定 【 到達目標 】 (1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。 (1)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)			
第8回 数値データの分析 2 【 到達目標 】 (1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。 (2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 「情報処理Ⅰ」で学んだ事を踏まえて、アプリケーションのスキルアップをするとともに、ネットワーク・コンピューティングの仕組みと活用についての実践的知識を習得することで、専門科目、卒業研究などに活用可能な知識を得ることを目標とする。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施する。毎回授業時に関連した課題を提出してもらう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は変更しない。配信される資料はスライドと資料とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載する。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認する。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイス所有していることが望ましい。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	国語表現 I			担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		
【目的とねらい】 ・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定） 【 到達目標 】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)			第9回 文章力を身につける①（レポートの書き方） 【 到達目標 】 ・構成について学ぶ。 【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語） 【 到達目標 】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする。(4.0hr)			第10回 文章力を身につける②（成文化） 【 到達目標 】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法） 【 到達目標 】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる。(4.0hr)			第11回 文章力を身につける③（接続詞） 【 到達目標 】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙） 【 到達目標 】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)			第12回 文章力を身につける④（文構造） 【 到達目標 】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)			
第5回 国語力（知識）を身につける④（手紙・メール） 【 到達目標 】 ・手紙のマナーや書き方について理解を深める。 ・Eメールのマナーや書き方について理解する。 【授業時間外学習】 実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)			第13回 文章力を身につける⑤（反論） 【 到達目標 】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。 【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)			
第6回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解） 【 到達目標 】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。 【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)			第14回 文章力を身につける⑥（修正） 【 到達目標 】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。 【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第7回 読解力を身につける②（要約） 【 到達目標 】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約を試みる。(4.0hr)			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 読解力を身につける③（根拠の検討、分析） 【 到達目標 】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析を試みる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】 教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀岳彦		
英文名	English I (Elementary)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107			
【目的とねらい】 この授業では英語の基礎を確認・再学習し、その応用演習を行う。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を復習・確認する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて英語になじむための活動や、各自がこれから自立して英語を学習していけるようになるための演習を取り入れる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			第9回 英語基礎総合演習④ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習① 【 到達目標 】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第10回 英語基礎総合演習⑤ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第3回 英語基礎総合演習② 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第11回 英語基礎総合演習⑥ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第4回 英語基礎総合演習③ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第12回 英語基礎総合演習⑦ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第5回 英語基礎総合演習④ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第13回 英語基礎総合演習⑧ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第6回 英語基礎総合演習⑤ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第14回 英語基礎総合演習⑨ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第7回 英語基礎総合演習⑥ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第15回 英語基礎総合演習⑩ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)				
第8回 英語基礎総合演習⑦ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。							
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。							

科目名	英語 I (初級)			担当者	篠原結城	
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導も取り入れる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどうような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得① 【到達目標】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得② 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。(4.0hr)			
第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回返信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンラインの場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	カーリン 清佳	
英文名	English I (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。 受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)			第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 Introduction 英語総合演習① 【到達目標】 受講にあつての留意点・学習の進め方を理解する。 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第10回 英語総合演習⑩ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語総合演習② 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第11回 英語総合演習⑪ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語総合演習③ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第12回 英語総合演習⑫ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語総合演習④ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第13回 英語総合演習⑬ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語総合演習⑤ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第14回 英語総合演習⑭ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語総合演習⑥ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第15回 英語総合演習⑮ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)			
第8回 英語総合演習⑦ 【到達目標】 演習を通じて、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀岳彦	
英文名	English II (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、英語の理解力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立して英語を学習していけるようになるための演習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業説明および英語総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていきけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)			第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第2回 英語総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第10回 英語総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第3回 英語総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第11回 英語総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第4回 英語総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第12回 英語総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第5回 英語総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第13回 英語総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第6回 英語総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第14回 英語総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			
第7回 英語総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)			第15回 英語総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。(4.0hr)			
第8回 英語総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	篠原結城	
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていくようになるための学習指導も引き続き行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上① 【到達目標】 受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上② 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。(4.0hr)			
第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧ 【到達目標】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限内で提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	カーリン 清佳	
英文名	English II (Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introduction 英語演習① 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第9回 英語演習⑨ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第2回 英語演習② 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第10回 英語演習⑩ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第3回 英語演習③ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第11回 英語演習⑪ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第4回 英語演習④ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第12回 英語演習⑫ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第5回 英語演習⑤ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第13回 英語演習⑬ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第6回 英語演習⑥ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第14回 英語演習⑭ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			
第7回 英語演習⑦ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)			第15回 英語演習⑮ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。(4.0hr)			
第8回 英語演習⑧ 【到達目標】 演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーションおよび学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、各種のレポート・課題50%から評価する。						

科目名	国語表現Ⅱ			担当者	高橋 良久・並木真理子 石元みさと	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		
【目的とねらい】 ・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 ・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定） 【 到達目標 】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)			第9回 アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方） 【 到達目標 】 ・構成について学ぶ。 ・構成メモ（設計図）を書く。 【授業時間外学習】 新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)			
第2回 国語力（知識）を身につける①（敬語） 【 到達目標 】 ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。 ・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。 【授業時間外学習】 日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする。(4.0hr)			第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化） 【 到達目標 】 ・根拠や理由で主張に肉付けする。 ・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。 【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第3回 国語力（知識）を身につける②（文法） 【 到達目標 】 ・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。 ・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。 【授業時間外学習】 テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる。(4.0hr)			第11回 文章力を身につける①（接続詞） 【 到達目標 】 ・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。 ・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使うようにする。 【授業時間外学習】 新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)			
第4回 国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙） 【 到達目標 】 ・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。 ・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。 【授業時間外学習】 SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)			第12回 文章力を身につける②（文構造） 【 到達目標 】 ・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。 ・修飾語について理解する。 【授業時間外学習】 新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)			
第5回 読解力を身につける①（文章整序・長文読解） 【 到達目標 】 ・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。 ・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。 【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)			第13回 文章力を身につける③（反論） 【 到達目標 】 ・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。 【授業時間外学習】 他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)			
第6回 読解力を身につける②（専門的な文章を読む） 【 到達目標 】 ・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 【授業時間外学習】 新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)			第14回 文章力を身につける④（修正） 【 到達目標 】 ・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。 【授業時間外学習】 書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)			
第7回 読解力を身につける③（要約） 【 到達目標 】 ・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。 ・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。 【授業時間外学習】 新聞記事などの興味がある文章についても要約を試みる。(4.0hr)			第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 読解力を身につける④（根拠の検討、分析） 【 到達目標 】 ・文章中の事実と意見を区別できるようにする。 ・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。 【授業時間外学習】 教科書や論文などの文章についても分析を試みる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること（電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨）。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。資料のPDFや授業動画を配布・配信する。						
【教科書・参考書など】 教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。 参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド：大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織【ほか】著（大修館書店）2020年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40% 【オンライン授業の場合】 毎回の提出物60%、試験課題40%						

科目名	栄養学入門			担当者	古泉 佳代・大村 恵利	
英文名	Primary Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		
【目的とねらい】 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス・食生活と社会環境 【 到達目標 】 (1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。 (2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。 【授業時間外学習】 毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第9回 食生活と健康⑨食生活と健康 【 到達目標 】 (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウェイトコントロールを考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 食を取り巻く環境の変化 【 到達目標 】 (1)フードシステムの複雑化にもよって生じている食生活の課題を認識する。 【授業時間外学習】 食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第10回 食生活と健康⑩たんぱく質 【 到達目標 】 (1)たんぱく質の種類、代謝を理解できる。 (2)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 食料の供給と課題 【 到達目標 】 (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取組みの現状を把握する。 【授業時間外学習】 フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第11回 食生活と健康⑪ビタミン・ミネラル・水 【 到達目標 】 (1)ビタミン・ミネラルの種類、代謝を理解できる。 (2)水の出納を理解できる。 (3)ビタミン、ミネラル、水の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析 【 到達目標 】 (1)食品由来の有害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその有害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。 【授業時間外学習】 食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第12回 食生活と健康⑫食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度 【 到達目標 】(1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。 (3)飲み物の糖度について理解できる。 (4)糖質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 健康により根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度 【 到達目標 】 (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第13回 食生活と文化⑬食物のおいしさ 【 到達目標 】 (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 (2)おいしさの要因を理解することができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 食生活と健康⑬食物と栄養(栄養バランス) 【 到達目標 】 (1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第14回 食生活と文化⑭日本の食文化・共食の現代的課題 【 到達目標 】 (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。 (2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 食生活と健康⑭炭水化物 【 到達目標 】 (1)炭水化物の種類、代謝を理解できる。 (2)炭水化物の種類を理解することができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第15回 食育とフード・リテラシー 【 到達目標 】 (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)			
第8回 食生活と健康⑮食物と栄養(脂質) 【 到達目標 】 (1)脂質の種類、代謝を理解できる。 (2)脂質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 教科書を見直ししながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけでなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。講義内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。パワーポイントを利用した動画は、本来の授業が予定されている日時の9時に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする。受講生は、教科書で単語や事例を確認しながら動画を視聴するとともに、同時に配信される作業資料を用いて、自分自身の食生活を振り返りながら受講することが大切である。授業動画の視聴後はPhollyのアンケート機能を用いて、授業内容の振り返りを行う。出席はPhollyの課題の提出で確認し、回答内容から、理解度の確認を行う。						
【教科書・参考書など】 教科書 編著者 金子佳代子・松島悦子「白熱教室 食生活を考える」(アイ・ケイコーポレーション出版) 参考資料は、適宜配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は80%、レポート(1題)の評価を20%として、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 各授業回の課題と、レポート(2題)で評価する。各授業回の総合評価を60%、レポート評価を40%とし、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。						

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		
【目的とねらい】						
<p>生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション・概論 【到達目標】 授業の進め方、生理学・生化学の学問領域を理解する。 日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第9回 エネルギー代謝 【到達目標】 3つのエネルギー代謝の仕組み(ATP-PCr系、解糖系、有酸素系)について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 筋(1) 【到達目標】 筋の種類・微細構造、筋収縮様式を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第10回 ホルモン 【到達目標】 運動や食事に伴うホルモン応答とその作用について理解する。 ホルモンの性差について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 筋(2) 【到達目標】 骨格筋の損傷・痛み、トレーニングによる変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第11回 血液 【到達目標】 血液の成分・役割・運動による変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 神経 【到達目標】 運動による中枢・末梢神経系の応答、反射について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第12回 骨 【到達目標】 骨の構造・代謝・測定法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 呼吸(1) 【到達目標】 呼吸器系の構造・機能、酸素輸送について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第13回 脂肪 【到達目標】 脂肪の種類・代謝・測定法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 呼吸(2) 【到達目標】 最大酸素摂取量の意味・有用性・測定法について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第14回 環境生理 【到達目標】 暑熱・低酸素・無重力環境に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 循環(1) 【到達目標】 心臓・血管系の構造と機能を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第15回 運動時における生理応答 【到達目標】 実際の運動時に生じる様々な生理学・生化学的変化の相互作用を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 循環(2) 【到達目標】 自律神経系による循環機能の調節を理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料の提示、学生による生理学的測定などを行い、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。本講義の理解のためには、講義内容を自身の運動経験や専門スポーツ種目に置き換え、具体例を思い浮かべることが大切である。講義終了時にレポート作成、および翌回講義開始時に小テストを行う。その後の講義内において、これらのフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド形式とする。授業開始時間までに、各回の穴埋め形式の資料、音声入りパワーポイント動画、実験動画などをポータルサイトのGoogle Drive上にアップロードする。出席は各回の課題(復習問題、感想・質問など)の提出により確認する。						
【教科書・参考書など】						
特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「生化学」「解剖学」に関する書籍を参考にすることは講義の理解を深める。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 講義各回での発言・レポートを20%、筆記試験の結果(試験は試験期間中に別途実施)を80%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 講義各回での課題を50%、最終レポート課題を50%として総合的に評価する。(状況により筆記試験が可能な場合は、最終レポート課題でなく、筆記試験を実施する。)						
いずれの場合も合格基準は60%である。						

科目名	近現代史入門			担当者	山本唯人	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		
【目的とねらい】 「壊れやすい」けれど、「開かれた」社会ができるまで一新・近現代史入門 いまの社会は、多様なひとびとの参加に「開かれている」という特徴を持っています。それは、外に「開かれている」がゆえに、かたちを変えやすく、今あるものは壊れていく社会でもあります。「昔」はそうではありませんでした。日本は外国に対して「閉じて」いて、それゆえに、長く安定した時代が続きました。みなさんにとって、どちらの方が「よい」社会ですか？わたしたちが生きる「近現代」の社会は、壊れやすいけれど、多様なものに開かれた社会です。なぜ、どのようにそんな社会ができたのか？この質問を出発点に、日本の近現代史を学んでいきます。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 この講義のテーマ、進め方、評価方法などを説明します。受講を希望する方は必ず出席してください。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第9回 議会の開設 (1) 自由民権運動 【 到達目標 】 ひとびとに「開かれた政治」のコアにあるのが議会です。議会が誰がどのように作ったのか、自由民権運動からの流れを学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 「現代」はいつからかーワークショップ 【 到達目標 】 「現代」はいつからかをテーマにしたワークショップを開催します(教員の出題するテーマを授業中に考えワークシートに答えを書き出して共有します)。歴史学習のイメージをつかんで下さい。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第10回 議会の開設 (2) 大日本帝国憲法の成立 【 到達目標 】 議会の開設を定めた法が、大日本帝国憲法です。「開かれた政治」をつくるという視点から日本で最初の憲法を読み直しましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 幕末・維新のはじまりー喜望峯から見た風景 【 到達目標 】 それまで鎖国で「閉じて」いた日本が、どのように「開かれた社会」に移行したか、世界の目線から見ていきます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第11回 日露戦争と日比谷焼き討ち事件 【 到達目標 】 すべての成人に選挙権を与える制度が普通選挙です。日本ではアジア太平洋戦争後の日本国憲法で成立しましたが、その出発点は日露戦争後の日比谷焼き討ち事件にさかのぼると言われます。原点を見ることで、人びとの側からの普通選挙の理由を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 資料を読むー『ペリー提督日本遠征記』 【 到達目標 】 歴史を学ぶとは、資料からその時代を生きたひとの声を読み取ることです。実際にやってみましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第12回 普通選挙のはじまる (2) 第一次世界大戦と米騒動 【 到達目標 】 普通選挙をもたらした次の大きなインパクトは米騒動です。民主化の原動力という視点で米騒動を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 黒船来航 (1) 黒船と交渉したひと 【 到達目標 】 黒船が「来た」ことは知っていても、黒船と「交渉したひと」を知っている人は少ないでしょう。そのひとの姿勢・ふるまいから社会の「開き方」を学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第13回 アジア太平洋戦争の前とあと (1) 【 到達目標 】 アジア太平洋戦争について学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 黒船来航 (2) 国際法の二重構造 【 到達目標 】 日本は「開国」はしましたが、戦争はしませんでした。世界には「法」があるという視点からその理由を考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第14回 アジア太平洋戦争の前とあと (2) 日本国憲法 【 到達目標 】 日本国憲法について学びます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 開国への道 (1) 【 到達目標 】 開くべきか、そうでない方がよいか。なぜ「開く」という意見が有力になったのかを、幕府内部の議論を参考に考えます。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			第15回 まとめ 【 到達目標 】 全体をふりかえります。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 開国への道 (2) 日米和親条約 【 到達目標 】 国を「開いた」結果、どうなったのか。日米和親条約の条文を読みながら、確かめましょう。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直ししながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 聞く、考える、書くをもう一つのテーマとして授業をすすめます。毎回の授業で提供されるテーマについて、その場で集中的に聞き、考え、その結果を書き、表現するトレーニングを重ねます。授業のはじめに前回の話題をフィードバックし、ふりかえりの時間を持つので、その時間にこれまでの学習をふりかえってください。入門の講義なので予備知識はいりません。「歴史」「日本」などのテーマに関心のあるみなさんの参加を歓迎します。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。テーマは同じですが、オンラインの講義と、みなさまから出していただくワークシートを通じてやりとりします。ワークシートは負担が重くなりすぎないように配慮します。						
【教科書・参考書など】 教科書は特にありません。毎回資料を配ります。参考書は随時教えます。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ワークシートと期末レポートで評価します。ワークシート40% (2回程度を予定)、期末レポート60%で評価します。 【オンライン授業の場合】 ワークシート40%、期末レポート60%で評価するのは同じです。教室でやりとりできない分、ワークシートの回数が4~5回程度に増えます。						

科目名	人間心理の理解			担当者	三好昭子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104		
【目的とねらい】 本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえているのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものを見方を幅広く修得する。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 心理学とは 【到達目標】 (1)心理学の定義を理解する。 (2)人間心理を科学的に研究するということを理解する。 【授業時間外学習】 心理学という学問についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第9回 パーソナリティ③構造論 【到達目標】 (1)フロイトの構造論について理解する。 (2)レヴィンの構造論について理解する。 【授業時間外学習】 構造論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第2回 感覚・知覚 【到達目標】 (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。 【授業時間外学習】 人間の感覚・知覚についての理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第10回 防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解 【到達目標】 (1)防衛機制に基づく個人差について理解する。 (2)投影法を実施し、自己分析する。 【授業時間外学習】 防衛機制に基づく個人差と投影法の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第3回 対人認知・印象形成 【到達目標】 (1)対人認知について理解する。 (2)印象形成について理解する。 【授業時間外学習】 対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第11回 知能とは何か 【到達目標】 (1)知能の定義について理解する。 (2)知能テストについて理解する。 【授業時間外学習】 知能と知能テストの理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第4回 態度変容 【到達目標】 (1)態度変容に影響を与える要因について理解する。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。 【授業時間外学習】 態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)			第12回 知能の発達 【到達目標】 (1)行動遺伝学について理解する。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。 【授業時間外学習】 知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)			
第5回 グループダイナミクス(集団力学) 【到達目標】 (1)向社会的行動(思いやり)について理解する。 (2)他者への同調・服従について理解する。 (3)他者への同調・服従がまねく危険性について考える。 【授業時間外学習】 向社会的行動や同調・服従の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第13回 アイデンティティとは 【到達目標】 (1)アイデンティティとは何かを理解する。 (2)自分のアイデンティティについて自己洞察を深める。 【授業時間外学習】 アイデンティティについての理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第6回 恋愛 【到達目標】 (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 恋愛の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第14回 アイデンティティからの人間理解 【到達目標】 (1)アイデンティティを求める人間の傾向について理解する。 (2)アイデンティティから社会問題を理解する。 (3)アイデンティティから恋愛を理解する。 【授業時間外学習】 アイデンティティ概念の応用に関する課題を行う。(4.0hr)			
第7回 パーソナリティ①類型論 【到達目標】 (1)クレッチマーの類型論について理解する。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 類型論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			第15回 アイデンティティを超えて 【到達目標】 (1)自我感覚の拡大について理解する。 (2)アドラーの共同体感覚について理解する。 (3)真の自己実現について理解する。 【授業時間外学習】 自己実現の理解に関する課題を行う。(4.0hr)			
第8回 パーソナリティ②特性論 【到達目標】 (1)共通特性について理解する。 (2)ギルフォードの特性論について理解する。 (3)Big Fiveについて理解する。 【授業時間外学習】 特性論の理解に関する課題を行う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなったり、グループワークをおこなう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業動画は授業日の前日に、本学ポータルサイトの Google Drive 上にアップロードし、ポータルサイトから配信する。資料は授業の前日まではPhollyの「参考資料」にアップロードする。資料をプリントアウトし、実際の教室での授業のように、ノートを作ることができる体勢で受講すること。出席は、Phollyの「アンケート課題」の提出によって確認する。次回の授業動画で「アンケート課題」の解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し、自己分析をおこなう。学んだことを日々の生活に活かせるよう考えながら受講することが求められる。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：『心理学 こころと行動のメカニズムを探る』越智啓太・著（樹村房 2012）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 Phollyの「アンケート課題」30%、期末テストの結果（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。 【オンライン授業の場合】 Phollyの「アンケート課題」50%、最終レポート試験50%、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	ボランティア活動論			担当者	森田 恵	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105		
【目的とねらい】 2021年の東京オリンピック・パラリンピック、2022年ワールドマスターズゲームズ2022関西と、大会の成否に影響を与えると言われるボランティアの存在に注目が集まっている。また、気候変動や貧困など地球規模の課題解決においても一人ひとりの取り組みが求められている。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。最終的に実際にボランティア活動を計画、体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方） 【 到達目標 】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。(4.0hr)			第9回 スポーツボランティア活動の基礎知識 【 到達目標 】 (1)スポーツボランティアの定義と分類、具体的なスポーツボランティア活動を知る。 (2)スポーツボランティアの現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			
第2回 ボランティア活動の役割と背景 【 到達目標 】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第10回 障がい者スポーツボランティアと共生社会 【 到達目標 】 (1)障がい者スポーツの現状と課題を理解する。 (2)障がい者スポーツイベントボランティアを通じて、共生社会について考察する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			
第3回 市民と市民社会 【 到達目標 】 (1)市民および市民社会について理解を深める。 (2)望ましい市民社会の姿を自分なりにイメージする。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第11回 災害救援ボランティア 【 到達目標 】 (1)災害救援ボランティア活動の概要について理解する。 (2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について考察する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			
第4回 社会課題① スマホから考えるSDGs 【 到達目標 】 (1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。 (2)なぜSDGsが必要なのか、どのような仕組みなのかを考察する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第12回 企業の社会貢献活動 【 到達目標 】 (1)企業における社会貢献活動の概要について理解する。 (2)自身のキャリア形成におけるボランティア活動の位置づけを考察する。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			
第5回 社会課題② 児童労働から考える子どもの権利 【 到達目標 】 (1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。 (2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分の行動について考える。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第13回 ボランティア活動計画書の作成 【 到達目標 】 (1)これまで学修した様々なボランティア活動を整理し、情報収集源を獲得する。 (2)個別のボランティア活動体験のための計画書を作成する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)			
第6回 社会課題③ 課題解決としてのフェアトレード 【 到達目標 】 (1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する。 (2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分の行動について考える。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第14回 ボランティア活動体験と振り返り 【 到達目標 】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り、検証する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。(4.0hr)			
第7回 社会課題④ 子どもの貧困と地域の取り組み 【 到達目標 】 (1)日本における子どもの貧困の状況について理解する。 (2)地域の取り組み事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)			第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出 【 到達目標 】 (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動レポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 社会を支え・変えるNPO/NGO 【 到達目標 】 (1)NPO/NGOについて概要を理解する。 (2)NPO/NGOの活動事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 授業内で指示された課題を行い、気になったキーワードについて調べる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、木曜日の9時に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の日曜17時まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験（各自）、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。						
【教科書・参考書など】 資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の課題提出を毎回評価し、授業終了時のボランティア活動レポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を50%、ボランティア活動レポート評価を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	日常生活の社会学			担当者	田北康成		
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106			
【目的とねらい】 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。 (3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」という国の好きなど、きれいなところを考えておく。(4.0hr)				第9回 グローバル社会とエスニシティ (1) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)			
第2回 社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか 【 到達目標 】 (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 【授業時間外学習】 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)				第10回 グローバル社会とエスニシティ (2) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」の好きなど、きれいなところをまとめておく。(4.0hr)			
第3回 社会で生きる「私」と家族 【 到達目標 】 相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。 「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。 家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)				第11回 グローバル社会とエスニシティ (3) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)海外にルーツをもつ隣人とのように共生していくか、考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：海外に旅行／移住／留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)			
第4回 性の多様なあり方を考える 【 到達目標 】 (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解けるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)				第12回 グローバル社会とエスニシティ (4) 【 到達目標 】 (1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。 (2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。 (3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：「国境」と往來の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
第5回 社会で生活するための社会学—労働・産業・消費— 【 到達目標 】 (1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。 (2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：子どもの時になりたかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)				第13回 「宗教」から社会をとらえる 【 到達目標 】 (1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。 (2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
第6回 「格差」の社会学 【 到達目標 】 (1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。 (2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：どのくらいの給料ならば満足できるかを考えておく。(4.0hr)				第14回 社会の中のメディア メディアが動かす社会 【 到達目標 】 (1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。 (2)それぞれのメディアがどのように情報を媒介し、コミュニケーションを成立させているかの理解を深める。 【授業時間外学習】 予習課題：「評判」や「ロコミ」と、自分の判断とどちらを大事にするか、まとめておく。(4.0hr)			
第7回 生活空間としての地域社会について考える (1) 【 到達目標 】 (1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。 (2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。 【授業時間外学習】 予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)				第15回 逸脱行動と社会問題・犯罪社会学 【 到達目標 】 (1)「自由」「権利」とは何か、なぜ「秩序」が作られ、「逸脱行動」が非難されるかを考える。 (2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)			
第8回 生活空間としての地域社会について考える (2) 【 到達目標 】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)コミュニティの繋がり、協力態勢について、主体的な居住者として考えられるようにする。 【授業時間外学習】 予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Pholly上でレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のよから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に紹介したり、回答したりすることがある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンドで実施する場合の授業内容（各授業回の動画と動画内で使用するパワーポイント資料）については、Phollyを通して配信・配布する。煩雑さを避けるために、メールでの公開の告知は省略するが、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日授業開始1時間前に本学ポータルサイトPholly上で公開することとし、翌週同一曜日正午まで掲載するので、その期間に視聴、課題提出を行ってほしい。							
【教科書・参考書など】 教科書は不使用。 参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。 ①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』見洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 予習課題に連動した毎回のレスポンスシート（40％）と、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテスト（60％）との総合点で評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。 【オンライン授業の場合】 レスポンスシート（100％）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しない）。合格基準はいずれも60％である。							

科目名	数と論理				担当者	水野有希	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107			
【目的とねらい】 これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻りに出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 計算の基礎1、整数の基礎 【 到達目標 】 (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)				第9回 比と割合 【 到達目標 】 (1) 比について復習する。 (2) 利益算について学ぶ。 (3) 濃度算について学ぶ。 【授業時間外学習】 百分率や歩合の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第2回 計算の基礎2、平方根 【 到達目標 】 (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 実数および平方根の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第10回 速さ 【 到達目標 】 (1) 速さ、時間について復習する。 (2) 通算算、流水算について学習する。 【授業時間外学習】 速さの公式や計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第3回 方程式1 【 到達目標 】 (1) 1次方程式、連立方程式について復習する。 (2) 2次方程式について復習する。 【授業時間外学習】 方程式の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第11回 特殊算 【 到達目標 】 (1) 鶴亀算について復習する。 (2) 集合算について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第4回 方程式2 【 到達目標 】 (1) 2次方程式の応用問題を学ぶ。 (2) 不等式について学ぶ。 【授業時間外学習】 方程式の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第12回 場合の数と確率 【 到達目標 】 (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。 【授業時間外学習】 順列と組み合わせの公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第5回 関数1 【 到達目標 】 (1) 比例と反比例について学ぶ。 (2) 1次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 1次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第13回 図形の基本 【 到達目標 】 (1) 図形の性質について学ぶ。 (2) 図形の体積と表面積について学ぶ。 【授業時間外学習】 図形の種類や計算式の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第6回 関数2 【 到達目標 】 (1) 2次関数について学ぶ。 (2) 平方完成について学ぶ。 【授業時間外学習】 2次関数の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第14回 平行線と角、円周角、合同と相似 【 到達目標 】 (1) 合同と相似について復習する。 (2) 平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。 【授業時間外学習】 合同と相似の定義の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第7回 関数3 【 到達目標 】 (1) 関数の領域(不等式)について学ぶ。 (2) 関数の応用について学ぶ。 【授業時間外学習】 関数の領域(不等式)の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)				第15回 命題と推論 【 到達目標 】 (1) 命題とは何かを理解する。 (2) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 命題の対偶について予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)			
第8回 数列 【 到達目標 】 (1) 等差数列、等比数列について理解する。 (2) 数列の応用問題について学ぶ。 【授業時間外学習】 数列の公式および計算の予習、返却された課題の復習をする。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に理解度の確認のため、15～20分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。 【対面授業の場合】 講義は指定の教室で実施します。毎回授業時に授業テキストと解答用紙を配布し、確認課題の解答用紙を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料は授業テキスト、解説動画、確認課題のフォームとし、対面授業のスケジュールに従い、授業日前日までに授業テキストを、当日の9:00に解説動画と確認課題のフォームを本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に確認課題を提出し、出席は各授業の確認課題の提出によって確認します。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行う確認課題50%、期末試験50%(試験は試験期間中に別途実施)として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくる)は、いかなる理由であっても認めません。 【オンライン授業の場合】 毎回行う確認課題(第1回～第14回)50%、確認試験(試験は第15回授業の後に実施)50%として評価します。確認課題や確認試験は、指定された期日までに提出してください。							

科目名	現代の倫理				担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108			
【目的とねらい】 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしへの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあつて、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき 【 到達目標 】 倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)				第9回 環境倫理：未来に対する責任 【 到達目標 】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第2回 「善」とは何かという問：定義 【 到達目標 】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【 到達目標 】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第3回 普遍化可能性1：社会契約 【 到達目標 】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第11回 生命倫理1：人間の尊厳 【 到達目標 】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第4回 普遍化可能性2：自由意志 【 到達目標 】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第12回 生命倫理2：生殖医療 【 到達目標 】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【 到達目標 】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【 到達目標 】 科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第6回 功利の原理(2)：他者危害の原則 【 到達目標 】 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第14回 倫理的相対主義 【 到達目標 】 倫理的相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第7回 正義：自由と平等 【 到達目標 】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差(是正)原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)				第15回 規範なき時代とニヒリズム 【 到達目標 】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)			
第8回 自然と文明：道具的理性批判 【 到達目標 】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。各回の主題に沿って原的に考えることを求めますが、事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に明記された各ファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回の期日内の課題の提出をもってカウントします。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出課題50%、定期試験50%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	日常生活の法律				担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109			
【目的とねらい】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【 到達目標 】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)				第9回 家族と法律③ 【 到達目標 】 (1) 実際の親子関係不存確認訴訟の事例について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存確認訴訟(2014年7月17日)に関する新聞記事をコピーする。(4.0hr)			
第2回 アルバイトと法律① 【 到達目標 】 (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)				第10回 表現物と法律① 【 到達目標 】 (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。 【授業時間外学習】 実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)			
第3回 アルバイトと法律② 【 到達目標 】 (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。 【授業時間外学習】 ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)				第11回 表現物と法律② 【 到達目標 】 (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。 【授業時間外学習】 著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr)			
第4回 恋愛関係と法律① 【 到達目標 】 (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)				第12回 ペットの飼育と法律① 【 到達目標 】 (1) 法律における「ペット」の位置づけを理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。 【授業時間外学習】 遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)			
第5回 恋愛関係と法律② 【 到達目標 】 (1) DV防止法について理解する。 【授業時間外学習】 DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				第13回 ペットの飼育と法律② 【 到達目標 】 (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。 【授業時間外学習】 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)			
第6回 恋愛関係と法律③ 【 到達目標 】 (1) リベンジポルノ防止法について理解する。 【授業時間外学習】 リベンジポルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)				第14回 人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方 【 到達目標 】 (1) 日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。 (2) 取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。 【授業時間外学習】 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)			
第7回 家族と法律① 【 到達目標 】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 夫婦に関する法的問題について理解する。 【授業時間外学習】 婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr)				第15回 日々の暮らしと法律 【 到達目標 】 (1) マンションをめぐる法的問題について理解する。 (2) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)			
第8回 家族と法律② 【 到達目標 】 (1) 法的な親子関係の発生について理解する。 (2) 嫡出否認や親子関係不存確認訴訟について理解する。 【授業時間外学習】 嫡出否認と親子関係不存確認との違いを整理する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリントと補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけでなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、配布したプリントや補足資料を予習・復習として熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料及び復習課題である。配信は、対面授業が設定されている日の前日に行い、その日を起点として7日間、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする。各回の出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 期末試験の結果100%で評価する(良好な出席状況は、当然の前提です)。試験は試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。							

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋信勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		
【目的とねらい】						
<p>目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 経済学への誘い（1） 【 到達目標 】 市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。（4.0hr）			第9回 有効需要論（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。（4.0hr）			
第2回 経済学への誘い（2） 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。（4.0hr）			第10回 IS-LM分析（1） 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。（4.0hr）			
第3回 企業と経済 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。（4.0hr）			第11回 IS-LM分析（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。（4.0hr）			
第4回 GDPと三面等価の原則 【 到達目標 】 ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。（4.0hr）			第12回 国際収支と為替レート（1） 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。（4.0hr）			
第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。（4.0hr）			第13回 国際収支と為替レート（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。（4.0hr）			
第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。（4.0hr）			第14回 戦後の日本経済 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。（4.0hr）			
第7回 インフレとデフレ 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。（4.0hr）			第15回 授業の総復習と問題演習 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。（4.0hr）			
第8回 有効需要論（1） 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。（4.0hr）						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書し、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生は筆記ノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。 【オンライン授業の場合】 授業はオンデマンド方式とする。コンテンツは、対面授業の配置曜日の前日までに本学のポータルサイトにアップロードする。コンテンツは1週間後に消去する。出席回数は、ポータルサイトを介した各授業回のワークシートあるいはミニレポートの提出をもって、確認する。※詳細は初回授業時に説明する。						
【教科書・参考書など】						
教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 問題演習（30%）と期末試験（70%）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回のワークシートあるいはミニレポート（80%）と、期末レポート（20%）にもとづいて評価する。 対面とオンラインのいずれの形式においても、単位付与の基準は60%である。※詳細は初回授業時に説明する。						

科目名	英語EAPI			担当者	加賀岳彦	
英文名	English for Academic Purposes I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201		
【目的とねらい】 この授業では、大学生・社会人向けの学術的内容の英文や新聞・ネット記事等の英文の理解力の向上を目的とする。授業では次の3点が重視される。(1)語彙・語法の知識を増やす、(2)多様な英文の構造を的確に見抜く文法力と意味の構造を論理的に見抜く思考力を養成する、(3)さまざまな内容の英文に対応できるリテラシー・社会教養・国際教養を拡充する。授業では授業担当者による解説を十分に行う。語学の授業ではあるが、語学にとどまらず受講生の「知」に役立つ内容を豊富に盛り込む。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introduction 【到達目標】 授業の進め方・学習の仕方を理解する。 授業担当者が提示する英語初期演習を行う。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)			第9回 Competition Vs. Cooperation (1) 【到達目標】 文脈におけるPositive / Negativeを判別する。 テキストに出てきた英語の「比喩的表現」を理解する。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			
第2回 The Benefits of Small Government (1) 【到達目標】 雑多な情報に留意しながら、英文の中心的内容・本質的主張が把握できるようになる。 表面的内容のさらに奥に潜在する「因果関係」を見抜く演習をする。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			第10回 Competition Vs. Cooperation (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 英文の修辞としての“contrast”の重要性を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)			
第3回 The Benefits of Small Government (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 「多義」を判別する練習を行う。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)			第11回 Productivity & Efficiency (1) 【到達目標】 データをを用いた英文の論理構造を見抜く。 英語としてはsimpleであるが学習者には時に難しい英文を理解する。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			
第4回 Social Class (1) 【到達目標】 決して明示的ではなく整理もされていない情報からstoryを見抜けるようになる。 明示的ではない「暗示的」な表現・英文からその豊かな含意を読み取る練習を行う。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			第12回 Productivity & Efficiency (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 指定されたshort readingを行う。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)			
第5回 Social Class (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 指定されたshort readingを行う。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)			第13回 The “Third Place” (1) 【到達目標】 比較的口語的要素を含む説明文を理解する。 英語としてはsimpleであるが学習者には時に難しい英文を理解する。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			
第6回 Diversity (1) 【到達目標】 提示された細部の情報をひとつひとつ的確に理解していく練習を行う。 文脈におけるPositive / Negativeの判別の練習を行う。 【授業時間外学習】 同章のVocabulary Sectionを予習する。(4.0hr)			第14回 The “Third Place” (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 【授業時間外学習】 第9回以降の総復習を行う。(4.0hr)			
第7回 Diversity (2) 【到達目標】 前回の復習を行う。 各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。 指定されたshort readingを行う。 【授業時間外学習】 ここまでの総復習を行う(4.0hr)			第15回 総復習 【到達目標】 第9回以降の3章分の総復習を行い、理解度・習熟度を見る。 【授業時間外学習】 総復習から見えてきた各自の課題点をもう一度復習する。(4.0hr)			
第8回 総復習 【到達目標】 ここまでの3章分の総復習を行い、理解度・習熟度を見る。 【授業時間外学習】 テキストの次章を予習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・予習なしで受講するのと、予習をした上で受講するのでは、その学習効果・理解度には格段の差が出る。 ・辞書を必ず用意すること（電子辞書可）。 ・学習の「継続」が鍵となる。 【オンライン授業の場合】 上記の内容を、オンデマンド形式で受講し、毎回課題を提出することになる。						
【教科書・参考書など】 ・この授業用のハンドアウトを用意する。（オンライン授業の場合は、ハンドアウトを配信もしくは郵送する。） ・参考書等は適宜、指示・紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・平常点（出席・授業内活動など）50%、期末試験50%で判断する。 【オンライン授業の場合】 ・平常点（出席）50%、オンライン提出課題50%で判断する。						

科目名	英語EGCI			担当者	Mensto Flameling	
英文名	English for General Communication I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		
【目的とねらい】 This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus(4.0hr)			第9回 Regular and Current Activities 【到達目標】 Practising present tenses 【授業時間外学習】 Review present tense usage(4.0hr)			
第2回 Asking / Answering Questions 【到達目標】 Practising question / answer format 【授業時間外学習】 Review question sentence grammar(4.0hr)			第10回 Presentations: Invitations 【到達目標】 Discussing schedules 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
第3回 Likes and Dislikes 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar 【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar(4.0hr)			第11回 Part-time Work 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary(4.0hr)			
第4回 Presentations: Likes and Dislikes 【到達目標】 Discussing preferences 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			第12回 Duties and Working Conditions 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary(4.0hr)			
第5回 Family 【到達目標】 Practising family vocabulary 【授業時間外学習】 Preview family vocabulary(4.0hr)			第13回 Presentations: Part-time Work 【到達目標】 Discussing part-time work 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
第6回 People 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary 【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary(4.0hr)			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第7回 Preparations for Presentations: Family 【到達目標】 Gathering and organising information 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第8回 Presentations: Family 【到達目標】 Discussing family 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English. 【オンライン授業の場合】 This class will be conducted in English and <u>online</u> . To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read</u> and <u>try to understand the weekly updates</u> and <u>check the teaching materials</u> I will send.						
【教科書・参考書など】 Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30% 【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%						

科目名	英語EAPⅡ			担当者	カーリン 清佳	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		
【目的とねらい】 この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1） 【到達目標】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第9回 英文読解演習（9） 【到達目標】 プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第2回 英文読解演習（2） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 パラグラフの構造を確認する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第10回 英文読解演習（10） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第3回 英文読解演習（3） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 パラグラフ間の関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第11回 英文読解演習（11） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第4回 英文読解演習（4） 【到達目標】 パラグラフ間の関係を理解する。 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第12回 英文読解演習（12） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第5回 英文読解演習（5） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第13回 英文読解演習（13） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの原稿を作成する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第6回 英文読解演習（6） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第14回 英文読解演習（14） 【到達目標】 プレゼンテーションを行う。相互・自己評価も行う。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			
第7回 英文読解演習（7） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）			第15回 英文読解演習（15） 【到達目標】 論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり返りを行う。 今後の学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。（4.0hr）			
第8回 英文読解演習（8） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの原稿を作成する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーションの課題に関して意見を構築し、発表すること。 【オンラインの場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。担当教員の指示に従い、テキストおよび毎回配信される資料・動画を通じて指定された事項を学習し、レポート・課題を期限まで提出すること。提出されたレポート・課題は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。						
【教科書・参考書など】 プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験40%で評価します。 【オンラインの場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	英語EGCⅡ			担当者	Mensto Flameling	
英文名	English for General Communication Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		
【目的とねらい】 This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【 到達目標 】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus(4.0hr)			第9回 The City 【 到達目標 】 Practising giving / receiving directions 【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary(4.0hr)			
第2回 Questions about Past Experiences 【 到達目標 】 Practising past tense questions / answers 【授業時間外学習】 Review past tense(4.0hr)			第10回 Presentations: My Home 【 到達目標 】 Discussing living space 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
第3回 A Holiday in Florida 【 到達目標 】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary(4.0hr)			第11回 School 【 到達目標 】 Previewing school-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary(4.0hr)			
第4回 Presentations: Holidays 【 到達目標 】 Discussing a past experience 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			第12回 Presentations: School 【 到達目標 】 Discussing School 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			
第5回 Countries and Their Kitchens 【 到達目標 】 Practising food-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary(4.0hr)			第13回 Reading a Story 【 到達目標 】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation(4.0hr)			
第6回 Locations 【 到達目標 】 Practising location vocabulary 【授業時間外学習】 Preview location vocabulary(4.0hr)			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第7回 Presentations: A Country and its Kitchen 【 到達目標 】 Discussing Foreign Countries 【授業時間外学習】 Prepare presentation(4.0hr)			第15回 Mid-term Presentations 【 到達目標 】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)			
第8回 The Home 【 到達目標 】 Practising home-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
【オンライン授業の場合】 This class will be conducted in English and <u>online</u> . To make the online class go smoothly, it is very important that before logging on, you <u>read</u> and <u>try to understand the weekly updates</u> and <u>check the teaching materials</u> I will send.						
【教科書・参考書など】						
Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						
【オンライン授業の場合】 Participation 40%, Speaking Assignments 60%						

科目名	ドイツ語			担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		
【目的とねらい】 初級レベルの基礎知識を確実なものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認 【 到達目標 】 音声の基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。 あいさつやとっさの一言が言える。 【授業時間外学習】 アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)			第9回 前置詞の格支配 【 到達目標 】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。 【授業時間外学習】 例文を覚える。(4.0hr)			
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認 【 到達目標 】 日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。 初めて見る地名や人名を正確に発音できる。 【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)			第10回 助動詞 【 到達目標 】 話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 例)私は～できる／～したい／～しなければならない。 【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)			
第3回 ドイツ語の文構造／自己紹介 (1) 【 到達目標 】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。 例) 私は～出身です／～を専攻しています。 【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)			第11回 否定表現 【 到達目標 】 否定冠詞を使つての否定文を作る。 否定詞を用いた否定文の法則をしる。 例) 兄弟はいない／～を知らない 【授業時間外学習】 自分に関連した否定文を作ってみる。(例：私は魚を食べない、等) (4.0hr)			
第4回 ドイツ語の名詞と、主語となる代名詞を知る 【 到達目標 】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 例) 父が／友人に／ピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。 【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)			第12回 疑問文 【 到達目標 】 疑問、質問を相手に行うことができる。 疑問詞疑問文を作ったり、問い合わせをスムーズにするフレーズを使えたりする。 【授業時間外学習】 例文を覚えて、これをアレンジする。(4.0hr)			
第5回 冠詞の役目：不定冠詞、定冠詞、所有冠詞 【 到達目標 】 英語のa, an, the, myと異なる、冠詞の役目を確認する。 「1つの～が」「その～を」「私の～に」等の表現を身につける。 【授業時間外学習】 自分で格変化表を作成してみる。自分の持ち物や身内を表現する。(4.0hr)			第13回 時の表現／数詞 (2) 【 到達目標 】 現在や過去、未来の表現を知る。(今日、3日後、毎年、1週間、将来、等) 頻度や回数、継続、曜日表現する。(頻繁に、5回、10年前からずっと、日曜日には、等) 21から100までの数詞の法則性を体得する。 【授業時間外学習】 自分の部活動や趣味などの活動状況をドイツ語で説明してみる。(4.0hr)			
第6回 複数形 【 到達目標 】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。 自分のよく使うような単語の複数形を調べて、表現する。 例) 私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。 【授業時間外学習】 単数形に戻す練習を重ねる。(4.0hr)			第14回 自己紹介 (2) 【 到達目標 】 自分の家族や友人について、これまでより詳しく他者に表現できる。 【授業時間外学習】 簡単な自己紹介文を作成する。家族や友人のことも表現してみる。(4.0hr)			
第7回 数詞 (1) 【 到達目標 】 1から12までを確実に言える。 13から20までの法則を押さえる。 時刻を表現する。 【授業時間外学習】 自分のスケジュールを表してみる。(4.0hr)			第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)			
第8回 人称代名詞 【 到達目標 】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。 【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 半期しかないので、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。 【対面授業の場合】 発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は返却されましたら、間違いの箇所や、指摘されたより適切な表現をしっかりと確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。 【オンライン授業の場合】 音声データを用いて発音練習を欠かさず自宅で行うようにしてください。授業資料は、授業スケジュールに従い授業実施曜日・開始時刻に配信します。 オンデマンド授業だからこそ、受講生の自学の理解度を確保するために毎回、課題を実施します。欠かさず提出するよう心がけてください。また、この課題提出は出席確認に用います。みなさんは課題提出を、授業に関する質問や感想を書き添える機会にしてください。後日、配信される解答と解説を参考に間違いの箇所や、より適切な表現をしっかりと確認するようにして、ドイツ語表現の幅を広げてください。						
【教科書・参考書など】 「ヴンダー！ヴンダー！」藤由順子 橋本由紀子 平山茂樹・著(朝日出版社) 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の発表・課題提出、理解度確認のための小テスト25%、試験結果を75%として評価する(試験は試験期間中に別途実施する)。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド授業時の課題提出・積極的な取組姿勢を40%、試験結果を60%として評価する(試験は定期試験期間中に別途実施する)。						

科目名	フランス語					担当者	山下利枝
英文名	French						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206			
【目的とねらい】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらおう。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化 【 到達目標 】 (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。(4.0hr)			第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「エコ・ライフには自転車」を読む。(4.0hr)				
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力 【 到達目標 】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。 【授業時間外学習】 プリント「ロワール河の北と南」を読む。(4.0hr)			第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。(4.0hr)				
第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の復習） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「個性競うサービスの橋」を読む。(4.0hr)			第11回 まとめと復習② 【 到達目標 】 (1)7～10回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシエル）」を読む。(4.0hr)				
第4回 日常の表現：自分のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。(4.0hr)			第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。(4.0hr)				
第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。(4.0hr)			第13回 フランスの映画鑑賞 【 到達目標 】 (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 プリント「7月14日は革命記念日」を読む。(4.0hr)				
第6回 まとめと復習① 【 到達目標 】 (1)4・5回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「日仏マンガ交流」を読む。(4.0hr)			第14回 フランス語の世界を理解するための注目点 【 到達目標 】 (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。 【授業時間外学習】 プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。(4.0hr)				
第7回 日常の表現：数、時間、お金 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ストライキ大国フランス」を読む。(4.0hr)			第15回 総復習 【 到達目標 】 (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。 【授業時間外学習】 プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。(4.0hr)				
第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料である。出席は各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【実務経験のある教員による授業科目】							
語学学校の専任教員としての実務経験を活かし、フランス語の基礎の習得とフランス語圏の歴史・社会・文化についても講義する。							
【教科書・参考書など】							
「だいじょうぶ！フランス語」太田浩一・明石伸子 著（白水社）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 各回の授業時の課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。） 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点で、それらを総合的に評価する。さらに、全授業終了時点でまとめのレポートを実施し、評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	中国語			担当者	道上峰史	
英文名	Chinese					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		
【目的とねらい】 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語の文法や漢字に慣れてもらうため、受講生には基礎的な課題を出します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：中国語について 【到達目標】 (1) 言語としての中国語の特性を理解する。 【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)			第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第2回 発音の基礎：発音記号と四声 【到達目標】 (1) 言語としての中国語の音声(発音・リズム)を習得する。 【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発声する。(4.0hr)			第10回 基礎構文(Ⅳ)：完了形 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 完了形がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字 【到達目標】 (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。(4.0hr)			第11回 基礎構文(Ⅳ)：完了形の応用 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 完了形がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			
第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第12回 作文：自己紹介 【到達目標】 (1) 自分について紹介する文章を作る。 【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。(4.0hr)			
第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第13回 作文：日常の表現 【到達目標】 (1) 日常表現をするための語彙を増やす。 【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。(4.0hr)			
第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ 【到達目標】 (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)			第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ 【到達目標】 (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)			
第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文 【到達目標】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。それだけでなく、普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更はしません。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料です。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載します。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
【教科書・参考書など】 講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験(試験は試験期間中に別途実施)が70%となります。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価します。さらに全授業回終了時点で中国語の文章作成を課して評価します。各授業回の総合評価を60%、全授業終了後の文章作成の評価を40%とし、あわせて100%として評価します。合格基準は60%です。						

科目名	コリア語			担当者	李 貞 叵	
英文名	Korean language					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		
【目的とねらい】 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。生活や文化の正確な理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国人の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【 到達目標 】 (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)			第9回 日常生活の表現：疑問表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)			
第2回 ハングルの発音：基本母音字 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 【授業時外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)			第10回 日常生活の表現：否定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)			
第3回 ハングルの発音：子音字（1） 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 【授業時外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)			第11回 日常生活の表現：用言の表現（1） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)			
第4回 ハングルの発音：子音字（2） 【 到達目標 】 (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)			第12回 日常生活の表現：用言の表現（2） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)			
第5回 ハングルの発音：合成母音字 【 到達目標 】 (1) 合成母音を習得する。 【授業時外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)			第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)			
第6回 ハングルの発音：パッチム、挨拶 【 到達目標 】 (1) 文字としてのパッチムを習得する。 【授業時内学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)			第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)			
第7回 日本語のハングルの表記 【 到達目標 】 (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。(4.0hr)			第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時外学習】 固有数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)			
第8回 日常生活の表現：肯定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れる（ドラマ・映画・歌、等）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1-2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業になった場合は、オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞叵）著（白水社）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	八 田 益 之	
英文名	Career, Business and Social System					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		
【目的とねらい】 キャリア形成とは、「変化し続ける社会」に「対応し続けること」です。コロナ禍は、急激なオンライン化を通じて社会全体の変化を加速させており、あらゆる職業で変化対応能力がより重要になっています。この講義では、「変化に対応し続けるための考え方・行動のしかた」について、スポーツ×女性という立場で、ビジネスと社会という視点から、講義外での自主的なグループワークを交え、体験的に理解を進めます。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 変化の時代をサバイバルするための基本的な考え方、「プロティアン（＝変わり続ける）キャリア」を理解します。 【授業時間外学習】 自分自身のキャリア目標を考える。(4.0hr)			第9回 プロジェクトワーク 【 到達目標 】 中間発表へのフィードバックをもとに、提案内容をより改善していきましょう。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			
第2回 グループ結成 【 到達目標 】 就職活動では、「自分を知ること」と同時に、「仕事内容を理解すること」が重要です。自分と近い分野に関心のある受講者でグループを作り、「仕事理解プロジェクト」のグループワークを進めます。 【授業時間外学習】 チームを結成する。(4.0hr)			第10回 企業研究の基本 【 到達目標 】 会社が数十年以上にわたり、存続・成長し続けることができるのはなぜか？就活でも重要な企業研究の方法を理解します。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			
第3回 チームビルディングの基本 【 到達目標 】 オンラインでグループワークをするために必要な有益となるチームビルディングの基本的な考え方、メンバーの自分自身のタイプを知り、メンバーのタイプを知ることで、グループワークを円滑に進めるための技法なども扱っていきます。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			第11回 スポーツ経験を社会で活かす 【 到達目標 】 スポーツ経験の中でもした経験を、どのように、社会で活躍できる武器とするか？これまでの経験での「課題」と「解決策」を振り返り、これから解決したい課題についても考えてみましょう。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			
第4回 ビジネスの基本 【 到達目標 】 ビジネスの基本を理解するために、経営学の基本を幾つか紹介した上で、具体的な課題についてのケーススタディを複数回にわたり取り組みます。まず1つのテーマを題材に、アイデアを出し、膨らませていきます。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			第12回 コーチングの基本 【 到達目標 】 スポーツを中心とした経験を、どのように、社会で使いやすい武器となる、「コーチング」「チームビルディング」の技法を理解します。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			
第5回 デザインシンキングの基本 【 到達目標 】 「課題の解決」とはなにかを理解します。これまでの学生生活の中から身近な課題を探し、デザインシンキングの技法から解決策を考えてみましょう。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			第13回 プレゼンテーションとフィードバック（最終） 【 到達目標 】 「仕事理解プロジェクト」の発表です。他チームの発表から、いろいろな仕事を理解しましょう。 【授業時間外学習】 興味のある会社の採用情報などを調べてみる。(4.0hr)			
第6回 調査手法の基本 【 到達目標 】 ビジネスとは「相手目線」の活動です。自分が考えたアイデアの価値を決めるのは現場。フィールドワークやアンケート調査など、現場を理解するための調査方法を理解し、実行します。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			第14回 上位チームの分析 【 到達目標 】 同じテーマでの上位入賞チームの提案内容を分析・解説。どのようなアイデア、発表がありえたのか、学びを深めます。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			
第7回 ストーリー構造の基本 【 到達目標 】 アイデアを伝えるための資料作り、発表の仕方、物語の構造について理解し、トレーニングしていきます。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)			第15回 学生生活アクションプランの策定 【 到達目標 】 まとめ：講義全体を通しての学びをふりかえり、自分自身はどうするのか、考えます。 【授業時間外学習】 最終レポート作成を行う。(4.0hr)			
第8回 プレゼンテーションとフィードバック（中間） 【 到達目標 】 「仕事理解プロジェクト」「課題解決プロジェクト」についての中間発表。他のチームの発表をみて、フィードバックをしていきましょう。 【授業時間外学習】 グループワークを行う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 グループワークの一部は教室の講義内で行いますが、講義外でのグループワークは引き続き重要です。自己管理して、計画的に進めてください。 【オンライン授業の場合】 基本スタイルは、参加型の「アクティブ・ラーニング」形式を基本とします。 ①講義時間外でグループを作って、グループワークも行います。②基本的に毎回、小レポートをオンライン提出します。 ③これらの成果は講義中に紹介しながら、達成状況に応じて次回の講義内容を決めてゆくので、上記の授業内容や進行の順序の変更があります。 ④グループワーク用アプリ、Googleフォーム等を使用予定 ※本年度：非同期型オンライン講義 動画を配信して都合のよい時間に学びます。グループワークの時間を各グループごとに合わせる事が重要となります。自己管理して、計画的に進めて下さい。						
【教科書・参考書など】 講義ごとにオンライン配信します。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業ともに共通】 ①講義後毎回の小レポート（出席確認を兼ねる）：50% ②グループワークでの成果：25% ③提出レポート：25% オンライン提出レポートについて、提出できたかの確認は講師の側からも留意しますが、各自での提出受理メール等の確認をお願いします（詳細は講義で説明します）。						

科目名	データ分析と統計学			担当者	水野有希	
英文名	Data Analysis and Statistics					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		
【目的とねらい】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方や統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 統計の心構え、度数分布表とヒストグラム 【 到達目標 】 (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)			第9回 平均と分散の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。(4.0hr)			
第2回 データの種類・尺度水準 【 到達目標 】 (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)			第10回 t検定（対応あり） 【 到達目標 】 (1) 平均の差の検定の種類を理解する。 (2) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)			
第3回 データのばらつきを数値に表すには 【 到達目標 】 (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何かがあるかを学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)			第11回 t検定（対応なし） 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)			
第4回 散布図と相関、相関係数 【 到達目標 】 (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)			第12回 分散分析（一元配置） 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)			
第5回 回帰直線 【 到達目標 】 (1) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)			第13回 分散分析（二元配置） 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。 (2) 実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)			
第6回 アンケート作成 【 到達目標 】 (1) アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)			第14回 カイ二乗検定 【 到達目標 】 (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)			
第7回 仮説検定と有意差について 【 到達目標 】 (1) 推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。 (2) 確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 提出課題の復習をする。(4.0hr)			第15回 実践課題 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使って分析を行います。 【授業時間外学習】 分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)			
第8回 正規分布とその他の分布 【 到達目標 】 (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解できるように工夫します。また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は変更しません。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスが所有していることが条件です。						
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行われる確認課題（講義中に出すもの）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 【オンライン授業の場合】 毎回行われる確認課題（第1回～第14回）60%、実践課題（第15回）40%として評価します。確認課題や実践課題は、指定された期日までに提出してください。						

科目名	知の哲学				担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111			
【目的とねらい】 この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理論的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解積するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ 【到達目標】 哲学的な問の持つ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の〈検討課題〉に取り組む。(4.0hr)				第9回 感情：感情と認識 【到達目標】 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第2回 知の成立条件と定義：必要条件と充分条件 【到達目標】 定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準 【到達目標】 プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第3回 意味と明晰さ：曖昧と漠然 【到達目標】 ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我 【到達目標】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第4回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型 【到達目標】 立論(論証)の構造と、そこに体现される推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知 【到達目標】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第5回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁 【到達目標】 対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問の持つ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法 【到達目標】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第6回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考 【到達目標】 欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学 【到達目標】 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第7回 立論の解剖学：樹形図の方法 【到達目標】 複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)				第15回 知の主體的責任と知的誠実性 【到達目標】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)			
第8回 知覚経験と認識：現象と実在 【到達目標】 知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験の持つ限界と知覚経験の記述の客観性の諸条件について考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同〈検討課題〉(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して理解し、実地に適用する心構えて下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。取り上げる主題の定性的な方面は変更しません。配信教材は原則的に講義の概要を記したPDF資料ファイルと解説用の音声ファイルです(資料形態は受講者全員の受信環境によって変更することもあります)。配信日時は対面授業時間割に準じ、本学ポータルサイトより各授業に先立って配信される授業連絡に明記された各ファイルの格納場所にアップし、課題提出締切日まで掲載します。出席は各授業回の期日内の課題の提出をもってカウントします。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出課題40%、定期試験60%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。なお、欠席届相当の証明書類の提出のある欠席者には別途課題を課し、出席確認と課題評価の機会を設ける。							

科目名	教養としての日本文学				担当者	高橋良久	
英文名	Introduction to Japanese Literature						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112			
【目的とねらい】 本科目は、人間の営みや人間そのものの姿、心性を描く文学、特に、ここでは日本の古典文学の中から文学の対象となった項目を取り上げ、その時代背景を「現代」に置き換えて検討・考察することで、現代社会を問い直す視点を獲得することを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 この授業の目的・ねらい・進め方 【 到達目標 】 教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第9回 「伝承文学」 【 到達目標 】 「伝承文学」とはどのようなものを理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第2回 「名づける」という行為 【 到達目標 】 「名づける」という行為の意味を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第10回 日本の四季 【 到達目標 】 古典作品での四季の捉え方を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第3回 「文学」とは 【 到達目標 】 「文学」とはどのようなものを理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第11回 「好きです」「愛しています」 【 到達目標 】 古典作品での恋愛の捉え方を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第4回 「作品を読む」ということ 【 到達目標 】 作品論、作家論とはどのようなものを理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第12回 東西のシンデレラ 【 到達目標 】 『落窪物語』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第5回 「文字」 【 到達目標 】 日本で用いられる「文字」について、その役割や機能の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第13回 「あこがれる」ということ 【 到達目標 】 『源氏物語』と『更級日記』を読み解く。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第6回 言葉で遊ぶ 【 到達目標 】 「ことば遊び」の変遷を知ること、ことばに対する人々の接し方を理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第14回 増えていく不思議 【 到達目標 】 『枕草子』の章段の種類について理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)			
第7回 日本人はどこから来たのか 【 到達目標 】 日本の文学はどのようにして発生したかを理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)				第15回 手紙 【 到達目標 】 短い手紙を書く。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)			
第8回 「言霊」 【 到達目標 】 「言霊」とはどのようなものを理解する。 【授業時間外学習】 次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・ 次回の授業で取り扱う課題が完成しているという前提に講義を進める。 ・ 定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施する。定期試験では、持ち込みも認めないので、予め授業で取り上げた作品は全て読み直しておくこと。 ・ 自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。 ・ 「グループ学習」を取り入れる。また、「レスポンスカード」を使用し、理解の深化を図る。 【オンライン授業の場合】 パワーポイントによる動画配信の授業。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しないが、順番を入れ替える場合がある。オンラインの授業の場合は、定期試験は行わない。							
【教科書・参考書など】 教科書 授業時に使用する資料は、こちらで用意する。 参考書 授業時に適宜紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・ 授業時の提出物(40%)・定期試験(60%) 【オンライン授業の場合】 ・ 毎回の課題提出(70%)・試験課題(30%)							

科目名	音楽の世界				担当者	森 立 子	
英文名	The World of Music						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113			
【目的とねらい】 世界の様々な音楽を、その様式と文化的背景とを学ぶことにより、より深く理解することを目指す。またその上で、現代社会の中で音楽がどのような役割を果たしているのかについて考察を進める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 序説～人間と音楽 【 到達目標 】 人間は音楽をどのような場面で必要とし、またどのように音楽と関わってきたのか、いくつかの例を基に考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第9回 童歌の諸相 【 到達目標 】 童歌(わらべうた)にはどのようなものがあるのか。世界各地の例を鑑賞しながら理解するとともに、童歌の社会的機能についても学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第2回 音階とは何か 【 到達目標 】 音階の概念について学び、(西洋芸術音楽の)調性と音階の関係について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第10回 祭りと言楽(1) 【 到達目標 】 「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されてきたのか。主に歴史的な視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第3回 様々な音階 【 到達目標 】 様々な種類の音階について学び、それらの音階に基づく音楽を鑑賞して、響きの違いを理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第11回 祭りと言楽(2) 【 到達目標 】 今日の「祭り」の中で音楽がどのような機能を付与されているのか。実例を観ながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第4回 楽器の分類とその響き(1) 【 到達目標 】 楽器の分類法について学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第12回 舞曲とは何か 【 到達目標 】 舞曲の種類について学び、その実例を鑑賞しながら、舞曲における音楽と舞踊の関係について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第5回 楽器の分類とその響き(2) 【 到達目標 】 代表的な楽器の音色と、その楽器を使用した楽曲について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第13回 音楽と民族的アイデンティティ(1) 【 到達目標 】 民族的アイデンティティの構築、強化に音楽がどのように用いられてきたのか、歴史的視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第6回 音楽と「声」 【 到達目標 】 世界の様々な音楽において「声」がどのように活用されているのか、具体的な例を鑑賞しながら学ぶ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第14回 音楽と民族的アイデンティティ(2) 【 到達目標 】 音楽の中に現れる民族性の問題について、具体的な例を鑑賞しながら考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第7回 合唱の諸相 【 到達目標 】 様々な合唱の形態について学び、さらに文化史的視点から合唱とは何かについて考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)				第15回 日本における西洋音楽の受容 【 到達目標 】 日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)			
第8回 祈りの音楽 【 到達目標 】 「祈り」のための音楽にはどのようなものがあるのか、世界各地の例を鑑賞しながら理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した課題についてのミニ・レポートを作成。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。また毎回、授業で扱ったテーマについてのミニ・レポートを課す。ミニ・レポートの内容も成績評価の対象とする。課題に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と参考動画である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし6日間掲載する。出席は、各授業回の課題提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ミニ・レポート50%、学期末レポート50%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点で学期末レポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、学期末レポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211		
【目的とねらい】 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 (1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。 【授業時間外学習】授業内容で指示するジェンダー・ギャップ指数のレポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)			第9回 近代スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。 【授業時間外学習】授業内容のうち、「プライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)			
第2回 フェミニズムの歴史 【 到達目標 】 (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 【授業時間外学習】授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)			第10回 保健体育科教育とジェンダー 【 到達目標 】 (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。 (3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。 【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、保健体育科教育におけるジェンダー問題を理解し、解決するための方法を検討する。(4.0hr)			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 (3)スポーツ場面における男女共同参画に関する取り組みを知る。 【授業時間外学習】内閣府男女共同参画扶HPより、第5次男女共同参画基本計画の説明資料を閲覧し、どの分野でどのような課題があるのかを調べる。(4.0hr)			第11回 セクシュアル・マイノリティと学校教育 【 到達目標 】 (1)セクシュアル・マイノリティと学校をめぐる近年の社会的動向を把握する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。 【授業時間外学習】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識 【 到達目標 】 (1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)日本における同性パートナーシップ制度の現状を知る。 【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように描かれているかを調べる。(4.0hr)			第12回 スポーツにおけるセクシュアル・マイノリティ 【 到達目標 】 (1)セクシュアル・マイノリティとスポーツをめぐる世界的な動向を把握する。 (2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。 (3)MtFトランスジェンダー当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】授業内容および『よくわかるスポーツとジェンダー』の「IX性的マイノリティとスポーツ」を参考に、スポーツにおける「公平」とは何かを考察する。(4.0hr)			
第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方 【 到達目標 】 (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (3)性感染症及び性犯罪の実態について知る。 【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)			第13回 メディアとスポーツとジェンダーと 【 到達目標 】 (1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 【授業時間外学習】『データでみるスポーツとジェンダー』の「第7章スポーツメディアとジェンダー」を読み、メディアにおけるジェンダー問題の具体例を理解する。(4.0hr)			
第6回 実は身近なデートDV 【 到達目標 】 (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。 【授業時間外学習】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)			第14回 スポーツと人権 【 到達目標 】 (1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)DSDs (性分化疾患) のアスリートの競技参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。(4.0hr)			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえたい時に見えてくる課題について知る。 (3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。 【授業時間外学習】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「1総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)			第15回 日常生活世界に見るジェンダー 【 到達目標 】 (1)女性専用車両や女性限定サービスの存在理由について理解する。 (2)クオータ制の概要と意義を理解する。 (3)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。 【授業時間外学習】授業内で指示する男女共同参画白書令和3年版 (Web版) の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日 【 到達目標 】 (1)日本における女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。 【授業時間外学習】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。また、理解度を確認するためのリアクションペーパーを5回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で実施します。動画と配布資料をポータルサイトのGoogle Drive上にアップします。対面授業のスケジュールに基づき、前日の17時にアップし、1週間掲載する予定です。出席はポータルサイトの「この呼出・連絡を読みました」ボタンを押すことによって確認します。						
【教科書・参考書など】 教科書 特指定しない。 参考書は、『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・来田亭子著 (2018) ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著 (2016) 八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著 (2013) ミネルヴァ書房						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。※試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】 理解度を確認するためのリアクションペーパー3回と、全授業回終了後にまとめのレポートを実施する。リアクションペーパー30%、まとめのレポート70%で評価する。						

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水野有希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		
【目的とねらい】 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 情報技術について 【 到達目標 】 (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第9回 データベースについて 【 到達目標 】 (1) データベースとは何かについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第2回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について 【 到達目標 】 (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第10回 データベースの基本操作 【 到達目標 】 (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第3回 レポート作成と論文作成の基礎 【 到達目標 】 (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第11回 Excelの画面操作と印刷について 【 到達目標 】 (1) 画面操作について学ぶ。 (2) 印刷の方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第4回 プレゼンテーション資料の作成 【 到達目標 】 (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第12回 グラフの作成 【 到達目標 】 (1) 基本的なグラフについて学ぶ。 (2) 複合グラフについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第5回 クラウドについて 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考える。(4.0hr)			第13回 Excelの総復習 【 到達目標 】 (1) 第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第6回 データ収集の実践 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。 (2) アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。 【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)			第14回 Excelを利用したデータ分析の基礎 【 到達目標 】 (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第7回 Excelの初級 【 到達目標 】 (1) Excelの基本操作と基礎関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			第15回 Excelを利用したデータ分析の応用 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。 (2) 報告書の作成手順を理解し、報告書を作成する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)			
第8回 Excelの上級 【 到達目標 】 (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。 【対面授業の場合】 講義は情報処理実習室で授業を実施します。毎回授業時に関連した課題を提出してもらいます。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は一部変更（印刷に関する内容）がありますが、ほぼ同じ内容で進行します。配信される資料はスライド、授業資料、解説動画とし、配信は対面授業のスケジュールに従い、当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップし、1週間掲載します。授業日から5日以内に関連した課題を提出し、出席は各授業の課題の提出によって確認します。なお、課題の遂行にはMicrosoft Office が使用できるデバイスが所有していることが条件です。						
【教科書・参考書など】 資料を配付します。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回行われる確認課題（講義中に出すもの）40%、演習課題（第6回、第13回）20%、最終課題（第15回）40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。 【オンライン授業の場合】 毎回行われる確認課題（第1回～第14回）60%、最終課題（第15回）20%として評価します。確認課題や最終課題は、指定された期日までに提出してください。						

科目名	人間生活と地球環境				担当者	鈴木信夫	
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114			
【目的とねらい】 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)				第9回 温室効果ガス 【到達目標】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。(4.0hr)			
第2回 原始地球の環境(1) 【到達目標】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)				第10回 崩れる生態系 【到達目標】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。(4.0hr)			
第3回 原始地球の環境(2) 【到達目標】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等でカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				第11回 リサイクル法(1) 【到達目標】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのゴミリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
第4回 恐竜の絶滅 【到達目標】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				第12回 リサイクル法(2) 【到達目標】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。(4.0hr)			
第5回 人為圧による野生生物の絶滅 【到達目標】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやリョウコウバトの絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 ネット等でドードー・リョウコウバト以外の絶滅動物について調べること。(4.0hr)				第13回 リサイクル法(3) 【到達目標】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 ネット等で日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。(4.0hr)			
第6回 酸性雨 【到達目標】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。(4.0hr)				第14回 環境監査(1) 【到達目標】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。(4.0hr)			
第7回 水問題 【到達目標】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)				第15回 環境監査(2) 【到達目標】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。(4.0hr)			
第8回 温室効果ガス 【到達目標】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。定期的な授業内容に関する小レポートを作成し、授業の理解度を確認する。結果については、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布(オンデマンドの場合は、Pholly上にPDF資料をアップ)する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 小レポートの達成度を100%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。							

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀岳彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		
【目とねらい】 ヨーロッパの文学は、日本を含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第9回 ヨーロッパ中世の文学 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世中期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第10回 ルネサンスの文学① 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第11回 ルネサンスの文学② 【到達目標】 前回は引き続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第12回 宗教改革 【到達目標】 宗教改革(Reformation)は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			第15回 ヨーロッパの現代文学 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 ヨーロッパ中世の文化 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 授業時に配布する資料・テキストをしっかりと読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。 【オンライン授業の場合】 上記の内容をオンデマンド方式で行う。毎回、テキスト・資料・動画がオンラインで配信され、受講生はそれらを用いて毎回のテーマを学習し、レポート・課題を期限まで提出することになる。						
【教科書・参考書など】 授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、授業への出席・参加50%、学期内の各種レポート・課題50%から評価する。						

科目名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	今 角 夏 織	
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		
【目的とねらい】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入 【 到達目標 】 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			第9回 ボディーパーカッション② 【 到達目標 】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。 【授業時間外学習】 第8回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル 【 到達目標 】 校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。 【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)			第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識② 【 到達目標 】 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。 【授業時間外学習】 第9回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【 到達目標 】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)			第11回 リコーダー運指③/トーンチャイム導入 【 到達目標 】 リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。 【授業時間外学習】 これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。(4.0hr)			
第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入 【 到達目標 】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)			第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム① 【 到達目標 】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)			
第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー運指① 【 到達目標 】 グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。 【授業時間外学習】 学習したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)			第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー① 【 到達目標 】 トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)			
第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【 到達目標 】 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。 【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)			第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー② 【 到達目標 】 トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。 【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。(4.0hr)			
第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表) 【 到達目標 】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 第6回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)			第15回 リコーダー&トーンチャイム(発表) 【 到達目標 】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。 【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)			
第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー運指② 【 到達目標 】 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。 【授業時間外学習】 リコーダーの運指を復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。 各回に提出された課題に対してコメントをする形で取り組みに対する評価を行う。 教科の特性上、オンライン形式での授業は不可能であるため、状況によって90分授業を45分ずつに分け、学生の登校を分散させた上での授業を実施する。 その際はプリント等で課題を配布し評価する。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。						

科目名	保育・教育心理学			担当者	倉盛美穂子	
英文名	Developmental and Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー	CBR101		
授業形態	講義					
【目的とねらい】 (1) ヒトの生涯に渡る心身の発達・学習に関する基礎的な知識を身につける。 (2) 乳幼児期を中心に、各発達段階の心理的特性を踏まえた教育や養護の基礎となる考え方を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育・教育心理学について学ぶ意味 【 到達目標 】 (1) 実践と理論の往還について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 記憶(2) 【 到達目標 】 (1) 記憶のプロセスについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 保育は子どもの何を育てるのか? 【 到達目標 】 (1) 主体としての心を育むためのかわりについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 メタ認知 【 到達目標 】 (1) 学習を振り返り、コントロールする意義について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 人はいかに学ぶか (1) 【 到達目標 】 (1) 学習に関する理論(行動主義、認知主義)を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 学びの評価 【 到達目標 】 (1) 保育・教育実践や子どもの学びを評価する際の視点やバイアスについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 人はいかに学ぶか (2) 【 到達目標 】 (1) 学習に関する理論(社会的構成主義)について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 集団の捉え方 【 到達目標 】 (1) 集団心理について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 人はいかに学ぶか (3) 【 到達目標 】 (1) 学習に関する理論(状況論)について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 インクルーシブ教育の考え方と新しい障害観 【 到達目標 】 (1) インクルーシブ教育の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 やる気について (1) 【 到達目標 】 (1) 内発的動機づけと外発的動機づけについて説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 乳幼児期・児童期の発達 【 到達目標 】 (1) 乳幼児期・児童期の発達特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第7回 やる気について (2) 【 到達目標 】 (1) 動機づけを阻害するものを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第15回 青年期の発達 【 到達目標 】 (1) 青年期の発達特徴について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 記憶(1) 【 到達目標 】 (1) 記憶のメカニズムについて理解する。 (2) 知識の種類やその性質について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義ではパワーポイントを用いて、要点を説明する。パワーポイントの内容は、購入する教科書に準拠したものである。受講者は講義を聞きながらメモを取ったり、教科書に書き込んだりしながら、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料を配布する。受講者の子ども理解を促すために、映像視聴を適宜使用する。質問は適宜受けつけ、次回の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題提出(講義で提示された心理学用語を説明する)をすること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出(講義で提示された心理学用語を説明する)によって確認する(Pholly)。質問は適宜受けつける。動画は、授業日の前日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。						
【教科書・参考書など】 教科書 「絶対役立つ教育心理学 実践の理論、理論を実践」藤田哲也・編(ミネルヴァ書房)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50% 【オンライン授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50%						

科目名	社会福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Social Welfare					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	講義				CBR102	
【目的とねらい】 子ども家庭支援を行う専門職として必要な社会福祉の考え方、社会福祉法制度、社会福祉実践について学ぶことを目的とする。 我が国では少子高齢化が加速的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。社会福祉は、すべての人が生きていく上で必ず利用する制度やサービスである。ライフステージに応じた生活問題とその支援について、基本的知識を習得することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 社会福祉の意義、理念、歴史 【 到達目標 】 (1) 現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。 (2) 社会福祉の歴史の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第9回 母子保健・医療福祉 【 到達目標 】 (1) 母子保健施策の概要を理解する。 (2) 保育・教育・療育・保健・医療等の連携について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第2回 子ども家庭支援と社会福祉(1) 少子高齢化社会 【 到達目標 】 (1) 少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。 (2) 少子高齢化社会における子育て支援に関する今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第10回 地域福祉・ボランティア活動 【 到達目標 】 (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) ボランティア活動、NPO活動の役割を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第3回 子ども家庭支援と社会福祉(2) 現代の生活問題 【 到達目標 】 (1) 子ども家庭をめぐる現代の生活問題とその支援について、多角的に理解する。 (2) 日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第11回 利用者保護制度 【 到達目標 】 (1) 情報提供と第三者評価について理解する。 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第4回 社会福祉の制度と実施体系 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の制度と法体系を理解し、概要を説明できる。 (2) 社会福祉行財政、実施機関、社会福祉施設等を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第12回 社会福祉における相談援助 【 到達目標 】 (1) 相談援助の意義と原則について理解する。 (2) 相談援助の方法と技術について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第5回 社会福祉と児童家庭福祉 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉について理解する。 (2) 社会福祉と児童の人権擁護、家庭支援との関連性を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第13回 社会福祉の専門職 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の専門職・実践者について理解する。 (2) 社会福祉専門職としての保育士について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第6回 社会保障・公的扶助 【 到達目標 】 (1) 社会保障の概要を理解する。 (2) 生活保護制度について理解する。 (3) 生活困窮者自立支援制度について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第14回 これからの社会福祉の課題 【 到達目標 】 (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) 社会福祉の今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第7回 障害者福祉 【 到達目標 】 (1) インクルージョン、共生社会、合理的配慮等の障害者福祉の理念を理解する。 (2) 障害者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			第15回 諸外国の動向 【 到達目標 】 (1) 諸外国の社会福祉の動向を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)			
第8回 高齢者福祉 【 到達目標 】 (1) 高齢者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 (2) 介護保険制度について理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等の復習。福祉関連の報道に目を向ける。ボランティア体験推奨。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 新聞やTVのニュース報道を適宜取り上げ、現代社会に実際に起こっている生活問題をテーマにディスカッションを進めていく。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチする感性を養っておくことが大切である。自身の生活と結びつけながら福祉関連問題を理解し、専門職として必要な基礎知識を身につけてほしい。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	子どもの運動発達			担当者	森田陽子	
英文名	Development of Children's Movement					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CBR103		
【目とねらい】 子どもの誕生から就学前までの発育に伴う運動発達を、運動学的な観点から捉えて学習する。子どもの体力低下が問題視されている現在、幼稚園教諭や保育士等にとって必要な子どもの運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 近年の子どもの状況 【授業時間外学習】 (1)近年の子どもの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2)乳幼児期とはどのような時期なのかを理解する。 【授業時間外学習】 近年の子どもの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)			第9回 運動指導のポイント3 (環境を工夫する、安全を考える) 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、運動にふさわしい環境、安全についての基本的な考え方を理解する。 【授業時間外学習】 環境の工夫、安全について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第2回 運動とは何か1 (運動能力の低下からみえてくるもの) 【到達目標】 運動能力の低下から見えてくる幼児期の運動の在り方や、運動能力検査から見た課題を知り、運動がなぜ幼児に必要かということを理解する。 【授業時間外学習】 運動能力の低下からみえてくるものについて、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第10回 運動指導のポイント4 (援助の仕方を考える) 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの特性に合った援助の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 援助の仕方について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第3回 運動とは何か2 (運動することで期待できる効果) 【到達目標】 運動がなぜ幼児に必要かという観点から、運動することで期待できる効果について理解する。 【授業時間外学習】 運動することで期待できる効果について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第11回 運動指導のポイント5 (遊びの変化や発展を考える) 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの遊びの変化や発展を理解する。 【授業時間外学習】 遊びの変化や発展について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第4回 遊びと運動1 (生活としての運動) 【到達目標】 遊びと運動の観点から、生活としての運動とはどういうことを意味するのかを知る。また、子どもの生活と運動との関連について理解する。 【授業時間外学習】 生活としての運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第12回 運動にかかわる現代的課題1 (幼小の連携、家庭との連携) 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、幼小の連携、家庭との連携における課題を理解する。 【授業時間外学習】 幼小の連携、家庭との連携について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第5回 遊びと運動2 (遊びの中の運動) 【到達目標】 遊びと運動の観点から、遊びの中の運動、運動と遊びについて理解する。 【授業時間外学習】 遊びの中の運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第13回 運動にかかわる現代的課題2 (個人差のある場合の指導) 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、個人差のある場合の指導について理解する。 【授業時間外学習】 個人差のある場合の指導について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第6回 遊びと運動3 (動機づけと運動) 【到達目標】 遊びと運動の観点から、動機づけと運動、特に子どもの運動遊びに関連した動機づけについて理解する。 【授業時間外学習】 動機づけと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第14回 運動にかかわる現代的課題3 (現代の子どもと運動) 【到達目標】 運動にかかわる現代的課題の観点から、現代の子どもについて理解し、いかに運動的なアプローチをかけるかを理解する。 【授業時間外学習】 現代の子どもと運動について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			
第7回 運動指導のポイント1 (運動量を考える) 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、子どもの運動量について理解するとともに、生活の見直しという点にも目を向ける。 【授業時間外学習】 運動量について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)			第15回 保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な今後の方向性の理解 【到達目標】 現場における運動指導を事例として挙げる。それについてこれまでの講義で理解したことを基に今後現場で必要とされる子どもの運動発達について考える。そこから保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者等に必要となる方向性を理解する。 【授業時間外学習】 第1回～第15回の学びをレポートする。(4.0hr)			
第8回 運動指導のポイント2 (運動の質を考える) 【到達目標】 運動指導のポイントの観点から、運動の質を考える。運動パターンのバリエーションを考え、運動指導の質を高める。 【授業時間外学習】 運動の質について、本時の学びをレポートする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 保育現場において、子どもの体力不足に対応できる指導力を身につけた幼稚園教諭や保育士等が求められている。幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことができるよう学習する。 【対面授業の場合】 授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更が出ても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。						
【教科書・参考書など】 『幼児の体育一働きを通して心を育む』前橋明編著、建帛社(2017年) 『幼稚園教育要領』(最新版)文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業の習熟度・理解度・課題提出50%、最終試験50%。 【オンライン授業の場合】 毎回の課題提出50%、最終レポート50%。						

科目名	保育原理			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Principle of Child Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CBR104		
【目的とねらい】 保育という営みはどのようなことをいうのか。子ども観の変遷や保育の思想の歴史的経緯について学び、保育所・幼稚園・認定こども園の成立の経緯や保育制度について理解する。また、子どもの最善の利益や子どもの権利保障、発達保障など保育の理念や保育の意義について、現代の子どもや子育てにかかわる課題を踏まえ、理解を深めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 はじめに：「保育原理」のオリエンテーション 【 到達目標 】 「保育」の意味を考え、「保育原理」で学ぶ全体像を把握する。 【授業時間外学習】 テキストの「はじめに」と「目次」を読み、保育原理の全体像を掴む。(4.0hr)			第9回 保育をどのように考え、進めるべきか 【 到達目標 】 保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針の保育所保育の特性日本の保育施設が誕生する頃の時代背景を調べる。(4.0hr)			
第2回 「保育」の意味を考える1 【 到達目標 】 児童福祉法、児童憲章を視点として保育の意味を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの児童福祉法、児童憲章を読み、保育の意味を考える。(4.0hr)			第10回 保育所保育の内容 【 到達目標 】 「保育内容」の構造とポイントを知り、「養護」と「教育」の一体化について理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針を読み、保育内容への理解を深める。(4.0hr)			
第3回 「保育」の意味を考える2 【 到達目標 】 保育士の専門性について理解し、専門性の修得に必要なことを知る。 【授業時間外学習】 保育士に必要な専門性について確認する。(4.0hr)			第11回 保育の計画と保育の質の向上 【 到達目標 】 保育の計画の意義と保育の循環について理解する。 【授業時間外学習】 保育の計画について、どのような計画があるのかを調べる。(4.0hr)			
第4回 保育の場について知る1 【 到達目標 】 家庭における保育について、子育てをめぐる社会の変化を通して理解する。 【授業時間外学習】 子育てをめぐる社会の変化について資料を読み、家庭における保育の社会背景を考える。(4.0hr)			第12回 多様化する保育ニーズ 【 到達目標 】 多様化する保育形態、保育ニーズについて理解する。 【授業時間外学習】 多様化する保育ニーズについて調べる。(4.0hr)			
第5回 保育の場について知る2 【 到達目標 】 保育所保育についての意義及び目的を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針の保育所の役割を読み、改めて保育士の役割を考える。(4.0hr)			第13回 保育者に求められる子育て支援 【 到達目標 】 子育て支援の必要性とその実際を理解する。 【授業時間外学習】 地域子ども・子育て支援事業について調べ、概要について確認する。(4.0hr)			
第6回 保育の場について知る3 【 到達目標 】 幼稚園、認定こども園について、保育の意義及び目的を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園の現状、認定こども園の現状を調べ、最近の傾向を知る。(4.0hr)			第14回 保育者のあり方を考える 【 到達目標 】 社会状況の変化からみた保育者の存在について理解する。 【授業時間外学習】 自分の関心のある保育の時事問題について調べ、考えをもつ。(4.0hr)			
第7回 保育の思想・歴史を学ぶ1 【 到達目標 】 西洋における近代保育思想・歴史を学ぶ。 【授業時間外学習】 コメニウス・ルソー・フレーベル・ペスタロッチの保育思想を調べて確認する。(4.0hr)			第15回 日本の保育の現状と課題 【 到達目標 】 これまでの総括として、最近の保育問題について、社会的背景をもとに課題を知る。 【授業時間外学習】 これまでに学んだ内容を整理し、再確認する。(4.0hr)			
第8回 保育の思想・歴史を学ぶ2 【 到達目標 】 日本における保育思想・歴史を学ぶ。 【授業時間外学習】 倉橋惣三の保育思想を調べて確認する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 教科書を中心に、必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。保育原理は保育に関する基盤となる科目であり、自ら保育の全体像を描く努力をしてほしい。なお、理解度確認のため、授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減っても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出により確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場での実務経験のある教員が、さまざまな保育の場における保育の実態や、我が国における保育の現状と課題、保育思想と歴史、保育の意義や社会的役割について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 教科書：『新・保育原理[第4版]—すばらしき保育の世界へ—』三宅茂夫編（株式会社みらい） 参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他適宜参考資料を提示、配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常点(授業への参加度、授業内の小レポートを含む)及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。						

科目名	スポーツ運動学			担当者	石塚 浩	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・必修	専門基礎・必修	専門基礎・選択	専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR101		
【目的とねらい】 運動技術の階層概念について認識を深め、他の要因である体力や戦術との相互関係について、さらに体力の内容と技術や戦術との関連性が深い専門的体力について理解する。さらに、戦術の特性とそのゲシュタルトの捉え方について理解を深める。一方で、運動構造について局面構造を理解し、さらに動感（キネステーゼ）との関連から「コツ」や「カン」の発生について理解を深める。また、運動の習熟過程として「できない」から「いつでも上手にできる」に至るまでの位相構造について、実践的に理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 運動技能の構造 【 到達目標 】 運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			第9回 運動技能の構造に関する諸要因とその関連性 【 到達目標 】 運動技能の構造に関する諸要因を理解し、個々の要因との関連を関連づけながら理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第2回 技術や戦術と専門的体力の関係 【 到達目標 】 複合した要因となる専門的体力について技術の側面、また戦術の側面について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			第10回 運動の構造(局面構造に着目して)(1) 【 到達目標 】 運動形式(循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ)から、その構造と実際のスポーツ場面での応用について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第3回 運動技能と発育発達との関係 【 到達目標 】 年齢段階によって運動技能を構成する要因を育成する方向性に变化があることを理解し、自己の経験と比較対照する。 【授業時間外学習】 中学・高校での「運動経験」と配布プリントの内容との照合。(4.0hr)			第11回 運動の構造(リズム構造に着目して)(2) 【 到達目標 】 運動の構造に関する具体例について分析・検討し、実習授業等で課題となっている内容について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第4回 宮本武蔵の「五輪書」や孫子の「兵法」における技術と戦術 【 到達目標 】 武道という日本古来の古書から技術、戦術の分類をし、また中国の孫子の兵法からも理解を深める。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			第12回 運動技能の上達過程「できない」から「できる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、粗協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第5回 戦術に関する要因とその具体例(1) 【 到達目標 】 代表的なスポーツ種目における戦術を取り上げるとともに、戦略、作戦といった概念についても理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			第13回 運動技能の上達過程「できる」から「上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第6回 戦術に関する要因とその具体例(2) 【 到達目標 】 技術の獲得と戦術を利用した指導場面から、その基礎となる「状況判断能力」と、その代表的なモデル例を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			第14回 運動技能の上達過程「上手にできる」から「いつでも上手にできる」の階層 【 到達目標 】 運動習熟におけるマイネルの位相理論をベースにし、最高精協調段階の徴表や指導上の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第7回 技術練習の方法 【 到達目標 】 技術練習を行う際の手順に隠されている運動表象、運動投企、運動記憶といった概念を知り、動きのコツ獲得の方法論を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)			第15回 運動技能の上達過程における「コツ」と「カン」の獲得 【 到達目標 】 運動技能の上達過程で発生する「コツ」や「カン」について、実践例を映像資料などから分析し、総合的に理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)			
第8回 戦術練習の方法 【 到達目標 】 戦術練習を行う際に必要な「アイコンタクト」「トライアングル」「サポーティング」「コーチング」という内容を理解する。 【授業時間外学習】 配布プリントの熟読と上映された映像との関係を比較検討。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。数回のレスポンスカードによる確認を行なう。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更はない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補助資料である。配信は、対面授業スケジュールに従い、同一曜日の0:00頃に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間程度掲載する。出席は、各授業回におけるキーワードの記載と課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 教科書：「教師のための運動学」金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編(大修館書店) 参考書：「マイネル スポーツ運動学」K. マイネル著、金子明友訳(大修館書店) 「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著(不昧堂出版)、「スポーツ運動学」金子明友・著(明和出版)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】全体の20%は回数配付される授業内容の考察用紙の内容、小テストの結果、授業時の挙手による、または、指名による回答であり、残りの80%はレポートもしくは試験の結果から評価する。試験の場合は、試験期間中に実施。 【オンライン授業の場合】各授業回の提出された課題の評価、全授業回数終了時点での試験の実施、から評価を行う。それぞれの評価配分は授業課題30%・テスト70%である。合格基準は60%以上である。						

科目名	水泳			担当者	森田陽子	
英文名	Swimming					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	実技				CBR106	
【目的とねらい】 幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組み、水泳に関する基礎知識を理解し、正しい泳法を習得する。						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 (1) 授業の進め方を理解する。 (2) 各泳法を映像で確認する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第2回 幼稚園・保育園における水あそびの現状 【到達目標】 (1) 保育現場の水あそび事情を知る。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第3回 水と事故・入水に当たっての諸注意 【到達目標】 (1) 子どもと水の事故について知る。 (2) 着衣泳を体験する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第4回 浮きやすい姿勢を意識して泳ぐ 【到達目標】 (1) 浮きやすい姿勢を体得する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第5回 進みやすい姿勢を意識して泳ぐ 【到達目標】 (1) 進みやすい姿勢を体得する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第6回 水を押す方向を意識して泳ぐ 【到達目標】 (1) 水を押す方向を意識して泳ぐ。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第7回 補助用具を使用して泳ぐ 【到達目標】 (1) 手や足に補助用具をつけて泳ぎ、正しい技術の習得をする。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第8回 苦手な泳ぎを撮影し自分の泳ぎを確認する 【到達目標】 (1) 撮影した映像を見て各自の泳ぎを修正する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 それぞれの泳法（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ）の技術を習得すること。それぞれの特性に合わせた体の使い方を理解すること。怪我や事故のないように、自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。 【オンライン授業の場合】 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、プールに入って実技を行うこととする（対面授業参照）ため、状況によって連絡をする。						
【教科書・参考書など】 授業の中で、随時紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各種目の習熟度40%、実技テスト（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ各25m）60%。 【オンライン授業の場合】 4回の配信レポート（40%）、実技テスト（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ各25m）60%。						
第9回 ベビースイミングや障害児と水泳について学習する 【到達目標】 (1) 特殊な水泳指導を理解する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第10回 よりスムーズな基本泳法の習得① 【到達目標】 (1) 正しいフォームをマスターする。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第11回 よりスムーズな基本泳法の習得② 【到達目標】 (1) それぞれの泳法のリズムを意識して泳ぐ。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第12回 よりスムーズな基本泳法の習得③ 【到達目標】 (1) 苦手な泳法に取り組む。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第13回 よりスムーズな基本泳法の習得④ 【到達目標】 (1) それぞれの泳法のタイムを計測する。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第14回 リズム水泳① 【到達目標】 (1) 音楽にあわせて水の中で体を動かすことを楽しむ。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						
第15回 リズム水泳② 【到達目標】 (1) 音楽にあわせて泳ぐことを楽しむ。 【授業時間外学習】 水泳の技術（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）を習得できるように練習する。(1.0hr)						

科目名	体操			担当者	木皿久美子	
英文名	Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・必修
授業形態	実技		科目ナンバー	CBR107		
【目的とねらい】 手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と積極的に交流ができるようにする。また、運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。自分自身はもちろん、幼児にとっての運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、それぞれ個々の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションと体気づき、体ほぐし 【 到達目標 】 (1)体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。 (2)手軽な運動が、自身の体に変化をもたらすことを体験する。 【授業時間外学習】 授業への取り組みの心構えをつくる。(1.0hr)			第9回 手具体操：ボールを用いた体操 【 到達目標 】 (1)2人組になり、他者に応じたボールコントロールを体験する。 (2)グループでボールを操作する面白さを体感する。 【授業時間外学習】 他者との取り組みに対する心構えをつくる。(1.0hr)			
第2回 ストレッチ体操1：アライメントチェック 【 到達目標 】 (1)体の歪みをチェックし、体操で整える方法を知る。 (2)関節の可動域を広げる方法を知り、実際に体験する。 【授業時間外学習】 日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える。(1.0hr)			第10回 リズム体操：キット式のリズム体操 【 到達目標 】 (1)キットを覚え、良い動き方を習得する。 【授業時間外学習】 音楽のリズムと身体が発信するリズムを一致させられるようにする(1.0hr)			
第3回 ストレッチ体操2：二人組のストレッチ体操 【 到達目標 】 (1)自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。 (2)体操の効果を重視した補助の方法を理解する。 【授業時間外学習】 適切な他者への対応の仕方について考える。(1.0hr)			第11回 リズム体操パターン式リズム体操 【 到達目標 】 (1)一連の流れのある動きをパターンとして覚え、良い動きを習得する。 【授業時間外学習】 音楽のリズムと身体が発信するリズムを一致させられるようにする(1.0hr)			
第4回 ストレッチ体操3：音楽に合わせた一連の柔軟体操 【 到達目標 】 (1)音楽に合わせて一連のストレッチ運動を覚えて実施する。 【授業時間外学習】 日常生活にストレッチ体操をいかす具体的な方法を考える。(1.0hr)			第12回 良い動きの習得：徒手体操の目的と方法 【 到達目標 】 (1)これまで学習した体操の力を利用して、良い動きの一連の体操が出来る。 【授業時間外学習】 一連の体操が日常生活に役立つことを知る。(1.0hr)			
第5回 トレーニング体操：体ほぐし運動とレジスタンス系の体操 【 到達目標 】 (1)自体重での運動と相手の体を利用した運動でトレーニングする。 【授業時間外学習】 自分にあった筋力アップを目指した体操について法を考える。(1.0hr)			第13回 良い動きの習得：動き方のチェックと修正 【 到達目標 】 (1)自己の動きをICTを活用して確認する。 (2)良い動きにするために動き方を修正する。 【授業時間外学習】 体操の良い動きは姿勢を整えることであることに気がつく。(1.0hr)			
第6回 二人組のレジスタンス系の体操 【 到達目標 】 (1)他者の体重を利用した運動でトレーニングする。 【授業時間外学習】 自分にあった筋力アップを目指した体操について法を考える。(1.0hr)			第14回 体操(良い動き)の発表 【 到達目標 】 (1)自信をもってよいごきを発表する。 (2)他者の良い動きを見て、自己の参考にする。 【授業時間外学習】 体操の良い動きは姿勢を整えることであることに気がつく。(1.0hr)			
第7回 トレーニング体操：エアロビクス系の体操 【 到達目標 】 (1)エアロビクスの原則を理解し、律動的に動きを継続する。 【授業時間外学習】 日常生活でエアロ系のトレーニング効果のある動作を考える。(1.0hr)			第15回 体操の構成と工夫 【 到達目標 】 (1)現在の自分に必要な体操を作って楽しむ。 【授業時間外学習】 体操が体づくり・動きづくり・仲間づくりに役立つことの楽しさに気付く。(1.0hr)			
第8回 手具体操：ボールを使った体ほぐしと体操 【 到達目標 】 (1)ボールの特性を理解して動きづくりや体づくりを行なう。 (2)ボールの動きと巧みさの関係を理解する。 【授業時間外学習】 日常生活での巧みさを考える。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 二人組や数人のグループで行う内容が多いので、互いに不快感を与えないような服装や身だしなみ、態度を大切にしてほしい。自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考に、できない動きや不慣れた動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信する内容は、音声入りパワーポイント動画と学習内容となる技能や運動に関する動画である。配信は、授業が行われる日の朝9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の17:00まで掲載する。出席の確認は、課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 実技試験70%、レポート30% 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出されたレポート40%、期末のレポート60%として評価する。						

科目名	スポーツ生理学			担当者	定本朋子	
英文名	Sport Physiology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CBR108		
【目的とねらい】						
<p>スポーツ生理学は、ヒトが身体運動をした際の生理的反応や習慣的運動による適応のメカニズムを探究する学問である。本講義では、スポーツ選手を想定した競技力向上のためのスポーツ生理学ではなく、日常生活における一般的な身体活動・スポーツ・運動の実施に伴う生理的反応および適応の仕組みに関する知識を学ぶ。またこの科目を通して、健康・体育・スポーツ関連領域の基盤となる「動くからだ」への興味関心を高め、生理学的な視点に立った探究心を涵養する。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ生理学（運動生理学）の学びについて 【 到達目標 】 スポーツ生理学（運動生理学）の研究史の概略と本講義で学ぶ範囲と学習到達目標などを理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第9回 スポーツと循環（1） 【 到達目標 】 体循環と肺循環、心臓の構造、刺激伝導系について理解する。 心拍数と一回拍出量を調節する仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第2回 スポーツと骨格筋・神経（1） 【 到達目標 】 骨格筋の構造（微細構造も含む）について理解する。 シナプス、運動終板、活動電位の伝わり方について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第10回 スポーツと循環（2） 【 到達目標 】 運動時の心拍数と一回拍出量の変化を理解する。 血管の種類、動脈血圧、血管コンプライアンスについて理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第3回 スポーツと骨格筋・神経（2） 【 到達目標 】 筋線維組成とスポーツ種目、筋線維のトレーニング適応について理解する。 運動単位、筋力調節、運動神経と上位中枢との連絡について理解する。 【授業時間外学習】 プリントの問題に答えることにより復習する。教科書を元に次回の予習をする。（4.0hr）			第11回 スポーツと循環（3） 【 到達目標 】 運動様式と血圧反応を理解する。 運動トレーニングに伴う循環器系の適応について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第4回 スポーツとエネルギー供給機構（1） 【 到達目標 】 アデノシン3リン酸（ATP）の構造と分解について理解する。 三つのATP再合成機構について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第12回 スポーツと代謝（1） 【 到達目標 】 異化、同化、酵素など代謝の基礎知識を習得する。 中間代謝の基礎知識を習得する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第5回 スポーツとエネルギー供給機構（2） 【 到達目標 】 運動強度・運動時間とエネルギー供給機構について理解する。 トレーニングによるエネルギー供給機構の変化について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第13回 スポーツと代謝（2） 【 到達目標 】 糖質、脂質、タンパク質の代謝を理解する。 運動時の糖質と脂質代謝を理解する。 運動とタンパク質代謝を理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第6回 スポーツと呼吸（1） 【 到達目標 】 呼吸運動の仕組みを理解する。 運動に伴う呼吸数、一回換気量、毎分換気量の変化を理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第14回 スポーツと脳機能（1） 【 到達目標 】 神経系の構成と脳の構造を理解する。 随意運動の発現に関わる脳の調節機構について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第7回 スポーツと呼吸（2） 【 到達目標 】 肺と血液、血液と組織のガス交換について理解する。 血液によるガスの運搬について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			第15回 スポーツと脳機能（2） 【 到達目標 】 身体活動による脳機能改善に関する種々の研究成果を理解する。 運動時の体水分の調節に働くホルモンについて理解する。 運動トレーニングに伴うホルモンの適応について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）			
第8回 スポーツと呼吸（3） 【 到達目標 】 換気性閾値、乳酸性閾値について理解する。 酸素摂取量、酸素借、酸素負債、運動後過剰酸素消費量について理解する。 【授業時間外学習】 講義に関する確認テストを実施する。講義内容全体を各自復習する。（4.0hr）						
【学習上の留意点】						
<p>【対面授業の場合】講義は指定教科書を用いるので、教科書購入を予定しておくこと。講義はパワーポイントを用いて説明し、講義内容の資料は全て配布する。受講者は事前に指定教科書を読み、内容理解に努める。</p> <p>【オンライン授業の場合】オンデマンド方式で行う。指定教科書を用いるので、教科書購入を予定しておくこと。授業内容は、回数が減っても大幅な変更はない。配信資料として、パワーポイント音声入り講義動画、スライド印刷資料（受講生各自が印刷する）を授業日の前日に指定のURL上に公開する。本学ポータルサイトからURLにアクセスして、講義動画を視聴し、内容の理解に努める。配信資料等の案内は全てポータルサイトで行う。出席状況は、各回の「確認テスト」の回答送信により確認する。受講者は事前に指定教科書を読み、内容理解に努める。</p> <p>【授業時間外学習課題と質問・疑問への対応】対面形式であってもオンライン形式であっても、各回の講義内容の理解度を示す確認テストを受ける（本学ポータルサイトから指定のURLにアクセスして、受講生は確認テストの回答を送信する）。また各回の講義内容全体について復習をする。質問・疑問等は確認テストの所定欄に記入すると、次の講義において詳しい解説をする。なお、確認テストにおける得点、正解・不正解等については自動返信する。</p>						
【教科書・参考書など】						
指定教科書（テキスト）として、「はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ3 スポーツ生理学」富樫健二編著、化学同人（2018）を用いる。						
【成績評価方法】						
<p>【対面授業の場合】各回の確認テストにおける成績を40%とし、定期試験期間中に別途実施するテストの成績を60%とし、合計100%として最終的な成績を評価する。合格基準は60%以上とする。</p> <p>【オンライン授業の場合】各回の確認テストにおける成績を60%とし、最後に行う「最終確認テスト」の成績を40%とし、合計100%として最終的な成績を評価する。合格基準は60%以上とする。</p>						

科目名	スポーツ心理学			担当者	佐々木万丈	
英文名	Sport Psychology					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・必修			専門基礎・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	SBR203		
【目的とねらい】 スポーツ心理学の研究領域ですでに提出されている知見と最新の研究成果に関わる基礎的事項を学修することが目的である。学修するトピックは、競技スポーツに取り組む選手やその指導者にとって、また、健康運動活動に取り組む人々及びその指導実践にあたる人々にとって、さらに、幼児の運動あそびやその保育者にとって、それぞれの活動の効果を高める上で有用な内容である。運動やスポーツに取り組む人々、運動やあそびに取り組む幼児の心理を理解し、その活動や指導実践に活用できる知識の習得とその応用力を高めることが本講義のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツ心理学概説 【 到達目標 】 (1) スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。 (2) スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。（4.0hr）			第9回 スポーツ傷害と選手の心理 【 到達目標 】 (1) スポーツ選手の傷害発生を心理学的に理解し、説明することができる。 (2) ストレス理論を用いたスポーツ傷害の予防及び対処について説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第2回 スポーツと不安 【 到達目標 】 (1) 不安には2つの側面（状態不安と特性不安）が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。 (2) 逆U字理論を理解し説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。（4.0hr）			第10回 スポーツとバーンアウト 【 到達目標 】 (1) スポーツ選手のバーンアウト発症機序を説明できる。 (3) バーンアウトや学習性無力感に対する対処法を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。（4.0hr）			
第3回 スポーツとストレス 【 到達目標 】 (1) スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。（4.0hr）			第11回 スポーツとキャリアトランジション 【 到達目標 】 (1) スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。（4.0hr）			
第4回 スポーツと動機づけ（1） 【 到達目標 】 (1) 動機づけとは何かを理解し、説明できる。 (2) 自己決定理論を理解し、スポーツ行動がどのように起こるのか説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気を高める方法を考える）に取り組む。（4.0hr）			第12回 スポーツとライフスキル 【 到達目標 】 (1) スポーツ活動の効果の一つである心理社会的スキルはどのような心理的過程を経て習得されるのかを説明することができる。 (2) 心理社会的スキルがライフスキルに般化する過程を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第5回 スポーツと動機づけ（2） 【 到達目標 】 (1) 期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。 (2) スポーツ場面のやる気の高め方を具体的に説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。（4.0hr）			第13回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1) スポーツ活動場面におけるジェンダーに関わる問題や課題を具体的に説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（リッカート法、半構造化面接について調べる）に取り組む。（4.0hr）			
第6回 スポーツと運動学習 【 到達目標 】 (1) 運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。 (2) 効果的な運動学習の方法を理解し、説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説、文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。（4.0hr）			第14回 スポーツ心理学研究法（1）調査方法について 【 到達目標 】 (1) 質問紙法、面接法、事例研究法などを理解し、説明することができる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。（4.0hr）			
第7回 運動学習と認知 【 到達目標 】 (1) 認知とスキーマについて理解し、説明することができる。 (2) 高い運動スキルを支える認知的要因を説明できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（自分の心理的競技能力のレベルを測定する）に取り組む。（4.0hr）			第15回 スポーツ心理学研究法（2）統計法について 【 到達目標 】 (1) 度数分布、平均、分散、標準偏差について理解し、それぞれを実際に用いてデータを処理することができる。 【授業時間外学習】 本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。（4.0hr）			
第8回 スポーツと心理的競技能力 【 到達目標 】 (1) スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。 (2) DIPCAIIIにより自らの心理的競技能力を把握し、分析できる。 【授業時間外学習】 復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。（4.0hr）						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 授業ではパワーポイントにより要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者はスライドのみをノートに書き写すだけでは、学修としては不十分である。集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのスポーツ心理学ノートを作り上げるように努力する必要がある。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。授業以外の時間を有効に使い、復習と予習に取り組むことで知識の定着を図ることが重要である。特に復習課題は、次時の冒頭で要点を説明するので、授業後の復習は必ず取り組むことが求められる。						
【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅な変更は行わない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、学生支援課より指示された曜日の8:30に行う。配信先は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上であり、掲載期間は1週間とする。出席は、各授業回の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。復習課題及び予習課題に関しては、必要に応じて、全体に対しては動画を通じて、個別にはPhollyを用いて行う。						
【教科書・参考書など】						
教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、適宜、参考資料を配付する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 期末テストの結果（100％：試験は別途試験期間中に実施）に基づいて評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60％、まとめのレポート評価を40％とし、あわせて100％として評価する。合格基準は60％である。						

科目名	身体表現			担当者	木皿久美子	
英文名	Body Expression					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CBR201		
【目的とねらい】 子どもの身体表現の意義と発達の様子を理解し、発達段階に即した身体表現の指導と援助の方法を習得する。また、動きの特性を理解し、動きを読み取る力と自分自身の表現力を高め、動きによるコミュニケーションの技能を高めることを目的に、手遊びやリズムダンス、創造的な身体表現などを構成して発表を行い、自己・相互評価を展開する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1) 授業の進め方、評価の方法を理解する。 (2) 身体表現のねらいについて理解する。 【授業時間外学習】 授業への取り組みの心構えをつくる。(4.0hr)			第9回 いろいろな身体表現① 【 到達目標 】 (1) 伝承遊びや運動遊びに表現遊びを組み合わせ、楽しく身体を動かす。 【授業時間外学習】 他者からの視点で、自分の姿について想像してみる。(4.0hr)			
第2回 からだを使った遊び① 【 到達目標 】 (1) からだを使った遊びで（道具を使わない）、楽しく実技をする。 (2) リズムに乗ってからだを解放し、身体を自由に動かす。 【授業時間外学習】 他のからだ遊びを考える。(4.0hr)			第10回 いろいろな身体表現② 【 到達目標 】 (1) イメージになりきって踊り、楽しむ。 (2) グループ、大人数での運動遊びで、楽しく身体を動かす。 【授業時間外学習】 参考図書から調べてくる。(4.0hr)			
第3回 からだを使った遊び② 【 到達目標 】 (1) 模倣しあうことを体験し、動きを通してコミュニケーションを促進することを学ぶ。 【授業時間外学習】 他のからだ遊びを考える。(4.0hr)			第11回 動きづくり① 【 到達目標 】 (1) 子ども向けの体操・ダンスを創作する。 【授業時間外学習】 参考図書から自作の作品を考察する。(4.0hr)			
第4回 からだを使った遊び③ 【 到達目標 】 (1) 動きの方向や軌道、位置について理解する。 【授業時間外学習】 他者への対応の仕方が適切であるように心構えをする。(4.0hr)			第12回 動きづくり② 【 到達目標 】 (1) 子ども向けの体操・ダンスの指導と発表を行う。 【授業時間外学習】 発表時のシミュレーションをする。(4.0hr)			
第5回 からだを使った遊び④ 【 到達目標 】 (1) からだを使った遊びで（道具を使う）、楽しく実技をする。 【授業時間外学習】 他の運動遊びを考える。(4.0hr)			第13回 創作作品の発表 【 到達目標 】 (1) 子ども向けの体操・ダンスの指導と発表を行う。 【授業時間外学習】 自分の修正点から、今後の活用法を検討する。(4.0hr)			
第6回 からだを使った遊び⑤ 【 到達目標 】 (1) 日常で使う身近な物を使い、自由な発想を引き出す。 (2) 出てきた発想から様々な動きを創作する。 【授業時間外学習】 昔話を図書などで調べておく。(4.0hr)			第14回 身体表現の世界を知る（ビデオ鑑賞） 【 到達目標 】 (1) ビデオを鑑賞し身体表現について理解を深める。 【授業時間外学習】 自分の修正点から、今後の活用法を検討する。(4.0hr)			
第7回 いろいろな身体表現遊び① 【 到達目標 】 (1) 昔話で身体表現を楽しむ。 【授業時間外学習】 子どもの好きな童謡を調べておく。(4.0hr)			第15回 身体表現とは一本授業の振り返りー 【 到達目標 】 (1) いろいろな身体表現の学び方の確認をする。 【授業時間外学習】 授業で学んだことを自分の言葉で発表できるように準備する。(4.0hr)			
第8回 いろいろな身体表現遊び② 【 到達目標 】 (1) 童謡で身体表現を楽しむ。 (2) 童謡に合わせ、即興で身体表現をする。 【授業時間外学習】 子どもの自由に表現をしている姿を自分の姿に重ねる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 それぞれの運動遊びを実際に行いながら、遊びのねらい、保育者の援助、環境設定、安全への配慮についても学ぶ。身体を動かすことに喜びを持って、身体を動かすことを楽しみながら積極的に授業に参加すること。 毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。						
【オンラインの場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信する内容は、音声入りパワーポイント動画と学習内容となる技能や運動に関する動画である。配信は、授業が行われる日の朝9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の17:00まで掲載する。出席の確認は、課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 授業時に随時紹介する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 実技試験70%、レポート30% 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出されたレポート40%、期末のレポート60%として評価する。						

科目名	ダンスムーブメント			担当者	松山善弘	
英文名	Dance Movement					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CBR110		
授業形態	実技					
【目的とねらい】 音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズムカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな身心の育成をはかる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業の進行についてのオリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進行について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第9回 表現練習1 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第2回 リラクゼーションの習得1 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第10回 表現練習2 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第3回 リラクゼーションの習得2 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第11回 表現練習3 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第4回 リラクゼーションの習得3 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第12回 課題による身体表現1 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第5回 身体練習とリズム練習1 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第13回 課題による身体表現2 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第6回 身体練習とリズム練習2 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第14回 課題による身体表現3 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			
第7回 身体練習とリズム練習3 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)			第15回 課題発表と達成度の確認 【 到達目標 】 全体の確認をする事によって、ダンスに必要な要素を理解する。 【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをする事によって、ダンスについて更に理解を深める。(1.0hr)			
第8回 身体練習とリズム練習4 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 とにかく、自分が楽しんでダンスに接する事が出来るように、積極的に取り組んで下さい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本来の各授業回が予定されている週の時間割通りの曜日の9:00に本学ポータルサイトのPho1ly上にアップし、次週の授業日前日17:00まで掲載する。出席の確認は、各授業回の自習中の一部の様子を撮影した動画（15分程度）の提出と、所定の様式による練習報告書の提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 特ありません。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 時間毎のレポート60%、実技試験20%、授業内での活動の成果20%の割合で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出された動画並びに学習報告書を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	スポーツ原論			担当者	都 筑 真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	講義				CBR111	
【目的とねらい】 本講義では、古代から現代に至るまでのスポーツや体育の展開を概観しながら、これまでのスポーツや体育の在り様や諸問題について理解を深めることを目的とする。これまでのスポーツや体育の在り様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育の在り方を考察することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1) 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			第9回 体育の理念の変遷 【 到達目標 】 (1) 体育の理念の変化と、体育において求められる人間像の変化について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第2回 古代のスポーツ 【 到達目標 】 (1) ギリシャやローマなどの古代のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第10回 社会変化と今後の体育 【 到達目標 】 (1) 社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、今後の体育の在り方について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第3回 中世のスポーツ 【 到達目標 】 (1) ヨーロッパや日本などの中世のスポーツの在り様を理解し、現在のスポーツとの類似点や相違点について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第11回 スポーツのグローバル化とナショナルリズム 【 到達目標 】 (1) スポーツのグローバル化の背景や具体例を踏まえ、この現象がもたらす長所や問題点について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第4回 近代のスポーツ① 【 到達目標 】 (1) イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第12回 スポーツと政治 【 到達目標 】 (1) スポーツ界が掲げる「政治のスポーツへの不介入」という理想と現実の乖離について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第5回 近代スポーツ② 【 到達目標 】 (1) 近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第13回 スポーツとドーピング 【 到達目標 】 (1) スポーツ界におけるドーピング問題とアンチ・ドーピングの取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第6回 近代オリンピックの創始 【 到達目標 】 (1) 近代オリンピックが何故創始されたのかを理解する。 (2) 日本の近代オリンピックとの関わりを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第14回 スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1) スポーツ界における男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解する。 (2) 性の多様な在り方が引き起こす問題について考察する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第7回 近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題 【 到達目標 】 (1) 戦争、テロ、ボイコットなど近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第15回 「スポーツ・フォー・オール」運動 【 到達目標 】 (1) ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
第8回 体育とスポーツの違いと体育の目的 【 到達目標 】 (1) 体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解する。 (2) 体育は何を目的として行われているのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。						

科目名	幼児理解			担当者	倉盛美穂子	
英文名	Understanding Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CBR301		
【目的とねらい】 幼児理解は、よりよい保育・教育実践のための基本となるものである。本授業では、幼児理解の意義や原理を理解した上で、幼児の生活や遊びの観察を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を習得することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 幼児理解とは 【 到達目標 】 (1) 幼児理解の意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 子どもを理解する方法 - 集団を捉える - 【 到達目標 】 (1) 面接法を用いた研究結果から、子どもの発達を考察する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 子どもを理解する方法 観察法 - 発達を捉える - 【 到達目標 】 (1) 観察法の種類とその手法について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 感情の発達 【 到達目標 】 (1) 感情の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 子どもを理解する方法 観察法 - 学びを捉える - 【 到達目標 】 (1) 子どもや大人の行動を観察し、記録することができる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 道徳性の発達 【 到達目標 】 (1) 道徳性の発達について理解する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
第4回 子どもを理解する方法 質問紙法 - 個人差を捉える - 【 到達目標 】 (1) 質問紙法の種類とその手法について理解する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			第12回 自己の発達 【 到達目標 】 (1) 自己の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 子どもを理解する方法 質問紙法 - 全体的傾向を捉える - 【 到達目標 】 (1) 質問紙法を行い、結果を考察する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 発達の課題に応じた援助と関わり 【 到達目標 】 (1) つまづきとは何かを理解し、背景を推測することができる。 【授業時間外学習】 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
第6回 子どもを理解する方法 実験法 - 個人差を捉える - 【 到達目標 】 (1) 実験法の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			第14回 相談の技法 - カウンセリングとコンサルテーション - 【 到達目標 】 (1) カウンセリングマインドの意味するところがわかり、姿勢・態度として示すことができる。 【授業時間外学習】 実験結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			
第7回 子どもを理解する方法 実験法 - 全体的傾向を捉える - 【 到達目標 】 (1) 実験法を用いた研究結果から、子どもの発達を考察する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。(4.0hr)			第15回 保護者の心情理解と発達支援 【 到達目標 】 (1) 保護者の心情及び基礎的な対応の方法を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 子どもを理解する方法 面接法 - 個を捉える - 【 到達目標 】 (1) 面接法の基礎的な事柄を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 適宜資料を配布する。観察や事例をもとに討議しながら、理解を深める。質問は適宜受けつけ、次回の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出をすること。松原校舎で授業を行うこともある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する(Pholly)。質問は適宜受けつける。動画は、授業日の前日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。						
【教科書・参考書など】 参考書 「子どもの理解と援助」清水益治・森俊之(編)中央法規						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50% 【オンライン授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50%						

科目名	発達・教育相談			担当者	角田和也	
英文名	Developmental Consultation and Educational Counseling in Preschool					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CBR302		
【目的とねらい】 本来、発達・教育相談の対象年齢は幅広いが、ここでは主に乳幼児に焦点を絞り、保育現場で日常的に行われている発達相談および教育相談についての知識や技術を学習する。また、実際の保育現場で保育者が乳幼児とかかわる際に生じる問題や、特別な配慮が必要となる子どもたちへのかかわり方についても、発達相談および教育相談の視点からはどのように対処していく必要があるのかを学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／発達・教育相談 【到達目標】 (1)発達相談、教育相談とは何かを理解する。 (2)保育現場での「相談」の概要を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)			第9回 子ども理解の方法③ 「話す」ことについて① 【到達目標】 (1)子ども理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。 (2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第2回 発達・教育相談の実践 【到達目標】 (1)(前回の授業を受けて)保育者のかかわりが実際にどのような「相談」の流れの中で展開されるのか、その全体像を把握する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)			第10回 子ども理解の方法④ 「話す」ことについて② 【到達目標】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第3回 幼児教育における発達・教育相談の意義 【到達目標】 (1)保育者を目指す学生が発達・教育相談を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			第11回 子ども理解の方法⑤ 「みる」ことについて① 【到達目標】 (1)子ども理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。 (2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第4回 発達・教育相談の基本的事項① 実践のための基本的な理論・概念① 【到達目標】 (1)発達・教育相談の実践に必要な、臨床心理学(カウンセリング)の基本理論・概念を理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			第12回 子ども理解の方法⑥ 「みる」ことについて② 【到達目標】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第5回 発達・教育相談の基本的事項② 実践のための基本的な理論・概念② 【到達目標】 (1)前回の授業内容を踏まえ、発達・教育相談で実践されている臨床心理学(カウンセリング)の理論・概念について理解を深める。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			第13回 発達・教育相談の展開① 「私」が教育相談を行うために 【到達目標】 (1)テーマに沿って、実際に発達・教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第6回 発達・教育相談の基本的事項③ カウンセリングマインドの必要性 【到達目標】 (1)発達・教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			第14回 発達・教育相談の展開② 連携の必要性について 【到達目標】 (1)実際に発達・教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			
第7回 子ども理解の方法① 「きく」ことについて① 【到達目標】 (1)子ども理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。 (2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)			第15回 発達・教育相談の展開③ 組織的な取り組みの必要性について 【到達目標】 (1)発達・教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。(4.0hr)			
第8回 子ども理解の方法② 「きく」ことについて② 【到達目標】 (1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成した課題は後日提出してもらい、評価に反映させていただきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ④授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。						
【教科書・参考書など】 ・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する(オンライン形式の場合はオンライン上で配信する)プリント教材を使用します。 《参考書》①小田豊他編著『保育臨床相談』北大路書房、②現代保育実践研究会編『保育実践事例集』第一法規、③松橋有子他編著『精神保健』北大路書房、④文部科学省『幼稚園教育要領解説』(最新版)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。						

科目名	児童文化演習			担当者	諸富満希子・桐川 敦子 望月 久也	
英文名	Seminar in Children's Culture					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	演習				CBR303	
【目的とねらい】 1～5回は児童文化を歴史から振り返り、今を生きる子どもがこれからも共有・伝承し得る、子どもを主役とする文化に触れ、総合的に理解する。10回以降は学生が協力し合い人形劇を作成する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 児童文化の概念とその領域 (担当: 桐川敦子) 【到達目標】 児童文化という名称のなりたちや、児童文化についての諸々の捉え方、および領域区分について学んだ上で、幼稚園や保育園の現場で用いられる児童文化財を中心に学修を深めていくこの授業にあり方について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 中間まとめ・調整 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 三班の具体的な作業の中間まとめをし、合同で調整を行う。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)			
第2回 日本の児童文化の歴史と伝承 (担当: 桐川敦子) 【到達目標】 児童文化の流れを昔話、わらべ唄を中心に学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 役割分担(配役等)・練習 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 全体で上演の役割を決定し、各々練習を開始する。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。(4.0hr)			
第3回 現在の子どもの生活と文化 (担当: 桐川敦子) 【到達目標】 現在の子どもの取り巻く環境の変化を捉え、現在の子どもの文化について考える。情報機器及び教材の理解も深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 パート毎練習 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 役割や台本の部分的な練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)			
第4回 保育の中で取り上げられる児童文化財① (担当: 桐川敦子) 【到達目標】 遊具、玩具、おもちゃの由来と現状を理解する。幼稚園教育要領などを確認しながら、教材としての重要性を学習していく。また、一つ一つの児童文化財の保育における取り上げ方について、小学校との接続を考慮しながら考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 全体練習 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 役割全体や台本を通して練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。(4.0hr)			
第5回 保育の中で取り上げられる児童文化財② (担当: 桐川敦子) 【到達目標】 絵本や人形劇の種類、紙芝居の歴史、現状を理解する。パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターについて理解を深める。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れ、児童文化財を教材としての取り上げる際の留意点について理解し、指導計画を立てられるようにする。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 試演(リハーサル)・調整 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 発表本番を念頭に置いた練習の後、映像等で確認し調整する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)			
第6回 児童劇とは何か (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 子どもを対象とする演劇の概要と特質を理解し、先行作品を映像鑑賞することで、創作の手掛かりを得る。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 総稽古(ゲネプロ) (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 発表本番同様の上演をし、再度調整をする。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。(4.0hr)			
第7回 題材の検討と選定 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 劇にする物語を選び、構成・アレンジの概略を決定する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。(4.0hr)			第15回 作品発表(上演)・講評 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 鑑賞者の前で上演し、講評を行う。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を、責任を持って遂行できるよう準備する。(4.0hr)			
第8回 作業班分け、基本計画作成 (担当: 望月久也・諸富満希子) 【到達目標】 言葉、造形、音楽の班分けの後、基本計画を定め、調整を行う。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 1～5回(桐川)：幼少期から、どのような文化に触れてきたのか、自らの体験・経験を基に、これからよりよい文化を生み出す子どもたちへの支援について考える。 6回以降(望月・諸富)：実習が中心になるので自律的に活動し、動きやすい服装を手掛けること。基本的な用具(文房具や消耗品等)は各自で用意する。作品制作上必要な、素材、用具(含楽器)の調達も学習の一環とするが、教員が適宜援助する。 作品の完成度によっては、授業回数が増えることもあり、作品発表(上演)の時期も次年度に持ち越す場合もある。また新型コロナウイルスの感染状況によっては、一部オンライン授業となる場合がある。						
【教科書・参考書など】 文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 児童文化財についてのレポート50%、および作品制作・作品発表への貢献度50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下において実技授業の実施が著しく困難な場合は、児童文化財についてのレポート50%、および授業終了後の課題レポート50%で評価する。						

科目名	発育発達論			担当者	井筒紫乃	
英文名	Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE102		
【目的とねらい】 ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要な運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 発育発達とは、心理的特徴 【 到達目標 】 (1) 発育発達の概念を理解する。 (2) 身体計測の測定法を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)			第9回 中学生期の発育発達 【 到達目標 】 (1) 身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。 (2) 日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)			
第2回 地球の誕生・人類の誕生と進化 【 到達目標 】 (1) 地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。 (2) 人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。 【授業時間外学習】 ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)			第10回 高校生の発育発達 【 到達目標 】 (1) 高校生の身体の発育と心の発達を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)			
第3回 赤ちゃんの発育発達 【 到達目標 】 (1) 出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。 (2) 生物学的成熟度について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)			第11回 日本と世界の子ども身体的特徴と生活習慣の現状 【 到達目標 】 (1) 日本と世界の子ども身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 (2) 47都道府県の子ども身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、世界の子ども肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)			
第4回 発育発達期の身体的特徴(体重・身体組成) 【 到達目標 】 (1) 子どもの肥満の弊害について理解する。 (2) やせの問題について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)			第12回 発育発達期の運動プログラム 【 到達目標 】 (1) 発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。 (2) 発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。 【授業時間外学習】 子どもの運動プログラムを考える際、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第5回 幼児期前期(1～3歳)の発育発達 【 到達目標 】 (1) 幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2) 幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)			第13回 思春期の女性のからだ 【 到達目標 】 (1) 思春期の女性の身体的特徴を理解する。 (2) 思春期の身体の変化における心の発達を理解する。 【授業時間外学習】 思春期の女性の身体の変化の留意点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第6回 幼児期後期(4～5歳)の発育発達 【 到達目標 】 (1) 幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。 (2) 幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、スキヤモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)			第14回 女性とスポーツ 【 到達目標 】 (1) 女性選手の三主徴について理解する。 (2) 女性の痩せについて理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、女性アスリートを指導する際に、留意すべき点について意見をまとめてくること。(4.0hr)			
第7回 小学生期の発育発達 【 到達目標 】 (1) 小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。 (2) ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)			第15回 ヒトの一生と発育発達 【 到達目標 】 (1) ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、14回目まで作成したノートをまとめておくこと。(4.0hr)			
第8回 ジュニア期の運動発達 【 到達目標 】 (1) ジュニア期の身体の発育と運動発達の特徴について理解する。 (2) ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する理解度確認テストを行う。結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。補足資料を用い、ノートを作成していく。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の、講義内容に関する理解度確認テストを実施する。						
【教科書・参考書など】 特に指定はしない。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各授業回の理解度確認テストを60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 各授業の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート課題を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	造形表現 I			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	演習				CBE101	
【目的とねらい】 子どもと造形という観点に立ち、基本的な造形素材の特質および表現技法と、構成や色彩に関する理論等を、主に平面的創作を通じて学び、指導者としての基礎技能を身につけるとともに、自らの表現力と教材への応用力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 「造形表現」とは何か 【 到達目標 】 子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第9回 色彩の表現（調和と対比） 【 到達目標 】 バランスのととり方（4色）を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第2回 観察と描写（3次元から2次元へ） 【 到達目標 】 空間を平面として表現する方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第10回 平面構成（分割） 【 到達目標 】 美的な分割の方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第3回 観察と描写（形の捉え方） 【 到達目標 】 形をしっかりと見て、描くことができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第11回 平面構成（統合） 【 到達目標 】 まとめ方と変化のつけ方を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第4回 観察と描写（構図と空間） 【 到達目標 】 適切な配置とバランスを理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第12回 平面構成（配色） 【 到達目標 】 美的な配色の方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第5回 観察と描写（明暗とタッチ） 【 到達目標 】 面の変化と光との関係を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第13回 染色（パターン） 【 到達目標 】 効果的な染め方ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第6回 色彩について 【 到達目標 】 色とは何かを理解し、正しい色とその名称を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第14回 染色（コラーージュ） 【 到達目標 】 染めたものを作品に仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第7回 色彩の表現（色の三要素） 【 到達目標 】 色の特徴を知り、表現に生かす。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第15回 講評 【 到達目標 】 これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第8回 色彩の表現（補色対比） 【 到達目標 】 適切な配色（2色）ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習が中心になるので自律的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 対面による授業を原則とするが、状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その場合においても各授業回のテーマは変更せず、指定に応じて課題に取り組むこととする。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 ノートやレポート等の提出により制作過程を判断する。						

科目名	言葉				担当者	並木真理子	
英文名	Language in the Childcare						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	1					専門基礎・選択	
授業形態	演習		科目ナンバー	CBE102			
【目的とねらい】 子どもの言葉を豊かに育むことのできる保育者を目指し、児童文化財に関する知識を身に付け、実践演習を通して保育者に必要とされる言語表現力を身に付ける。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス／絵本をみる観点 【 到達目標 】 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。絵本を読む観点を学び、自主的に読み進める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見直しをもつ。課題に取り組む。(4.0hr)				第9回 紙芝居の作成と実演 【 到達目標 】 紙芝居の特性を活かして、ミニ紙芝居を作成する。グループ内で相互に自作の紙芝居の実演を行って、子どもが楽しめる演出の方法を追及する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、作成した紙芝居の動画を作成する。(4.0hr)			
第2回 保育者の言語表現 【 到達目標 】 保育現場における保育者の言語表現について知り、言語表現を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な語り方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				第10回 ペーパーサート・パネルシアターを楽しむ 【 到達目標 】 ペーパーサート、パネルシアターの特性を理解し、子どもが楽しめる実践方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第3回 ストーリーテリングと表現 【 到達目標 】 ストーリーテリングの概念と効果を知り、保育現場で行うストーリーテリングを実践する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な語り方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				第11回 言葉遊びを楽しむ 【 到達目標 】 言葉遊びを通して、言葉の面白さ、表現することの楽しさに触れる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第4回 絵本を知る 【 到達目標 】 様々な絵本に触れながら、絵本の種類や特質について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本構造や作家への理解を深める。課題に取り組む。(4.0hr)				第12回 児童文化財の作成 【 到達目標 】 オリジナルの絵本の作り方を学び、言葉のリズムを楽しみながら対象年齢に合わせた絵本を製作する。 【授業時間外学習】 発表に向けて、作成、読み聞かせの練習を行う。(4.0hr)			
第5回 読み聞かせの意義と方法 【 到達目標 】 読み聞かせの意義を学び、基本的な方法で練習し合って、読み聞かせのコツを掴む。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、保育者に必要な読み方の練習を行う。課題に取り組む。(4.0hr)				第13回 児童文化財の実演発表① 【 到達目標 】 グループごとに自作の絵本の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、課題に取り組む。(4.0hr)			
第6回 読み聞かせの実践 【 到達目標 】 対象とする子どもの年齢に合わせて、子どもが楽しめる読み聞かせ法を追求する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、子どもの言語発達過程を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第14回 児童文化財の実演発表② 【 到達目標 】 グループごとに自作の絵本の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、課題に取り組む。(4.0hr)			
第7回 読み聞かせから遊びへの展開 【 到達目標 】 読み聞かせから様々な遊びへの展開方法について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本の様々な応用方法を調べる。課題に取り組む。(4.0hr)				第15回 子どもの言葉を育む保育者の言語表現力 【 到達目標 】 保育現場における保育者の言語表現力について確認する。 【授業時間外学習】 配布プリントを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
第8回 紙芝居を知る 【 到達目標 】 様々な紙芝居に触れながら、紙芝居の歴史や特質、種類について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、紙芝居と絵本の違いへの理解を深める。課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・授業は講義と演習を組み合わせて行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、言語表現技術の向上に努めること。 なお、第13・14回に児童文化財の実演発表を行う。 ・自主的に絵本等の児童文化財に触れ、児童文化財をみる目を養うこと。 ・時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを記入する。振り返りシートをもとに次回授業でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。 ・配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。 ・相互に課題内容を共有するため、実践や作品について写真や動画での提出を求めることがある。 ・毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。 参考図書：『ベーシック絵本入門』生田美秋・石井光恵・藤本朝巳 編著（ミネルヴァ書房）2013年							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業内発表40%、グループワークや提出物20%、試験課題40%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 授業内発表30%、毎回の課題30%、試験課題40%として総合的に評価する。							

科目名	ソルフエージュ (楽典)			担当者	諸 富 満 希 子	
英文名	Solfège (Musical Grammar)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー	CBE103		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 楽器の演奏、歌唱、創作等、音楽活動において欠かすことの出来ない楽典の知識を深め、読譜力を付けることを目的とする。また、聴音やリズム打ちの練習を通して、音感、リズム感を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 音楽と楽譜 【 到達目標 】 音楽と楽譜の関係を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜に興味をもつとともに、授業時に出題する復習問題を解く。(4.0hr)			第9回 音階① 【 到達目標 】 長音階を理解する。 【授業時間外学習】 ハ・ト・ヘ長調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
第2回 五線と音部記号① 【 到達目標 】 五線と2種の音部記号について理解する。 【授業時間外学習】 高音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)			第10回 音階② 【 到達目標 】 短音階を理解する。 【授業時間外学習】 イ短調の音階をピアノで弾き、耳で音を確認する。(4.0hr)			
第3回 五線と音部記号② 【 到達目標 】 五線と2種の音部記号について理解する。 【授業時間外学習】 低音部譜表の音を読めるように練習する。(4.0hr)			第11回 移調① 【 到達目標 】 移調楽譜の作成が出来るようになる。 【授業時間外学習】 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
第4回 音符と休符 【 到達目標 】 音符と休符の意味と正しい書き方を覚える。 【授業時間外学習】 授業時に出題する楽曲を写譜する。(4.0hr)			第12回 移調② 【 到達目標 】 移調楽譜の作成が出来るようになる。 【授業時間外学習】 子どものうたを使って、移調楽譜を作成する。(4.0hr)			
第5回 拍子 【 到達目標 】 拍子と拍の関係を理解し、正しく数えられるようになる。 【授業時間外学習】 授業時に出題する楽曲を写譜する。(4.0hr)			第13回 和音とコードネーム① 【 到達目標 】 和音とコードネームを理解する。 【授業時間外学習】 コードネームのついた簡単な曲を使い、自分で伴奏譜を作成する。(4.0hr)			
第6回 リズム 【 到達目標 】 付点音符、連符を含めたリズムを正しく打てるようになる。 【授業時間外学習】 復習テストに向け、リズム課題を練習する。(4.0hr)			第14回 和音とコードネーム② 【 到達目標 】 セブンスのコードなど、少し難易度の高いコードを理解する。 【授業時間外学習】 ポップスなどで使用されているコードを用いながら、編曲に挑戦する。(4.0hr)			
第7回 音程① 【 到達目標 】 1、4、5、8度音程を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に出題する復習問題を解く。(4.0hr)			第15回 音楽用語・記号 【 到達目標 】 頻出する音楽用語・記号を理解する。 【授業時間外学習】 「器楽I」で使用している「バイエル」の中に使用されている用語を調べる。(4.0hr)			
第8回 音程② 【 到達目標 】 2、3、6、7度音程を理解する。 【授業時間外学習】 次回の復習テストに向け、音程全般を復習する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 各回の授業は、それ以前の授業の内容を理解しているという前提の上で展開される。毎回ノートをチェックし、読譜・リズムなどの理解度確認テストを行う。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドにて楽典部分を配信する。配信は、本来の各授業回が予定されている日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席の確認は、所定の様式による報告書の提出によって行う。なお、ソルフエージュの部分については対面授業を実施する。						
【教科書・参考書など】 適宜プリントを配布する。五線のノートは各自で用意すること。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 理解度復習テスト20%、提出課題20%、楽典問題の筆記テスト（聴音を含む）60%の割合で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においては、1回ごとの理解度復習テストを行わず、楽典問題の筆記テスト（聴音を含む）で100%評価を実施する。						

科目名	環境			担当者	鈴木信夫	
英文名	Environment					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門基礎・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CBE104		
【目的とねらい】 「幼児の心身成長に自然環境や社会環境、物的環境や人的環境が重要な役割を果たしている。家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。子どもの成長にとって望ましい「環境」を、「物的環境」「自然環境」「社会環境」の面から捉え、保育者に求められる援助について理解し、特に「自然環境」について、子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法、「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助、自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝える方法について学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 「環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)			第9回 植物の栽培と観察(2) 【到達目標】 冬季における植物の栽培例として、チューリップやヒヤシンスの栽培の基本を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで球根植物について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
第2回 環境とは 【到達目標】 子どもの成長にとって望ましい、「物的環境」「自然環境」「社会環境」について理解する。特に「物的環境」と「社会環境」について考える。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)			第10回 公園の自然 【到達目標】 都市部においても、公園を自然環境として活用することで、子どもの健全な成長を促すことができることを理解する。 【授業時間外学習】 都立公園についてインターネットで調べること。(4.0hr)			
第3回 自然環境とは 【到達目標】 子どもの成長にとって望ましい、「自然環境」について理解する。さらに自然環境が子どもの成長に及ぼす影響を考える。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料を読んでおくこと。(4.0hr)			第11回 水族館 【到達目標】 普段の生活では経験できない自然とのふれあいとして、水族館で出会える生き物について理解する。 【授業時間外学習】 代表的な水族館についてインターネットで調べること。(4.0hr)			
第4回 昆虫の特徴 【到達目標】 小さい子どもが興味を示す生き物として、昆虫を取り上げ、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料を読んでおくこと。(4.0hr)			第12回 いきものがし(1) 【到達目標】 冬になると多くの生き物は姿を消してしまうが、それぞれの方法で春を待っていることを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでミノムシについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
第5回 小動物の飼育と観察 【到達目標】 小動物の飼育の一例としてモンシロチョウの飼育と観察の要点を理解する。また、小動物を飼育することの意義を理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺の畑でモンシロチョウの産卵を観察すること。(4.0hr)			第13回 いきものがし(2) 【到達目標】 生き物を積極的に呼び戻す方法として、エコアップの技術を理解する。また、ビオトープの例としてトンボ池の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでビオトープの作り方を調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
第6回 野鳥観察 【到達目標】 園庭や公園で見られる都市鳥を覚えることで、野鳥観察の基本を理解する。野鳥の子育てについても理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺や自宅周辺で、授業で習った都市鳥を探すこと。(4.0hr)			第14回 記録する道具 【到達目標】 子ども達の様々な活動を記録する道具として、カメラの仕組みと撮影方法の基本を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでデジタルカメラの仕組みについて調べること。(4.0hr)			
第7回 植物の特徴 【到達目標】 植物を観察・栽培の基礎知識として、顕花植物の分類体系の基本を理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺や自宅周辺のセイヨウタンポポカントウタンポポを調べること。(4.0hr)			第15回 環境とは 【到達目標】 子どもの成長にとって望ましい、「物的環境」「自然環境」「社会環境」について総括する。それぞれの環境が、子どもの成長にどう影響するか、理解する。 【授業時間外学習】 これまでに配布された資料等を読み返し、理解を深める。(4.0hr)			
第8回 植物の栽培と観察(1) 【到達目標】 子どもがよく知っている植物として、アサガオの栽培の基本を理解する。また、子どもにとって植物を栽培することの意義を考える。 【授業時間外学習】 インターネットなどでアサガオの栽培について調べ、理解をさらに深めること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「リサイクルおもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。ほぼ毎時間、授業の終わりに講義内容等に関するレスポンスカードを書いてもらい、多かった疑問・質問等について、次回の授業の初めに説明する。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPho1ly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布（オンデマンドの場合は、Pho1ly上にPDF資料をアップ）する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】課題を20%、テストを80%として評価する。 【オンライン授業の場合】各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	健康			担当者	森田陽子	
英文名	Child Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	演習					
【目的とねらい】 乳幼児が自ら積極的に体を動かして活動に取り組み、心身ともに健康な生活を営むためには、どのような援助が必要なのかを理解する。様々な観点からの知識を得ることは、適時に適切な援助ができることに繋がることを学習する。保育者を目指す者として、乳幼児期の発育・発達の基礎を理解し、さまざまな事例を知ること、実践で役立つ力を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1) 授業内容や評価方法について知る。 【授業時間外学習】 この授業での目的とねらいを確認し、各自の学習目標をレポートする。(4.0hr)			第9回 幼児の運動能力についてーその1ー 【 到達目標 】 (1) 日本の体力測定の実態と現状について知る。 (2) 日本の子どもの運動能力測定について知る。 【授業時間外学習】 幼児の運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
第2回 妊婦と運動 【 到達目標 】 (1) 妊娠中の母体の変化を知る。 (2) 妊婦と運動について学ぶ。 【授業時間外学習】 妊婦と運動についての学びをレポートする。(4.0hr)			第10回 幼児の運動能力についてーその2ー 【 到達目標 】 (1) 全国で行われている幼児の運動能力の調査結果を知る。 (2) 附属幼稚園、附属保育園の測定結果を知る。 【授業時間外学習】 幼児の運動能力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
第3回 赤ちゃん体操 【 到達目標 】 (1) 赤ちゃん体操の歴史・実際を知る。 (2) ベビーマッサージについて知る。 【授業時間外学習】 赤ちゃん体操についての学びをレポートする。(4.0hr)			第11回 子どもとスポーツーその1ー 【 到達目標 】 (1) 運動能力と運動指導との関係を知る。 (2) 現場における運動指導の問題点を知る。 【授業時間外学習】 子どもとスポーツについての学びをレポートする。(4.0hr)			
第4回 発育発達 【 到達目標 】 (1) 出生前の発育・発達について知る。 (2) 出生後の発育・発達について知る。 【授業時間外学習】 発育発達についての学びをレポートする。(4.0hr)			第12回 子どもとスポーツーその2ー 【 到達目標 】 (1) 運動指導の問題点を改善するためにはどのような対策が必要か考えてみる。 【授業時間外学習】 子どもとスポーツについての学びをレポートする。(4.0hr)			
第5回 脳と運動 【 到達目標 】 (1) 脳の発達と運動との関係について学ぶ。 【授業時間外学習】 脳と運動についての学びをレポートする。(4.0hr)			第13回 親と子の運動あそびーその1ー 【 到達目標 】 (1) スキンシップを楽しむあそびの必要性を知る。 【授業時間外学習】 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。(4.0hr)			
第6回 運動発達 【 到達目標 】 (1) 運動動作の発達について学ぶ。 【授業時間外学習】 運動発達についての学びをレポートする。(4.0hr)			第14回 親と子の運動あそびーその2ー 【 到達目標 】 (1) 身近にあるものや誰でも知っている曲に合わせて親子で楽しめるあそびを考えてみる。 【授業時間外学習】 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。(4.0hr)			
第7回 発達段階と事故 【 到達目標 】 (1) 子どもの発達段階と事故発生との関係を知る。 【授業時間外学習】 発達段階と事故発生についての学びをレポートする。(4.0hr)			第15回 保育現場で実践されている様々な取り組みについて 【 到達目標 】 (1) 附属幼稚園や附属保育園、近隣の施設で取り組んでいる特徴ある活動について報告し、感想や意見を述べ合う。 【授業時間外学習】 保育現場で実践されている様々な取り組みについての学びをレポートする。(4.0hr)			
第8回 年齢と性差 【 到達目標 】 (1) 年齢と性による発育・発達の違いを知る。 【授業時間外学習】 年齢と性差についての学びをレポートする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 単元に応じた資料を基に講義を行う。さらに内容に即した映像を使ってより理解が深められるように授業を展開していく。 【対面授業の場合】 授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更がなくても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。						
【教科書・参考書など】 必要に応じて資料を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎回のレポート30%、課題プレゼンテーション30%、最終レポート40%。 【オンライン授業の場合】 毎回のレポート30%、最終レポート70%。						

科目名	歌唱法			担当者	諸 富 満 希 子	
英文名	Singing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	実技				CBE106	
【目的とねらい】 基礎となる正しい発声法を学ぶことによって、保育現場に立った時、疲労しにくい無理のない声で指導ができるようになることを目標とする。そして、子どもたちに音楽を通して楽しい表現活動を提供できるよう、現場に直結した「歌う」「動く」などの力を養う。また、独唱・合唱などの様々な歌唱形態を体験し、授業内での発表を通して、人前で豊かに表現することを学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 声の出るしくみ 【 到達目標 】 声の出るしくみを理解し、声を大切に必要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 毎日発声練習を行う。(1.0hr)			第9回 子どものうた④ 【 到達目標 】 秋を題材にしたうたを学習する。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
第2回 発声法の訓練 【 到達目標 】 基本的な発声練習に慣れる。 【授業時間外学習】 毎日発声練習を行う。(1.0hr)			第10回 子どものうた⑤ 【 到達目標 】 冬を題材にしたうたを学習する。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			
第3回 子どものうた① 【 到達目標 】 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			第11回 イタリア歌曲を歌う① 【 到達目標 】 イタリア語の発音に挑戦し、明るい声の響きをめざす。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
第4回 子どものうた② 【 到達目標 】 春を題材にしたうたを学習する。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			第12回 イタリア歌曲を歌う② 【 到達目標 】 イタリア語の発音に慣れ、歌曲を仕上げる。 【授業時間外学習】 プロの声楽家が歌ったイタリア歌曲を鑑賞する。(1.0hr)			
第5回 子どものうた③ 【 到達目標 】 夏を題材にしたうたを学習する。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			第13回 女声2部合唱① 【 到達目標 】 声の重なり合う美しさを感じるとともに、正確な音程を保つことができるよう心掛ける。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
第6回 わらべうた 【 到達目標 】 日本に伝承されているわらべうたを遊びながら覚える。 【授業時間外学習】 授業で習った以外のわらべうたを探す。(1.0hr)			第14回 女声2部合唱② 【 到達目標 】 他のパートを聴きながら歌うことができるようになる。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習する。(1.0hr)			
第7回 動きを伴ううた① 【 到達目標 】 手遊びや身体を使いながら歌ううたを実践しながら覚える。 【授業時間外学習】 授業時に学習したうたを復習し、次回までに覚える。(1.0hr)			第15回 発表会 【 到達目標 】 発表会における自分の役割を確実に果たす。音楽的な演奏ができるよう心掛ける。 【授業時間外学習】 学習したうたを子どもの前でも歌えるように復習する。(1.0hr)			
第8回 動きを伴ううた② 【 到達目標 】 手遊びや身体を使いながら歌ううたを創作する。 【授業時間外学習】 いろいろな遊びうたを探す。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 発声・音楽的な基礎練習は毎回行う。この授業はアクティブラーニングなので、積極的に声を出し歌うことが必要である。2年次の「保育内容（表現A）」で、幼稚園に行き園児といっしょに歌うので、1年次のうちにしっかり声を出し、子どものうたに慣れ親しむこと。一定の水準になるまで繰り返し学習を継続するため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、クラスを分割し人数を制限した上で指導を行い、一部オンラインで伴奏を配信し復習してもらう形をとる。						
【教科書・参考書など】						
「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）、その他適宜楽譜を配布する。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 子どものうた・イタリア歌曲・2部合唱などの実技演奏能力60%、授業内課題・発表会への取り組み方40%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、発表会は中止し、実技試験を個別に行う。その場合は、実技演奏能力60%、授業内課題への取り組み方40%で評価を行う。						

科目名	器楽 I			担当者	諸富満希子・森 立子 辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	実技				CBE107	
【目的とねらい】 ピアノ演奏技能の基礎を学びながら、高い感性を培うことを目標とする。 少人数のグループレッソンの形態でスタートし、経験度、到達度に応じた個人レッスンも交えて指導する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ピアノ演奏のための基本的事項について 【到達目標】 楽譜と鍵盤の関係、指番号などピアノ演奏の基本的事項を理解する。 【授業時間外学習】 読譜の練習をする。(1.0hr)			第9回 バイエル78番 【到達目標】 3声部構造を理解して弾く。 【授業時間外学習】 左手の5の指の音を保持する場合と保持しない場合を区別して練習する。(1.0hr)			
第2回 バイエル14番・31番 【到達目標】 1の指から5の指の動きを、いろいろなパターンでマスターする。 【授業時間外学習】 音をしっかりと読んだ上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)			第10回 バイエル80番 【到達目標】 二長調の音階を理解し、軽快な3拍子で演奏する。 【授業時間外学習】 装飾音や臨時記号の音を正確に読む。(1.0hr)			
第3回 バイエル87番・34番 【到達目標】 連弾の楽しさを味わう。他の演奏者と呼吸を合わせて弾くことを学ぶ。 【授業時間外学習】 連弾なので、止まらずに演奏できるように練習する。(1.0hr)			第11回 バイエル88番 【到達目標】 二長調の音階を理解するとともに、付点のリズムをレガートに弾く。 【授業時間外学習】 二長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第4回 バイエル58番 【到達目標】 右手のメロディーを強めに弾くとともに、左手の伴奏を柔らかく演奏する。 【授業時間外学習】 左手の伴奏型を繰り返し練習する。(1.0hr)			第12回 バイエル90番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。重音のときにメロディーがつながるように演奏する。 【授業時間外学習】 同音を連打するときの指使いを正確にし、音のバランスが取れるように練習する。(1.0hr)			
第5回 バイエル62番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。 【授業時間外学習】 6拍子にならず、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)			第13回 バイエル93番 【到達目標】 一時的な平行調への転調を意識して演奏する。 【授業時間外学習】 イ短調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第6回 バイエル66番 【到達目標】 8分の6拍子を理解して弾く。 【授業時間外学習】 前回は引き続き、2拍子の感じを出して演奏できるようにする。(1.0hr)			第14回 バイエル100番 【到達目標】 3部形式とコーダを理解して演奏する。 【授業時間外学習】 へ長調の音階とその指使いを確認する。(1.0hr)			
第7回 バイエル65番 【到達目標】 ハ長調の音階の指使いを理解する。 【授業時間外学習】 ハ長調のスケールを練習する。(1.0hr)			第15回 発表会 【到達目標】 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。 【授業時間外学習】 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
第8回 バイエル73番 【到達目標】 臨時記号を理解し、メロディーをレガートに演奏する。 【授業時間外学習】 強弱記号にも注意を払い、演奏に生かす。(1.0hr)						
【授業時間外学習】 毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。教員が認めた場合、ブルクミュラーなどに進む場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドで曲の模範演奏と学習上のポイントを配信するが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。						
【教科書・参考書など】 「バイエル」(全音楽譜出版)、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。						

科目名	バレーボール			担当者	ヨコ・カリン・セッターランド	
英文名	Volleyball					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	実技				CBE108	
【目的とねらい】 バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 バレーボールの歴史と発展 【 到達目標 】 (1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第9回 ゲームの進め方・ルール・審判法の理解 【 到達目標 】 (1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。 (2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第2回 基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) 【 到達目標 】 (1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。 (2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第10回 ゲーム実践Ⅰ 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第3回 基礎技能の応用(各種レシーブ・トス) 【 到達目標 】 (1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。 (2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第11回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)オフィシャルルールで実践する。 (2)すべてのポジションの役割を経験する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第4回 基礎技能の習得Ⅱ(サーブ) 【 到達目標 】 (1)アンダーハンドサーブ、フロッターサーブの打ち方をマスターする。 (2)狙ったコースへコントロールできる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第12回 個人技能の評価方法と技能修正方法 【 到達目標 】 (1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。 (2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第5回 基礎技能の習得Ⅲ(スパイク) 【 到達目標 】 (1)助走のステップ、スイングを身につける。 (2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第13回 バレーボールのポジションとその役割の理解 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第6回 集団技能の理解と集団での技術・戦術 【 到達目標 】 (1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。 (2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第14回 ゲーム実践Ⅲ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第7回 基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃) 【 到達目標 】 (1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			第15回 ゲーム実践Ⅳ 【 到達目標 】 (1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。 (2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)			
第8回 基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション) 【 到達目標 】 (1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。 【授業時間外学習】基礎技能の反復練習をし、技能習得に努める。ゲームをおこなう際のルールや各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリ類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更しない。全15回の授業を通じて各テーマについて理解を深め、各自が可能な範囲で技術の習得に取り組むこと。また、対面授業が可能となった際にはすみやかに実践できるように課題の自習にも取り組むこと。配信資料は、本来の対面授業が予定されている曜日の前日までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その1週間後まで掲載する。各課題の提出方法についてはPhollyにて行うこととし、接続トラブル等で提出が難しい場合には、メール添付にて提出も可とする。						
【教科書・参考書など】 教科書は特になし。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各回の提出されたレポートを毎回評価し、全授業終了時点で総合的に評価する(70%)。全授業終了後にまとめのレポートを実施し、評価する(30%)。						

科目名	スキー			担当者	中丸信吾	
英文名	Skiing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	SBE106		
【目的とねらい】 この授業の目的は、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを実践を通して学習し、ゲレンデで楽しく安全にスキーをする技術を習得することである。また、本実習を通して、生涯スポーツとして自然の中でスキーを楽しむ素養を身につけることをねらいとしている。併せて、本実習は宿泊集中授業で行うため、集団生活での配慮行動についても学習することとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スキー用具の取扱いと着脱方法、歩行、推進滑走、方向変換 【 到達目標 】 (1)スキー用具の取扱いと着脱方法を理解する。 (2)歩行と推進滑走を理解する。 (3)方向変換を理解する。			第9回 シュテム動作② 【 到達目標 】 (1)シュテム動作(切り替えの後に外スキーをハの字に開いて雪面をとらえること)を理解する。 (2)シュテム動作からターンの後半で内スキーを外スキーに揃える(シュテムターン)。 (3)徐々に外スキーのとらえを強くして、ターン前半から内スキーを外スキーに揃える。 (4)ストックワークを習得する。			
第2回 登行、直滑降、制動と停止、ブルークファーレン 【 到達目標 】 (1)登行の方法を理解する。 (2)直滑降の姿勢(スタンスとポジション)を理解する。 (3)ブルーク(スキーを進行方向に対して「ハ」の字にする)での制動と停止を理解する。 (4)ブルークで滑走(ブルークファーレン)を理解する。			第10回 基礎パラレルターン 小回り① 【 到達目標 】 (1)横滑りの展開をベースに横ずれを利用した小回り(小さな弧でのターン)を行う。 (2)滑走ブルークをベースに外スキーのとらえを強めて小回りを行う。 (3)徐々に実践的な滑り(斜度への対応とスピードコントロール)を目指す。 (4)ストックワークを習得する。			
第3回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1)ブルークファーレンから片方の外スキーを強めてターンを開始する。 (2)ブルーク姿勢で十分な制動をかけて連続ターン(制動のブルークボーゲン)を行う。 (3)徐々に制動を緩めたブルークボーゲンを行う。			第11回 基礎パラレルターン 小回り② 【 到達目標 】 (1)横滑りの展開をベースに横ずれを利用した小回り(小さな弧でのターン)を行う。 (2)滑走ブルークをベースに外スキーのとらえを強めて小回りを行う。 (3)徐々に実践的な滑り(斜度への対応とスピードコントロール)を目指す。 (4)ストックワークを習得する。			
第4回 滑走ブルーク① 【 到達目標 】 (1)片方の外スキーのとらえを強めると滑走性が高まることを理解する。 (2)徐々にターンの切り替え(ターンとターンのつなぎ目)で両スキーをパラレル(平行)に揃えていく。 (3)外スキーのとらえが強まると次々にパラレルスタンスに近づいていくことを理解する。			第12回 基礎パラレルターン 大回り① 【 到達目標 】 (1)滑走ブルークをベースに外スキーのとらえを強めて大回り(大きな弧でのターン)を行う。 (2)シュテムターンをベースに外スキーのとらえと内傾を強めて大回りを行う。 (3)徐々に実践的な滑り(斜度への対応とスピードコントロール)を目指す。 (4)ストックワークを習得する。			
第5回 滑走ブルーク② 【 到達目標 】 (1)片方の外スキーのとらえを強めると滑走性が高まることを理解する。 (2)徐々にターンの切り替え(ターンとターンのつなぎ目)で両スキーをパラレル(平行)に揃えていく。 (3)外スキーのとらえが強まると次々にパラレルスタンスに近づいていくことを理解する。			第13回 基礎パラレルターン 大回り② 【 到達目標 】 (1)滑走ブルークをベースに外スキーのとらえを強めて大回り(大きな弧でのターン)を行う。 (2)シュテムターンをベースに外スキーのとらえと内傾を強めて大回りを行う。 (3)徐々に実践的な滑り(斜度への対応とスピードコントロール)を目指す。 (4)ストックワークを習得する。			
第6回 横滑りの展開① 【 到達目標 】 (1)斜滑降(斜面を斜め方向に滑降すること:スキーと体の向きは同じ)を理解する。 (2)斜滑降の姿勢から体の向きに対してスキーを斜面の高い方に回旋して、横ズレを伴いながら滑る(横滑り)。 (3)直滑降から横滑り(斜滑降からの横滑りより、体の向きに対してスキーの回旋をさらに強めて滑る)を行う。			第14回 総合滑走① 【 到達目標 】 (1)身につけた技術を駆使して、緩斜面から急斜面などを自由に滑る。 (2)さまざまな雪質での滑り方の違いを理解する。 (3)不整地(コブ斜面)にも挑戦する。			
第7回 横滑りの展開② 【 到達目標 】 (1)斜滑降(斜面を斜め方向に滑降すること:スキーと体の向きは同じ)を理解する。 (2)斜滑降の姿勢から体の向きに対してスキーを斜面の高い方に回旋して、横ズレを伴いながら滑る(横滑り)。 (3)直滑降から横滑り(斜滑降からの横滑りより、体の向きに対してスキーの回旋をさらに強めて滑る)を行う。			第15回 総合滑走② 【 到達目標 】 (1)身につけた技術を駆使して、緩斜面から急斜面などを自由に滑る。 (2)さまざまな雪質での滑り方の違いを理解する。 (3)不整地(コブ斜面)にも挑戦する。			
第8回 シュテム動作① 【 到達目標 】 (1)シュテム動作(切り替えの後に外スキーをハの字に開いて雪面をとらえること)を理解する。 (2)シュテム動作からターンの後半で内スキーを外スキーに揃える(シュテムターン)。 (3)徐々に外スキーのとらえを強くして、ターン前半から内スキーを外スキーに揃える。 (4)ストックワークを習得する。						
【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習(北海道参加者¥85,000程度、岩手参加者¥80,000程度)に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。宿泊を伴うため、集団生活のあり方を十分理解し、他人に配慮した行動をとること。実習はグループ毎に活動するので、協力しながら積極的に取り組むこと。用具の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。 【オンライン授業の場合】 本実習では、必要に応じて一部の授業をオンライン形式(オンデマンド)で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし掲載する。出席の確認は、小レポートの提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 参考書:「日本スキー教程」(公財)全日本スキー連盟、2014年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート20%、スキー技術の理解度と習熟度70%、集団生活の適応度10%。 【オンライン授業の場合】 オンライン形式(オンデマンド)にて実施した授業は、各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、「スキー技術の理解度」の評価に含めることとする。						

科目名	スケート			担当者	湯田 淳	
英文名	Skating					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		専門基礎・選択			専門基礎・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	SBE107		
【目的とねらい】 スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケートイング等について学習及び実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でプレーキ ング及び停止をできるようにする。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 グループスケートイング（学外実習8） 【 到達目標 】 2～3人のグループで滑走できるようにする。			
第3回 リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑 走をできるようにする。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォ ークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解 説を行い、概略を理解する。			第13回 グループスケートイング、ミニホッケー（導入）（学外実習11） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践す る。			
第6回 基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4） 【 到達目標 】 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとでの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケートイングを 音楽に合わせて実践する。			
第7回 基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5） 【 到達目標 】 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。			第15回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケートイングを発表す る。			
第8回 基礎技術（ターン滑走）（学外実習6） 【 到達目標 】 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。						
【授業時間外学習】 自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。						
【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さら に他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケートイングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
【成績評価方法】 実技試験の達成度を40%、演技発表の完成度を40%、実習レポートの達成度を20%の割合として評価する。						

科目名	救急処置法			担当者	夏井裕明		
英文名	First Aid						
単位数	2	科目区分・必修 ／ 選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門基礎・選択	専門・選択	専門基礎・選択	
授業形態	講義		科目ナンバー	DDE205			
【目的とねらい】 本講義は臨床スポーツ医学の前編（外科系）として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)			第9回 D: 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ (膝関節) H: 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ (頸部から胸部) C: 学校生活における感染症対策 【 到達目標 】 D: 膝のスポーツ外傷・障害について理解する。 H: 頸部から胸部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 学校感染症の種類と特徴を学び、出席停止期間の根拠を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 58 - 61、90 を読む。(4.0hr)				
第2回 D: 女性とスポーツⅠ (受精から性成熟期まで) H: 外傷総論C: 女性とスポーツ 【 到達目標 】 D: 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 H: 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 C: 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。(4.0hr)			第10回 D: 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ (大腿、下腿、足部) H: 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ (頸部から背髄) C: 循環器・腎疾患・代謝性疾患と学校生活管理 【 到達目標 】 D: 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 H: 腰部のスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 循環器疾患、腎疾患を理解し、学校生活管理指導票を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 89 - 100 を読む。(4.0hr)				
第3回 D: 女性とスポーツⅡ (妊娠・出産から更年期まで) H: 応急処置総論C: 成長・発達的一般原則 【 到達目標 】 D: 女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。 H: RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 C: Scamionの発育曲線を学び、成長・発達的一般原則を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。(4.0hr)			第11回 D: 内臓的疾患とスポーツⅠ (循環器・呼吸器の急性疾患) H: 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ (膝の外傷) C: 呼吸器疾患に対する応急処置 【 到達目標 】 D: 運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。 H: 膝のスポーツ外傷について理解する。 C: 気管支喘息、運動誘発性喘息を理解し、喘息発作に対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 105 - 115 を読む。(4.0hr)				
第4回 D: 応急処置総論H: 頭部のスポーツ外傷C: 外傷総論 【 到達目標 】 D: RICE処置の内容・方法・効果について理解する。 H: 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 C: 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39、55 - 58、157 - 160 を読む。(4.0hr)			第12回 D: 内臓的疾患とスポーツⅡ (慢性疾患と感染症) H: 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ (膝の障害、大腿部) C: アナフィラキシーに対する応急処置 【 到達目標 】 D: 貧血と主な感染症について理解する。 H: 膝のスポーツ障害と大腿部のスポーツ外傷について理解する。 C: 食物アレルギーを理解し、アナフィラキシー・ショックに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 115 - 123 を読む。(4.0hr)				
第5回 D: 頭部のスポーツ外傷H: 顔面のスポーツ外傷C: 応急処置総論 【 到達目標 】 D: 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 H: 顔面外傷、鼻出血、歯牙損傷について理解する。 C: RICE処置の内容・方法・効果および止血法について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 233 - 241 を読む。(4.0hr)			第13回 D: 内臓的疾患とスポーツⅢ (熱中症) H: 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ (大腿・下腿、足部) C: 熱中症の応急処置 【 到達目標 】 D: 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 H: 大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 105、123 - 139 を読む。(4.0hr)				
第6回 D: 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ (鎖骨から肩関節) H: 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ (鎖骨から肩関節) C: 頭部外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 D: 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 H: 鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 72 を読む。(4.0hr)			第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。(4.0hr)				
第7回 D: 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ (上腕から手指) H: 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ (上腕から前腕) C: 上肢の外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 D: 上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 H: 上腕から前腕までのスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 発育発達期に起こりやすい上肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 72 - 83 を読む。(4.0hr)			第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、DLS (Basic Life Support) ができるようになる。 【授業時間外学習】 DLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。(4.0hr)				
第8回 D: 体幹のスポーツ外傷・障害 (頸部から腰部) H: 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅲ (手関節から指) C: 下肢の外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 D: 頸部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。 H: 手関節から指までのスポーツ外傷・障害について理解する。 C: 発育発達期に起こりやすい下肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 83 - 89 を読む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 本科目は選択科目ではあるが、教員免許 (D・H)、健康運動指導士 (H)、健康運動実践指導者 (H)、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者共通科 (H)、GFI (グループエクササイズ・フィットネス・インストラクター) (H)資格取得のための必修科目である。1年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。2年次後期開講の「スポーツ医学 (H)」も併せて履修することが望ましい。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド形式の授業を行う。授業前日までに各授業回の音声入りパワーポイント動画を本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップロードし、呼出・連絡掲示板を通じてURLと補足資料を配信する。視聴 (出席) の確認は小テスト問題の解答により行い、Phollyを通じて授業開始時刻から授業当日23時59分まで小テスト問題の解答を受け付ける。							
【実務経験のある教員による授業科目】 医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。							
【教科書・参考書など】 参考書: 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学 (第2版)」、小出清一他編、南江堂 「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人 日本スポーツ協会							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 試験成績 (100%) で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。 【オンライン授業の場合】 期末試験期間が設定される場合: 期末試験を行い、その試験成績 (100%) で成績を評価する。 期末試験期間が設定されない場合: 小テスト問題の解答で評価する。							

科目名	人間関係			担当者	角田和也	
英文名	Social Relation of Kindergarten Children and Nursery School Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CBE203		
【目的とねらい】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。 人間関係の基礎を培う乳幼児期を中心に、乳幼児の発達特性を踏まえながら、人のかかわりがどのように育っていくのかについて理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／この授業について／ヒトと他者のかかわり合いはいつ頃から始まるのか① 【到達目標】 (1) この授業で学習する内容が、領域「人間関係」に基づくものであることを理解する。 (2) 「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」について、自分の考えを説明できる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第9回 保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり⑦ 5歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 4歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 5歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第2回 ヒトと他者とのかかわり合いは、いつ頃から始まるのか②／子どもを取り巻く人間関係① 【到達目標】 (1) 「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」を理解する。 (2) 就園前後で変化する子どもたちの人間関係の様相を理解し、この中での保育者の役割を考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第10回 保育者と子どものかかわり⑦ 5歳児とのかかわり②／子ども同士のかかわりをどう援助していくのか① 【到達目標】 (1) 5歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 保育場面における子ども同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第3回 子どもを取り巻く人間関係②／保育者と子どものかかわり① 総論① 【到達目標】 (1) 前回授業で解説した「子どもたちの人間関係の様相」の中で保育者の役割を理解する。 (2) 各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第11回 子ども同士のかかわりをどう援助していくのか②／保育者同士のかかわり① 【到達目標】 (1) 保育場面における子ども同士のかかわりへの望ましい援助のあり方について考察する。 (2) 保育者同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第4回 保育者と子どものかかわり① 総論②／保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について理解する。 (2) 0歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第12回 保育者同士のかかわり②／保育者と保護者のかかわり① 【到達目標】 (1) 保育者同士のかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2) 保護者とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第5回 保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 0歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 1歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第13回 保育者と保護者のかかわり②／保育者と地域のかかわり① 【到達目標】 (1) 保護者とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2) 地域とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第6回 保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 1歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 2歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第14回 保育者と地域のかかわり② 【到達目標】 (1) 地域とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第7回 保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり⑤ 3歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 2歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 3歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第15回 保育者に求められる人間関係とは 【到達目標】 (1) これまでの授業内容を理解した上で、保育現場での実践に即した課題に対して具体的な対応方法を自ら考えることができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第8回 保育者と子どものかかわり⑤ 3歳児とのかかわり②／保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1) 3歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2) 4歳児とかわり合いの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 ・原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ・授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ・各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ・出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ・授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 【教科書・参考書など】 教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する(オンライン形式の場合はオンライン上で配信する)プリント教材を使用します。 参考書：①文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、②内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)、③厚生労働省『保育所保育指針』(最新版)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・毎授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。						

科目名	造形表現Ⅱ			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression II					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CBE204		
【目的とねらい】 1年次の造形表現Ⅰで培った基本的な技能や理論を展開させ、主に立体的、空間的創作を通じて、各種造形素材の特質や複合的な表現技法等を学び、指導者としての基礎技能を発展させるとともに、自らの表現力と教材への応用力を高める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 造形表現と時間 【 到達目標 】 視覚芸術と時間との関係を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第9回 立体表現(デザイン) 【 到達目標 】 粘土の特性と立体の構造を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第2回 平面表現から立体表現へ 【 到達目標 】 2次元から3次元へ展開する方法を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第10回 立体表現(粘土1) 【 到達目標 】 構造を考え正しい手順で作業できる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第3回 半立体表現(デザイン) 【 到達目標 】 浮き彫り、機能と装飾の関係を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第11回 立体表現(粘土2) 【 到達目標 】 可塑性を生かした効果的な表現ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第4回 半立体表現(木彫1) 【 到達目標 】 木材の特性と道具の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第12回 立体表現(粘土3) 【 到達目標 】 全体と細部を調整しながら仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第5回 半立体表現(木彫2) 【 到達目標 】 正しく安全な道具の使い方ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第13回 立体表現(プラスチック) 【 到達目標 】 プラスチックの特性を知り、表現に生かす。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第6回 半立体表現(木彫3) 【 到達目標 】 美的で効果的な彫りができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第14回 光と立体(ミクスト・メディア) 【 到達目標 】 発光と立体を調和させた表現を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第7回 半立体表現(着色と仕上げ1) 【 到達目標 】 美的で効果的な着色ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第15回 講評 【 到達目標 】 これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第8回 半立体表現(着色と仕上げ2) 【 到達目標 】 塗装の意義を理解し、適切に仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習が中心になるので自律的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具(画材や文房具等)は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 対面による授業を原則とするが、状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その場合においても各授業回のテーマは変更せず、指定に応じて課題に取り組むこととする。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題作品(結果)を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 ノートやレポート等の提出により制作過程を判断する。						

科目名	運動あそび			担当者	森田 陽子・木皿久美子	
英文名	Plays and Games for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CBE205		
【目的とねらい】 設定された運動あそびのテーマについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し事前指導を受ける。作成した指導案に基づき附属みどり幼稚園の園児とともに運動あそびを実践する。実践の後にディスカッションを行うことで、次週への課題を得るという演習形式で授業を展開する。事前、実践、事後の指導を通して、子どもを主体にした運動あそびはどのように行われるべきか、子どもがあそびを発見し創造し発展させていく活動の中で保育者がどのように準備し、どのように見守り、どのように関わればよいかについて学ぶことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)オリエンテーションを受け、授業の進行について理解する。 (2)指導案の作成の仕方を理解する。 (3)ディスカッションの観点、評価の仕方について理解する。 【授業時間外学習】 指導案立案の準備をする。(4.0hr)			第9回 功技台を使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 リーダーの決定、遊具の確認 【 到達目標 】 (1)計画表に基づき指導担当を決め、原案を検討する。 (2)施設や遊具について確認し、環境構成について考える。 【授業時間外学習】 指導案立案の準備をする。(4.0hr)			第10回 マットを使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 ボールを使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			第11回 功技台を使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 手具を使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			第12回 からだを使ったあそび…年少児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 運動能力測定を実施する…全園児 【 到達目標 】(1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。 (2)担当した種目の測定を実施する。 (3)子どもの様子を観察し、ノートに記録する。 (4)測定結果のデータを整理する。 【授業時間外学習】 事後学習として授業内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			第13回 手作りの道具を使ったあそび…年少児あそび 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 ボールを使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			第14回 移動遊具を使ってあそぶ…年少児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 手具を使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			第15回 いろいろな遊具を使ってあそぶ…年少児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 マットを使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 子どもと直接関わる授業なので、学生としてというよりも、教員としてふさわしい服装、髪型で出席すること。毎週2・3人のリーダーがあそびを展開していくことになるので十分に検討して指導案を作成し、事前指導を受けること。実践では内容や言葉かけが年齢に合っていたか、安全面の配慮はなされていたか、子どもが主体で楽しんでいただかなどについて記録する。毎回記録に基づきディスカッションをする。ディスカッションによって得られた課題を次週に活かしていく。 ただし、子どもと直接関わるができない場合は、学生が子ども役となり授業を展開していくこととする(対面授業参照)。その際は12回の授業とし、残り3回については、状況に応じて子どもと関わるようになってからの開講とする。						
【教科書・参考書など】 「0～5歳児の運動あそび指導百科」前橋 明著、ひかりのくに 「幼児体育指導ガイド」前橋 明編著、大学教育出版						
【成績評価方法】 実践指導70% (指導案作成、指導の実践、ディスカッション、実践後提出された指導案)、提出されたノートの内容を30%、を目安に評価する。						

科目名	バスケットボール			担当者	佐々木直基	
英文名	Basketball					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
授業形態	実技		科目ナンバー	CBE111		
【目的とねらい】 バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。また習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業のねらいと進め方 【 到達目標 】 (1)授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。 (2)導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。 【授業時間外学習】 バスケットボールに必要なコーディネーション能力について調べる。(1.0hr)			第9回 基礎的な個人技術 フリースロー① 【 到達目標 】 (1)ゲームの中でフリースローが起こる状況について理解する。 (2)フリースローの技術を習得する。 (3)ゲームを実践する。 【授業時間外学習】 フリースローの重要性について調べる。(1.0hr)			
第2回 基礎的な個人技術 コントロール 【 到達目標 】 (1)ボディコントロール（フットワークとハンドワークを含む）の技術を理解し、習得する。 (2)ボールコントロール（ボールハンドリング）の技術を理解し、習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 バスケットボールに必要なボディコントロールについて調べる。(1.0hr)			第10回 グループ戦術 パス&ラン 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としてのパス&ランの原則を理解する。 (2)パス&ランのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 バスケットボールのグループ戦術の種類について調べる。(1.0hr)			
第3回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート① 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 バスケットボールのワンハンドシュートについて調べる。(1.0hr)			第11回 チーム戦術 ドライブ&合わせ 【 到達目標 】 (1)グループ戦術としての1対1（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解する。 (2)ドライブ&合わせのグループ戦術を習得する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 バスケットボールのあわせる動きについて調べる。(1.0hr)			
第4回 基礎的な個人技術 セットシュートとジャンプシュート 【 到達目標 】 (1)セットシュートとジャンプシュートの違いを理解する。 (2)セットシュートとジャンプシュートそれぞれの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 シュートを用いたミニゲーム、ドリルについて調べる。(1.0hr)			第12回 基礎的な個人技術 ワンハンドシュート② 【 到達目標 】 (1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなワンハンドシュート（フック系・フローター系）の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 バスケットボールのシュートの種類について調べる。(1.0hr)			
第5回 基礎的な個人技術 パスとキャッチ 【 到達目標 】 (1)ボールキャッチの技術を習得する。 (2)いろいろなパスの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 バスケットボールに必要なキャッチング能力について調べる。(1.0hr)			第13回 基礎的な個人技術 レイアップシュート② 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)いろいろなレイアップシュート（バックシュート系・ステップの変化）の技術を実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 レイアップシュートの使い分けについて調べる。(1.0hr)			
第6回 基礎的な個人技術 レイアップシュート① 【 到達目標 】 (1)ドリブルからのレイアップシュートの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 レイアップシュートについて調べる。(1.0hr)			第14回 基礎的な個人技術 フリースロー② 【 到達目標 】 (1)フリースローの技術を習得する。 (2)ゲームの状況下でのフリースローを実践する。 (3)ゲームの中で個人技術、グループ戦術が発揮できる。 【授業時間外学習】 フリースローを獲得する場面について調べる。(1.0hr)			
第7回 基礎的な個人技術 ドリブル 【 到達目標 】 (1)ドリブルのチェンジ・オブ・ディレクションの技術を習得する。 (2)ドリブルのチェンジ・オブ・ベースの技術を習得する。 (3)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 バスケットボールのドリブルの種類について調べる。(1.0hr)			第15回 スキルの総合的検証 【 到達目標 】 (1)本実習で習得した基礎的な個人技術ができる。 【授業時間外学習】 本授業で扱った技術について整理する。(1.0hr)			
第8回 基礎的な個人技術 リバウンド 【 到達目標 】 (1)オフェンスリバウンドの技術を習得する。 (2)ミニゲームを実践する。 【授業時間外学習】 オフェンスリバウンドの効果について調べる。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリ類は決して身につけない。本実習はすべてグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく、積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。 【オンライン授業の場合】 可能な範囲でオンデマンド方式の授業を実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する資料や自習をサポートするための資料となる。資料配信の目安は、本来の各授業回が予定されている曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、原則として次回の授業まで掲載する。出席の確認は、各授業回の課題の提出によって確認する。ただし、評価のための技能レベルの確認が必要な場合はオンデマンド方式となっても対面授業を要することがある。						
【教科書・参考書など】 参考書 「バスケットボール指導教本改訂版 上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 平常授業での到達目標に対する到達度を50%、スキルテストを50%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回に提出された課題（動画や学習報告書など）の評価、さらに、全授業回終了時点でまとめのレポートを合わせて到達度として評価する。スキルテストについては可能な範囲でオンラインで実施するが、対面形式を要することがある。各授業回の到達度を50%、スキルテストを50%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	陸上競技			担当者	大橋 祐二	
英文名	Track and Field					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CBE112		
授業形態	実技					
【目的とねらい】 陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う競技である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験すること、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明（採点表） 【 到達目標 】 100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。また、単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。 【授業時間外学習】 陸上競技の種目およびルールを調べる。(1.0hr)			第9回 走り幅跳び：全助走跳躍 【 到達目標 】 踏切版に足が合う正確な助走距離を見つけ出す。 【授業時間外学習】 フェールをしないためには、どのようなことを意識して助走すれば良いかとめる。(1.0hr)			
第2回 100m走：中間疾走 【 到達目標 】 短距離走の走り方として、中間疾走の支持局面を意識して実践してみる。 【授業時間外学習】 中間疾走の技術を高めるためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)			第10回 走り幅跳び：記録測定① 【 到達目標 】 走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】 走り幅跳びの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
第3回 100m走：クラウチングスタート 【 到達目標 】 自分に合ったクラウチングスタートの方法を身につける。 【授業時間外学習】 スターティングブロックに上手く力を加える方法を考えまとめる。(1.0hr)			第11回 走り幅跳び：記録測定② 【 到達目標 】 前回の記録を更新するための改善点を見つけ出し、より高いレベルにチャレンジする。 【授業時間外学習】 前回は比べ改善できた点をまとめ、さらに記録を更新するために必要なことを考察する。(1.0hr)			
第4回 100m走：スタート～加速 【 到達目標 】 クラウチングスタートから最高速度に到達するまでの加速局面で、問題点を把握し、その改善を図る。 【授業時間外学習】 スムーズに加速するためにはどのような練習方法があるか調べる。(1.0hr)			第12回 砲丸投げ：基本技術とルール 【 到達目標 】 砲丸投げの基本技術である突き出し動作のドリルを実習する。また、砲丸投げのルールを理解する。 【授業時間外学習】 突き出し動作を強くする練習方法を調べる。(1.0hr)			
第5回 100m走：スタート～中間疾走 【 到達目標 】 100m走記録測定の準備として、100mという距離を体感する。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。 【授業時間外学習】 100m後半の減速を最小限に抑えるためにはどのような意識が大切かとめる。(1.0hr)			第13回 砲丸投げ：メディシンボールでの突き出し 【 到達目標 】 メディシンボールでの突き出し、砲丸での突き出しを繰り返し行うことによって、合理的な突き出し動作を身につける。 【授業時間外学習】 合理的な突き出し動作をするために意識することをまとめる。(1.0hr)			
第6回 100m走記録測定 【 到達目標 】 100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】 100m走の内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			第14回 砲丸投げ：ホップ、グライドからの投げ 【 到達目標 】 突き出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。 【授業時間外学習】 助走のスピードをうまく砲丸に伝えるために意識することをまとめる。(1.0hr)			
第7回 走り幅跳び：基本技術とルール 【 到達目標 】 走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術およびルールを身につける。 【授業時間外学習】 基本技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)			第15回 砲丸投げ記録測定 【 到達目標 】 砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。 【授業時間外学習】 砲丸投げの内省と記録を照らし合わせ、記録を更新するために必要なことをまとめる。(1.0hr)			
第8回 走り幅跳び：短助走跳躍 【 到達目標 】 短助走跳躍を実践する中で、自分に合った効果的な踏切技術を探り当てる。 【授業時間外学習】 踏切技術を高める練習方法を調べる。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式による陸上競技の知識に関する授業を30%、実技課題の自習による授業を60%、リアルタイム方式の陸上競技についての講義・質疑応答を10%実施する。学習内容となる技能や運動に関する動画ならびに参考資料を配信する。資料は、各授業開始時刻から一週間閲覧できるように本学Google Drive上にアップする。出席確認は、各授業回のレポート提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 『教師のための運動学』金子明友・監修 吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の提出されたレポートならびに動画を毎回評価する。さらに全授業回終了時点でまとめたレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめたレポートを40%とし、合計100%として評価する。						

科目名	野外活動			担当者	中丸信吾	
英文名	Outdoor Activities					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー			専門基礎・選択
授業形態	実習				CBE206	
【目的とねらい】 この授業の目的は、自然を活用したキャンプ（3泊4日）を行い、キャンプに必要な野外生活技術、環境を配慮した活動、登山等の活動、クラフト、キャンプファイヤー等を体験し学ぶことである。また、キャンプを通して自分自身や対人関係の理解、環境への配慮、リスクマネジメントの観点について考えることができるようになることをねらいとしている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 キャンプの概要 【 到達目標 】 (1) 授業の目的や意義について理解する。 (2) 自然との関わりについて理解する。			第9回 登山準備 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山ルート上の危険箇所について確認する。 (2) 登山計画書を準備する。			
第2回 グループ編成と係分担 【 到達目標 】 (1) グループ活動の意義を理解し、編成する。 (2) 各係の内容を理解し、グループ内で分担する。			第10回 登山① 【 到達目標 】 (1) 登山計画書を提出する。 (2) 登山係を中心にグループで協力して登山を行う。 (3) 事前に確認した危険箇所などに注意し安全に行う。			
第3回 テント・タープの設営方法 【 到達目標 】 (1) 設営場所の選び方を理解する。 (2) 設営作業手順を理解し実践する。			第11回 登山② 【 到達目標 】 (1) 登山係を中心にグループで協力して登山を行う。 (2) 天気の状態などを踏まえ、途中で昼食や休憩をとり、安全に下山する。			
第4回 野外炊事① 【 到達目標 】 (1) かまどの安全な使用方法について理解する。 (2) 薪割りの手順を実践し理解する。 (3) かまどでの火のつけ方と育て方を実践し理解する。 (4) ガスパバーナーの安全な使用方法について実践し理解する。			第12回 キャンプファイヤー 【 到達目標 】 (1) キャンプファイヤーの意義を理解する。 (2) キャンプファイヤー係を中心に実施する。			
第5回 野外炊事② 【 到達目標 】 (1) 薪やガスパバーナーなどの熱源を利用し、調理する。 (2) グループ内で役割を分担し、料理を完成させる。 (3) 衛生管理に注意して調理を行う。			第13回 クラフト 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 各自で作品を制作する。			
第6回 テント泊 【 到達目標 】 (1) 設置したテントで宿泊する。 (2) テントの快適な使用方法について実践し理解する。			第14回 撤収 【 到達目標 】 (1) 使用した装備を全て洗浄し収納する。 (2) 使用した施設の清掃を行う。			
第7回 チームビルディング① 【 到達目標 】 (1) 実践を通してグループで活動する意義を理解する。 (2) 自然を活用した課題解決型ゲームについて理解する。			第15回 まとめ 【 到達目標 】 (1) キャンプで体験したことをまとめる。 (2) キャンプを通して感じたことや考えたことを整理する。			
第8回 チームビルディング② 【 到達目標 】 (1) 実践を通してグループで活動する意義を理解する。 (2) 自然を活用した課題解決型ゲームについて理解する。						
【授業時間外学習】 各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。						
【学習上の留意点】 野外教育の理解を深めるため、「野外教育論」を履修することが望ましい。 【対面授業の場合】事前・事後指導に参加し、8月末または9月上旬に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。学外で実施するため、服装、言葉使いなど、日本女子体育大学の学生として相応しい言動を行うこと。キャンプ中はグループで活動する場面が多いため、各種活動ではグループへ貢献するとともに、各係の役割でリーダーシップを取ることを心がける。装備の取り扱いや管理は丁寧に行うこと。 【オンライン授業の場合】本実習では、必要に応じて一部の授業をオンライン形式（オンデマンド）で実施する。各授業回のテーマは原則的には変更せず、各自ができる範囲で指定された課題に自習し取り組むこととする。配信される資料は、学習内容となる技能や運動に関する動画と自習をサポートするための資料である。配信は、本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし掲載する。出席の確認は、小レポートの提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。 参考書：「キャンプ指導者入門」（公社）日本キャンプ協会、2016年						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 レポート40%、野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度30%、グループへの貢献度30%。 【オンライン授業の場合】 オンライン形式（オンデマンド）にて実施した授業は、各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、「野外教育の理解」の評価に含めることとする。						

科目名	子ども家庭支援論			担当者	石川 円	
英文名	Theory of Child and Family Support					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー	CBE301		
授業形態	講義					
【目的とねらい】 この授業の目的とねらいは次のとおりである。(1) 家族の意義と役割について理解する。(2) 家族の諸相と社会状況の変化について理解する。(3) 子育て支援体制の変遷と多様化について理解する。(4) 保育士による家族支援の意義と内容について理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 家庭の意義と機能 【 到達目標 】 (1)「家族」や「家庭」の意義や機能を理解する。 (2)保育士養成課程における本科目の位置づけを理解する。 【授業時間外学習】 受講前にシラバスの内容を確認しておく。(4.0hr)			第9回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 【 到達目標 】 (1)日本の子育て支援策の変遷と内容について理解する。 【授業時間外学習】 各種の支援策について調べる。(4.0hr)			
第2回 家庭支援の必要性 【 到達目標 】 家庭支援の支援の必要性について正しく理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書(テーマに該当する章)を読んでおく。(4.0hr)			第10回 多様な子育て支援サービス 【 到達目標 】 (1)さまざまな子育て支援サービスの内容を理解する。 【授業時間外学習】 自分が暮らしている地域で行われている子育て支援サービスを調査する。(4.0hr)			
第3回 保育士などが行う家庭支援の原理 【 到達目標 】 (1)家庭支援における保育士の役割を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に保育士の役割について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			第11回 保育所入所児童の家庭への支援 【 到達目標 】 (1)保育所に入所している子どもをもつ保護者への子育て支援について理解を深める。 【授業時間外学習】 実習で体験を思い出し、授業内容と照らし合わせる。(4.0hr)			
第4回 家庭生活をとりまく社会的状況の変化 【 到達目標 】 (1)社会的な状況の変化が子どもの養育環境に及ぼす影響について理解する 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)			第12回 地域の子育て家庭への支援 【 到達目標 】 (1)地域の子育て家庭への支援について理解する。 【授業時間外学習】 自分の暮らしている地域で行われている子育て支援について調べる。(4.0hr)			
第5回 地域社会の変容と家庭支援 【 到達目標 】 (1)地域社会の変化と家庭支援の関係性について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に自分や家族と地域のつながりについてまとめておく。(4.0hr)			第13回 要保護児童およびその家庭に対する支援 【 到達目標 】 (1)要保護児童とその家庭への対策について知る。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)			
第6回 現代の家庭における人間関係 【 到達目標 】 (1)家庭内の人間関係について考察し、理解を深める 【授業時間外学習】 小説や映画などに登場する子どもと家族との関係性について調べる。(4.0hr)			第14回 子育て支援における関係機関との連携 【 到達目標 】 (1)具体的な事例を用い、子育て支援の連携について理解を深める。 【授業時間外学習】 受講前にどのような子育て支援プログラムがあるか調べる。(4.0hr)			
第7回 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランスについて理解を深める。 【授業時間外学習】 受講前に近年の労働環境について調べておく。(4.0hr)			第15回 家族支援の課題と今後の展望 【 到達目標 】 (1)家族支援の課題と今後の展望について考える。 【授業時間外学習】 受講前にこれまでのノートをすべて読み、要点をまとめておく。(4.0hr)			
第8回 子育て家庭福祉を図るための社会資源 【 到達目標 】 (1)子育て家庭福祉を図るための社会資源の内容や役割について正しく理解する。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 私語厳禁、課題の提出期限を厳守すること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料です。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載します。出席は、各授業回の課題の提出で確認します。課題は、指定された形式で、期限内に提出するようにしてください。						
【教科書・参考書など】 なし						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業中の課題60%、期末レポート40% 【オンライン授業の場合】 課題の提出(100%)						

科目名	スポーツマネジメント			担当者	芳地泰幸	
英文名	Sport Management					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		専門基礎・選択			専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE214		
【目的とねらい】						
<p>近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日の状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スポーツマネジメントの発展 【 到達目標 】 (1) スポーツの様々な捉え方について理解する。 (2) スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。 【授業時間外学習】 経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)			第9回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント I 【 到達目標 】 (1) モチベーションとはなにかについて理解する。 (2) モチベーションの内容論について理解する。 【授業時間外学習】 何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)			
第2回 マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化 【 到達目標 】 (1) マネジメントの誕生（科学的管理法）について理解する。 (2) スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)			第10回 スポーツ組織のモチベーション・マネジメント II 【 到達目標 】 (1) モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。 (2) 身近な組織のモチベーション・マネジメントに向けた効果的な改善策を立案する。 【授業時間外学習】 どのようにモチベーションが生起し、変化するのか、考えてみる。(4.0hr)			
第3回 スポーツビジネス（企業）の目的と責任 【 到達目標 】 (1) 企業の目的について理解する。 (2) マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)			第11回 スポーツ組織におけるリーダーシップ 【 到達目標 】 (1) リーダーシップの役割、機能について理解する。 (2) リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論）を理解する。 【授業時間外学習】 優れたリーダーはどのような特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)			
第4回 スポーツマーケティングの意義と役割 【 到達目標 】 (1) マーケティングとセリングの違いを理解する。 (2) マーケティングにおける市場細分化とターゲティングを理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)			第12回 組織変革とリーダーシップ 【 到達目標 】 (1) 変革型リーダーシップについて理解する。 (2) 組織におけるリーダーシップとマネジメントの違いについて理解する。 【授業時間外学習】 リーダーとマネジャーの違いについて、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
第5回 マーケティング戦略とスポーツプロダクト 【 到達目標 】 (1) マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。 (2) スポーツプロダクト（有形・無形）の捉え方について理解する。 【授業時間外学習】 ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)			第13回 チーム作りとチームビルディング 【 到達目標 】 (1) チームビルディングの手法について理解する。 (2) チームワークを育むコミュニケーションについて理解する。 【授業時間外学習】 チームが機能するとはどのような状態か、身近な事例から整理する。(4.0hr)			
第6回 スポーツ事業の経営戦略 【 到達目標 】 (1) 代表的な環境分析の手法を理解する。 (2) 基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。 【授業時間外学習】 成功している企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)			第14回 スポーツ施設の運営と管理 【 到達目標 】 (1) 我が国のスポーツ施設の現状を理解する。 (2) スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。 【授業時間外学習】 身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)			
第7回 スポーツ組織のマネジメント 【 到達目標 】 (1) 組織とは何かを理解する。 (2) 組織成立の要件を理解する。 【授業時間外学習】 組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)			第15回 スポーツ施設のデザインとユーザビリティ 【 到達目標 】 (1) ユニバーサルデザイン（UD）の視点を理解する。 (2) ユーザビリティを高めるための改善手法を理解する。 【授業時間外学習】 誰もが快適に、安全に利用できる施設や空間の設計・デザイン等について整理する。(4.0hr)			
第8回 スポーツ組織の人的（情緒的）側面 【 到達目標 】 (1) 経営管理における人間関係論を理解する。 (2) 人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。 【授業時間外学習】 組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 パワーポイントを使用して講義をおこなう。関連資料やVTR等の補助教材も活用し、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は専用のノートを準備し、適宜板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（レスポンスカード）を実施し、次の講義時にフィードバックをおこなう。さらに、時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と関連資料である。配信日時は大学の定めた授業時間割に基づき、原則、授業実施日当日の午前9:00に大学ポータルにて配信する（受講するためのURLを送付する）。受講生は専用のノートを準備し、講義動画を視聴しながら適宜、板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。出席は、Google Formsに指定された内容を入力し、送信完了をもって出席と判断する。受講可能期間は原則、公開（配信）後、一週間である。						
【教科書・参考書など】						
教科書は特に定めない。 <参考書>「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。 ※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テストや課題レポート（講義内での小レポートやミニッツペーパーを含む）を実施する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る評価を40%、定期試験を60%とし、あわせて100%として総合評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テスト（小レポート含む）をGoogle FormsまたはPhollyで実施し、毎回評価する。さらに全授業終了時点で最終レポート課題を課し、評価する。各授業回の評価を60%、最終レポート評価を40%とし、あわせて100%として総合評価する。						

科目名	衛生学・公衆衛生学			担当者	助友裕子	
英文名	Hygiene and Public Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					
授業形態	講義		科目ナンバー	CBE114		
【目的とねらい】 我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。これらの内容は、自立した社会生活を営むためや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康と公衆衛生 【到達目標】 (1)健康には様々な考え方があることを知る。 (2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。 【授業時間外学習】 公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)			第9回 感染症対策 【到達目標】 (1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。 (2)主な感染症について理解する。 【授業時間外学習】 咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)			
第2回 保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか 【到達目標】 (1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。 【授業時間外学習】 政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)			第10回 環境保健 【到達目標】 (1)人間と環境のかかわりについて理解する。 (2)環境問題とその対策について知る。 【授業時間外学習】 地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			
第3回 疫学：その健康情報はどこからくるか 【到達目標】 (1)疫学の起源について知る。 (2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。 【授業時間外学習】 喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)			第11回 産業保健 【到達目標】 (1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)			
第4回 ヘルスプロモーション 【到達目標】 (1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。 【授業時間外学習】 本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)			第12回 メンタルヘルス対策 【到達目標】 (1)精神疾患の現状とその対策について知る。 【授業時間外学習】 厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)			
第5回 世界と日本の健康戦略 【到達目標】 (1)世界の健康戦略の流れを知る。 (2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び、説明できるようにしておく。(4.0hr)			第13回 親子保健 【到達目標】 (1)我が国の母子保健の水準を知る。 (2)母子保健活動の動向について理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第6回 健康の社会的決定要因 【到達目標】 (1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。 【授業時間外学習】 現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)			第14回 地域保健 【到達目標】 (1)地域の様々な保健活動を知る。 (2)健康なまちづくりについて理解する。 【授業時間外学習】 自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)			
第7回 生活の場と健康 【到達目標】 (1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。 (2)WHOのsettingsアプローチを理解する。 【授業時間外学習】 一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)			第15回 災害時の公衆衛生 【到達目標】 (1)災害の種類とその備えについて知る。 (2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。 【授業時間外学習】 少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)			
第8回 がん対策 【到達目標】 (1)がんが身近な疾病であることを理解する。 (2)我が国のがん対策の現状を知る。 【授業時間外学習】 がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】毎回の講義で、その回のキークエスションに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を原則とする。授業内容は、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料等である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一週月曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間掲載する。出席は、各授業回の課題提出（GoogleフォームとPhollyの併用による）によって確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 「学生のための現代公衆衛生 第7版」野中浩一編著（南山堂） このほかに適宜資料を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。 【オンライン授業の場合】各授業回の課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに、全授業回終了時点で確認課題の実施をもって評価する。各授業回の総合評価50%、確認課題の達成度50%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	子どものスポーツプログラミング			担当者	森田陽子	
英文名	Sports Programing for Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	演習				CBE207	
【目的とねらい】 子どもの発育・発達に応じて、運動や将来のスポーツ活動や健康な日常生活の基本となる「動き」の習得を促すために、将来、幼稚園教諭や保育士、子どものスポーツ指導を目指す者等がどのように関与すべきかを理解する。具体的には、様々な年代の子ども達に対して、どのような遊びや動きを通してスポーツの基礎となるものを習得させていくのか、積極的に運動に取り組む習慣を身につけさせるにはどうすればよいかについての方法を考案し、実践する。						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 ガイダンスでこの授業の必要性やこの授業によって獲得してほしい能力について理解する。また、実際に身体を動かしながら、体得し実践できる力を養う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第9回 子どもの体力向上を目指す遊び③ 【 到達目標 】 「投動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第2回 子どもの運動遊びの実践① 【 到達目標 】 「歩く」「走る」「跳ぶ」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第10回 子どもの体力向上を目指す遊びの指導 【 到達目標 】 7・8・9回の学びから、現代社会の問題点である「子どもの体力向上」を目指し、幼稚園や保育園でできる運動遊びについて、その指導案を考案する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第3回 子どもの運動遊びの実践② 【 到達目標 】 「道具を使わない運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第11回 発表・グループワーク 【 到達目標 】 「体力向上のための」遊びや運動の指導を実際に行い、それぞれの考え方やその問題点を検討し、よりよいものを完成させる。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第4回 子どもの運動遊びの実践③ 【 到達目標 】 「道具を使った運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第12回 総合的実践指導① 【 到達目標 】 これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第5回 子どもの運動遊びの指導 【 到達目標 】 2・3・4回の授業で行った、「子どもの運動遊び」の学びから、その指導案を考案する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第13回 総合的実践指導② 【 到達目標 】 これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第6回 発表・グループワーク 【 到達目標 】 実際に指導を行い、それぞれの良い点、修正点を検討し、よりよいものを完成させる。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第14回 総合的実践指導③ 【 到達目標 】 これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			
第7回 子どもの体力向上を目指す遊び① 【 到達目標 】 「走動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)			第15回 総合的実践指導④ 【 到達目標 】 これまでの授業の学びの中から、幼稚園や保育園の子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を立案し、実践する。 15回の授業で学んできた「動き」「遊び」に対しての学びをまとめる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ内容についてレポートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 子どもの体力向上を目指す遊び② 【 到達目標 】 「跳動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実技を伴う授業なので、必ず運動できる服装に着替えること。自分たちが考案した指導案を実践するなかで、運動が発生する感覚を、子どもが実際に身につけられるかを検証しながら考えることが大切である。また他の班の考案した指導案を実施し、お互いに意見を出しながら各自の指導案を完成させる。完成した指導案を全員が共有し、各々が現場で実践できるように学習する必要がある。尚、本授業は実際に園児が参加する場合もあることから、服装、シューズ等には留意すること。後半には附属幼稚園や附属保育園、または近隣の幼稚園、保育園の子ども達と一緒に授業を展開する。 ただし、子どもと直接関わることができない場合は、学生が子ども役となり授業を展開していくこととする。状況に応じて臨機応変に対応していく。						
【教科書・参考書など】 開講時に随時紹介する。						
【成績評価方法】 授業の習熟度、積極性・理解度50%、指導案・実技指導50%で評価する。						

科目名	器楽Ⅱ			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織	
英文名	Instrumental Music Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門基礎・選択
授業形態	実技		科目ナンバー	CBE302		
【目的とねらい】 器楽Ⅰ（1年次）で学んだピアノ演奏の基礎をふまえ、さらに演奏技術の向上をめざす。 レベルに応じた個人レッスンをおこなうが、各自が演奏技術だけでなく、豊かで自然な表現力を持って演奏することができることを目標とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 バイエルの復習 【 到達目標 】 器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、基礎を再確認する。 【授業時間外学習】 1年次の最後に弾いた曲を復習する。(1.0hr)			第9回 ブルクミュラー10・15・18番 【 到達目標 】 10番・15番・18番のいずれかの曲を暗譜して弾くことができる。 【授業時間外学習】 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			
第2回 ブルクミュラー2番 【 到達目標 】 一定の速さの中で、16分音符が均等に弾けるようにする。 【授業時間外学習】 音をしっかり読んで上で、片手ずつ練習する。(1.0hr)			第10回 ブルクミュラー19番 【 到達目標 】 レガート奏法を学ぶとともに、ペダルの踏み方を再確認する。 【授業時間外学習】 「アヴェ・マリア」という曲の意味を調べ、同名の他の作品を鑑賞してみる。(1.0hr)			
第3回 ブルクミュラー3番 【 到達目標 】 音楽的表現を試みるとともに、ペダルの踏み方を学ぶ。 【授業時間外学習】 この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)			第11回 ブルクミュラー23番 【 到達目標 】 主旋律がどこにあるのかを確認し、メロディーラインをきれいに歌う。 【授業時間外学習】 和音を揃えて弾くことができるようにする。(1.0hr)			
第4回 ブルクミュラー5番 【 到達目標 】 滑らかな運指を学ぶ。 【授業時間外学習】 指使いに注意しながら、へ長調の音階を練習する。(1.0hr)			第12回 ブルクミュラー25番 【 到達目標 】 情景を思い浮かべ、音楽的に演奏する。3連符、16分音符などの速さを正確に演奏する。 【授業時間外学習】 この曲の情景を言語化し、物語を創作する。(1.0hr)			
第5回 ブルクミュラー2・3・5番 【 到達目標 】 2番・3番・5番のいずれかの曲を暗譜して弾くことができる。 【授業時間外学習】 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			第13回 クレメンティ (op. 36-1) 1楽章 【 到達目標 】 ソナタ形式を理解して演奏する。 【授業時間外学習】 クレメンティという作曲家について、また彼が生きた時代の音楽について調べる。(1.0hr)			
第6回 ブルクミュラー10番 【 到達目標 】 二長調に慣れる。ゆっくりした速さの中で、音楽的に表現する。 【授業時間外学習】 指使いに注意しながら、二長調の音階を練習する。(1.0hr)			第14回 ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ (op. 36-1) 1楽章 【 到達目標 】 ブルクミュラー19・23・25番、クレメンティ 1楽章の中から1曲暗譜して弾くことができる。 【授業時間外学習】 曲の全体像をとらえながら演奏ができるように練習する。(1.0hr)			
第7回 ブルクミュラー15番 【 到達目標 】 左手のメロディーを生かしながら、緊迫感のある演奏をする。 【授業時間外学習】 同主調への転調を感じ取り、その変化を言語化して説明ができるようにする。(1.0hr)			第15回 発表会 【 到達目標 】 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。 【授業時間外学習】 緊張の中でも演奏できるように、曲を弾きこむ。(1.0hr)			
第8回 ブルクミュラー18番 【 到達目標 】 右手の16部休符を休みととらえず、メロディーがつながっていくような演奏を心掛ける。 【授業時間外学習】 指使いに注意しながら、ホ短調の音階を練習する。平行調への転調を意識する。(1.0hr)						
【授業時間外学習】 読譜を正確におこなったうえで、毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。初心者には指定されたブルクミュラーの中から5曲弾けることを目指す。また、上級者はこれらの曲が終了したのち「学習者のためのピアノ名曲選」に進み、ロマン派を中心とした作曲家の作品に触れていく。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンド授業を実施し、曲の背景や演奏上のポイントを配信するが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。						
【教科書・参考書など】 「ブルクミュラー25の練習曲」（全音楽譜出版）、「ソナチネアルバム」（全音楽譜出版）、「学習者のためのピアノ名曲選」（ドレミ出版）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。						

科目名	器械運動			担当者	森井大樹	
英文名	Apparatus Exercise					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー	CBE115		
授業形態	実技					
【目的とねらい】 達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階の練習方法を通して身につけていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 マット運動の基礎技能 【 到達目標 】 (1) 器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。 (2) マット運動の基礎技能の習熟を図る。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第9回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)④ 【 到達目標 】 (1) ハンドスプリングの技能テスト。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第2回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)① 【 到達目標 】 (1) 倒立の基礎知識・技能を習得する。 (2) 前転、後転の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第10回 とび箱運動(反転系の技の基礎技能) 【 到達目標 】 (1) 反転系の技の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第3回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)② 【 到達目標 】 (1) 倒立の静止技能および歩行技能を習得する。 (2) 前転、後転の変形技を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第11回 とび箱運動(反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第4回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)③ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能を習得する。 (2) 伸膝後転の技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第12回 とび箱運動(反転系の技・開脚とび) 【 到達目標 】 (1) 開脚とびの技能を習得する。 (2) 開脚とびの技能テスト。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第5回 マット運動(倒立の基礎・接転系の技)④ 【 到達目標 】 (1) 倒立前転の技能テスト。 (2) 伸膝後転の技能テスト。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第13回 鉄棒運動(支持回転系の技)① 【 到達目標 】 (1) 鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第6回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)① 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第14回 鉄棒運動(支持回転系の技)② 【 到達目標 】 (1) 支持回転系の技の技能を習得する。 (2) 支持回転系の技の技能テスト。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第7回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)② 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能を習得する。 (2) ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			第15回 課題の達成度と身体知 【 到達目標 】 (1) 技の習得に必要な身体知について理解する。 (2) 達成できた動きの身体知について理解する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)			
第8回 マット運動(倒立回転系・倒立回転とびの技)③ 【 到達目標 】 (1) 側方倒立回転の技能テスト。 (2) ハンドスプリングの技能を習得する。 【授業時間外学習】 各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、次の授業に向けてのどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらかじめ動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容や成績評価方法は原則的に変更しない。課題技の基礎技能に関する学習部分のみをオンラインで実施することになる。各自ができる範囲で指定された課題に取り組むことを望む。課された運動課題に関する感覚記述、提出をもって出席確認をする。課題技の達成度に関する確認は、原則的に対面授業で実施するので、補講措置を取る場合もある。						
【教科書・参考書など】 <参考書> 「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題技の達成度 100% 【オンライン授業の場合】 課題技の達成度 100%						

科目名	サッカー			担当者	鈴木健介	
英文名	Soccer					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	実技				CBE116	
【目的とねらい】 サッカーの基本的な技術を習得することが本授業の目的である。そのために、ボールに触れる機会がサッカーより断然多いフットサルのゲームをサッカーの練習と並行して行っていく。①フットサルの基本技術をドリブルし、スキルとして習得できるよう努力する。②チーム構成員同士が勝利を目指し、協力し合う態度を学ぶ。③ゲームを楽しむためには相手チームの選手やレフェリーを尊重しなければならないという現実を認識し、フェアな態度や他者への思いやり等を学ぶ。以上のことを目的として本授業を展開する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ボールコントロールとキックのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第9回 3人目のプレーヤーを使う攻撃のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)3人目のプレーヤーを使うタイミング、使われるタイミングを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第2回 ボールコントロールとヘディングのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第10回 ボールを奪うトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)タックルのタイミングと方法を理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第3回 ボールコントロールとドリブルのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)技術のコツを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第11回 守備におけるチャレンジとカバーのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)チャレンジとカバーについて理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第4回 コミュニケーションのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)コミュニケーションのタイミングを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第12回 クロスボールからの攻撃パターンのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)クロスボールからシュートまでのパターンを3種類実践し、シュートまでつながるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第5回 視野の確保のトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)良いボディシェイプを確保するステップワークを学び、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第13回 チーム毎でのウォームアップとゲーム① 【 到達目標 】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第6回 攻撃のサポートのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)サポートの角度とタイミング、そして距離を理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第14回 チーム毎でのウォームアップとゲーム② 【 到達目標 】 (1)ウォームアップをチーム毎できちんと行い、その後ゲームを行えるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第7回 3対1のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)サポートの動きと良い視野を保つことを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			第15回 レクリエーションゲーム 【 到達目標 】 (1)班編成を変え、レクリエーションゲームを行う。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)			
第8回 4対2のボールポゼッションゲームのトレーニングとゲーム 【 到達目標 】 (1)クサビのパスのタイミングを理解し、実践できるようにする。 【授業時間外学習】 時間を見つけて自主トレーニングに励む。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 実習が中心となるため、服装、身だしなみは体育実技に相応しいものとする。アクセサリー類、またマフラー等を身につけることは許されない。グループ毎に活動するので、自主的・積極的に活動すること。またグループ構成員同士はよく協力すること。前回の技術的課題を落とし込んだウォームアップを行い、技術の定着の一助とする。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業の場合は講義・オンライン上での運動等が中心となるが、対面授業の場合と同様に、自主的・積極的に活動すること。実技授業の特性上、全く実技を見ずに成績評価を行うことは難しいため、オンライン授業時ビデオをONにできる環境や運動ができる環境を作ることが好ましい。						
【教科書・参考書など】 特になし。必要な教材は担当教員が印刷し配布する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 以下の割合にて評価し、点数化する。 ①授業への取り組み方・参加度60%、②技術点(実技テスト)10%、③知識点(理論テスト)10%、④準備点(服装・ゼッケン等の準備)20%。 【オンライン授業の場合】 以下の割合にて評価し、点数化する。 ①授業への取り組み方・参加度(課題レポート含む)60%、②技術点(実技テスト・動画での提出)20%、③知識点(理論テスト)20%。						

科目名	ことばの研究			担当者	並木真理子	
英文名	Language Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	CBE303		
【目的とねらい】						
子どもや保育における「ことば」に関する先行研究や保育書籍から、子どもの言葉を豊かに育て、保護者との信頼関係を築く保育のあり方について理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【到達目標】 授業の概要と進め方を知り、学習の心構えを形成する。発表の準備の方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業計画表を読み込み授業の見直しをもつ。課題に取り組む。(4.0hr)			第9回 言葉を視点とした小学校との連携 【到達目標】 小学1年生の国語について学び、小学校生活・学習につながることばの力を考える。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、小学校国語との連続性を考える。課題に取り組む。(4.0hr)			
第2回 絵本研究① 【到達目標】 絵本の歴史や構造、特性に関する先行研究や文献を読み、造詣を深める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)			第10回 配慮を要する子どもの言葉 【到達目標】 配慮を要する子どもの姿を学び、適切な援助方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
第3回 絵本研究② 【到達目標】 絵本作家やその技法に関する先行研究や文献を読み、造詣を深める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、先行研究内容に興味をもつ。課題に取り組む。(4.0hr)			第11回 連絡帳の書き方 【到達目標】 連絡帳の意義を学び、実際の場面を想定して連絡帳の書き方のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
第4回 絵本を活用した保育 【到達目標】 絵本を活用した保育について学び、絵本から始まる保育活動を計画・実践できる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、絵本から始まる保育活動を考える。課題に取り組む。(4.0hr)			第12回 保育ドキュメンテーション 【到達目標】 保育ドキュメンテーションについての文献を読み、実践方法についての理解を深める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
第5回 子どもの言葉を育てる[0-2歳] 【到達目標】 乳児～低年齢児の言葉を豊かに育てる関わりや保育のあり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、0～2歳児の言葉の発達過程を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)			第13回 保育におけるSNS 【到達目標】 保育現場で活用されるインターネット利用に関するメリットデメリットを学び、配慮すべき点を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
第6回 子どもの言葉を育てる[3-5歳] 【到達目標】 3～5歳児の言葉を豊かに育てる関わりや保育のあり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、3～5歳児の言葉の発達過程を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)			第14回 保護者会におけるコミュニケーション 【到達目標】 実際の場面を想定して実践的に学び、保護者会進行のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、ケーススタディの方法を理解する。課題に取り組む。(4.1hr)			
第7回 言葉による伝え合い 【到達目標】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における「言葉による伝え合い」を理解し、子どもの姿を通してその援助方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を復習する。課題に取り組む。(4.0hr)			第15回 保育文書の基本 【到達目標】 保育文書の書式や書き方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。 【授業時間外学習】 配付資料とノートを読み返して、授業での学びを振り返る。(4.0hr)			
第8回 文字に親しむ保育 【到達目標】 子どもの書字の実態を知り、子どもの文字習得とその支援について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、文字に親しむ保育を考える。課題に取り組む。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 ・指定されたテーマについて、保育書籍の要点をまとめ、発表を行うこと。 ・積極的に子どもの「ことば」や保護者連携についての先行研究や関連文献を読み、研究的視点をもって授業に参加すること。グループワークやディスカッションに積極的に参加し、多角的な考え方を身につけること。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。 ・時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを記入する。振り返りシートをもとに次回授業でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 ・オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。 ・配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。 ・相互に課題内容を共有するため、写真や動画での課題提出を求めることがある。 ・毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。						
【教科書・参考書など】						
教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。 参考文献は授業内で適宜紹介する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】授業内発表40%、グループワークや提出物20%、試験課題40%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】授業内発表30%、毎回の課題30%、試験課題40%として総合的に評価する。						

科目名	スポーツ社会学			担当者	溝口紀子	
英文名	Introduction to Sociology of Sport					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択
授業形態	講義		科目ナンバー	SBE306		
【目的とねらい】 スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（授業の進め方 スポーツ権） 【 到達目標 】 スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。 【授業時間外学習】 現代社会におけるスポーツの抱える問題について、自分なりに整理し書き出してみる。(4.0hr)			第9回 1964東京五輪と2021TOKYO 【 到達目標 】 1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。コロナと五輪についてのレビューを行う。 【授業時間外学習】 1964年の東京五輪について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			
第2回 遊びとスポーツ -「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く- 【 到達目標 】 スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 eスポーツについて調べる。(4.0hr)			第10回 スポーツと体罰 【 到達目標 】 1964年の東京五輪がその後日本人の生活にどのような影響を及ぼしたかを議論する。 【授業時間外学習】 自分の住む地域の地域スポーツの実態に関して調査する。(4.0hr)			
第3回 スポーツの近代化と武道の誕生 【 到達目標 】 スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する(小レポートを実施)。 【授業時間外学習】 武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			第11回 グループワーク（女性とスポーツ） 【 到達目標 】 女性アスリートのメディア・イメージやバタナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができるようにする(小レポート実施)。 【授業時間外学習】 スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)			
第4回 スポーツとナショナリズム 【 到達目標 】 スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			第12回 グループワーク（メディアスポーツ） 【 到達目標 】 メディアスポーツが文化として成立するための文化的構成要素とその社会的担い手の特徴や変化をめぐる課題について理解する。 【授業時間外学習】 メディアスポーツとは何か、これまでの講義内容からまとめてみる。(4.0hr)			
第5回 スポーツと体罰 【 到達目標 】 スポーツと教育の関係性について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施)。 【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)			第13回 グループワーク（スポーツと倫理ードーピングの問題性とスポーツの本質） 【 到達目標 】 ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。 【授業時間外学習】 パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)			
第6回 五輪とボイコット（冷戦下のスポーツ） 【 到達目標 】 スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。 【授業時間外学習】 五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			第14回 グループワーク（コーチングとハラスメント） 【 到達目標 】 スポーツと社会的逸脱の関係性について、スポーツと暴力等の問題をもとに理解を深めていく。 【授業時間外学習】 体罰の問題に関して、特に関心のある領域に関して小レポートをまとめる。(4.0hr)			
第7回 スポーツとプロパガンダ（ベルリン五輪） 【 到達目標 】 民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。 【授業時間外学習】 「民族の祭典、美の祭典」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)			第15回 これからの社会とスポーツの使命・可能性 【 到達目標 】 スポーツが担うべきミッションについて各自が理解し、今後の展望について、社会学的観点から独自の議論を展開できるようにする。 【授業時間外学習】 スポーツ社会学のバースペクティブについて理解し、整理する。(4.0hr)			
第8回 スポーツと事故リスク、安全配慮について 【 到達目標 】 スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施)。 【授業時間外学習】 自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 1. 個別的な種目を離れて、スポーツの全体を捉えるようにする。 2. テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。 3. 現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。 4. 静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。11回目からのグループワークは指定された日時にオンラインで参加してください。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。 参考図書：「現代スポーツのバースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006、「性と柔一女子柔道史から問う」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道 フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）、授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%、良好な出席状況は当然の前提である。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題と予習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	スポーツ史			担当者	都 筑 真	
英文名	Sport History					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		科目ナンバー			
授業形態	講義				CBE209	
【目的とねらい】 本講義では、社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解を深めることを目的とする。各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの在り様を理解していくことを通じて、今後のスポーツの在り方を考察していくことをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 (1) 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)			第9回 近代の戦争と体育・スポーツ 【 到達目標 】 (1) 近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第2回 スポーツ史を学ぶ意義 【 到達目標 】 (1) スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解する。 (2) スポーツ史を学ぶ意義について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第10回 オリピックムーブメントと世界平和 【 到達目標 】 (1) オリピックムーブメントがどのような運動であるかを理解する。 (2) オリピックが国際親善や世界平和につながる理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第3回 スポーツのルーツへのまなざし 【 到達目標 】 (1) スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第11回 日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法 【 到達目標 】 (1) 日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第4回 各時代の社会におけるスポーツ 【 到達目標 】 (1) スポーツの時代毎の変化と現代のスポーツとの相違点を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第12回 スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果 【 到達目標 】 (1) 日本のスポーツ発展に貢献しているスポーツに関連した「モノ」「場」「サービス」の歴史とスポーツの経済効果について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第5回 スポーツ種目の誕生と変容 【 到達目標 】 (1) われわれの身近にあるスポーツ種目がなぜ誕生し、どのように変化してきたのかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第13回 女性スポーツの展開と現在 【 到達目標 】 (1) 女性にとってスポーツ文化がこれまでどのようなものであったのか、そして現在どのようなものとなっているかを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第6回 欧米スポーツの日本への移入 【 到達目標 】 (1) 欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第14回 スポーツとメディア 【 到達目標 】 (1) スポーツとメディアの歴史的関係やスポーツメディアの特性について理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			
第7回 体操、身体教育、スポーツ教育 【 到達目標 】 (1) 古代の体操、近代の身体教育、現代のスポーツ教育に関する理論と歴史的過程を理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)			第15回 スポーツと環境問題 【 到達目標 】 (1) スポーツと環境問題の関係を理解する。 (2) スポーツ界における環境保全の取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)			
第8回 スポーツの技術、戦術、ルールの歴史的変容 【 到達目標 】 (1) スポーツの技術、戦術、ルールがどのように変化してきたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入り動画と補足資料である。資料は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、1週間後の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。 『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『スポーツの歴史と文化』（新井博／榊原浩晃編著、道と書院）を講義の参考書として利用すること。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 講義毎に課す小レポート(50%)及び期末課題の結果(50%)で評価する。合格基準は60%である。						

科目名	保育者論			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Theory of Nursery Teacher					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別				専門・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CMR101		
【目的とねらい】 保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解するとともに、保育者の役割と倫理についての認識を深め、子どもの前に立つ者としての自覚と責任を促していく。また、保育の仕事は、保育者間で連携を図りながら協働していくことが必要である。さらに今日では、子育て支援を担う役割が保育者に求められており、園外の専門職や地域の関係機関との連携を推し進めていくことが大切である。こうしたことを踏まえ、乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解を深めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育者の現在 (いま) 【 到達目標 】 (1) 保育者を志す者としての自覚と責任を持つ。 (2) 保育者の仕事と置かれている状況等について理解する。 【授業時間外学習】 「保育者になりたい」自分を振り返る。(4.0hr)			第9回 保育園・幼稚園の一日 【 到達目標 】 (1) 映像資料や実践記録を通して保育所の一日について理解する。 (2) 映像資料や実践記録を通して幼稚園の一日について理解する。 【授業時間外学習】 写真や資料を通して園生活及び保育者の仕事の全体像を把握する。(4.0hr)			
第2回 保育者の制度的位置づけ 【 到達目標 】 (1) 保育の法的根拠を理解する。 (2) 保育者の仕事と資格・要件等について理解する。 【授業時間外学習】 児童福祉法、学校教育法、認定こども園法の該当箇所を読む。(4.0hr)			第10回 園での協働 【 到達目標 】 (1) 保育における職員間の連携、協働について理解する。 (2) 保育の場の運営（チームとしての園のあり方、チーム学校運営）について理解する。 【授業時間外学習】 保護者への保育の情報提供の方法について考えて書き記す。(4.0hr)			
第3回 保育士と幼稚園教諭 【 到達目標 】 (1) 保育士の制度的位置づけや職務内容について理解する。 (2) 幼稚園教諭の制度的位置づけや職務内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育者の職務内容を書き記す。(4.0hr)			第11回 専門機関との連携 【 到達目標 】 (1) 療育機関との連携について理解する。 (2) 教育機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場と小学校との連携について考えて書き記す。(4.0hr)			
第4回 保育者の役割と責務 【 到達目標 】 (1) 保育者の役割について理解する。 (2) 保育者の責務について理解する。 【授業時間外学習】 保育者の役割について、テキストで確認する。(4.0hr)			第12回 保護者支援を担う保育者 【 到達目標 】 (1) 保護者支援の必要性について理解する。 (2) 保護者支援の方法と内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場における保護者支援に関する取組を調べる。(4.0hr)			
第5回 保育者の倫理 【 到達目標 】 (1) 保育者の倫理について考察する。 (2) 守秘義務や社会的責任について理解する。 【授業時間外学習】 保育者の倫理について資料を見て確認する。(4.0hr)			第13回 地域社会との連携 【 到達目標 】 (1) 保育所等の社会的役割について理解する。 (2) 地域の関係機関等との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場における地域交流の場面を写真などで見る。(4.0hr)			
第6回 保育者の専門性① 【 到達目標 】 (1) 保育者の資質・能力について理解する。 (2) 保育者に求められる知識・技術について理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。(4.0hr)			第14回 保育者の専門的成長 【 到達目標 】 (1) 専門性の発達について理解する。 (2) 他職種との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育の専門性について考えるところを書き記す。(4.0hr)			
第7回 保育者の専門性② 【 到達目標 】 (1) 子どもの保育に関する専門性について理解する。 (2) 保護者支援に関する専門性について理解する。 【授業時間外学習】 保育者の専門性について、他の職種との違いを考える。(4.0hr)			第15回 生涯発達とキャリア形成 【 到達目標 】 (1) 保育者としてのキャリアアップについて考察する。 (2) 保育者のライフサイクルについて理解する。 【授業時間外学習】 保育者として成長していくために必要なことを考える。(4.0hr)			
第8回 保育者の一日 【 到達目標 】 (1) 保育者の一日について理解する。 (2) 保育者の援助について理解する。 【授業時間外学習】 保育者のタイムスケジュール表を作成し、保育（子どもとかかわる）以外の仕事を考えてみる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】教科書を中心に、具体的事例を確認しながら進める。毎時間配布する小レポートを作成し、復習に役立て、理解度の確認をすること。小レポートの内容は、次回の授業時にフィードバックを行う。必要に応じて映像資料も提示し理解を深める。保育者を志す者としての自覚と責任をもち、保育者の専門性とは何かを常に問いながら意欲的に学んでほしい。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減っても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は各回の課題提出により確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場で実務経験のある教員が、保育活動場面における事例考察を行いながら、自身の保育経験などを踏まえ、保育者の役割と倫理について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 教科書：井上孝之・山崎敦子編『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』（第2版）株式会社みらい、村上かつら作・百瀬ユカリ監修『新人保育者物語・さくら』小学館 参考書：天野珠路監修『保育者論』基本保育シリーズ・中央法規、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』（最新版）、文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】平常点(授業への参加度、授業内的小レポートを含む)及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。						

科目名	教育原論			担当者	青木純一	
英文名	Theory of Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー			
授業形態	講義				CMR102	
【目的とねらい】 「教育とは何か」というテーマについて考えることは、教職を志す上で不可欠の作業である。また今日の日本は深刻な教育問題を抱えており、こうした問題の解決を考えるためには幅広い教育的素養が求められる。本科目においては、以上の課題について、基本的な知識を身につけるとともに、いくつかの側面から考察を加え、教育に関する洞察を深めることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教育とは何か 【 到達目標 】 本授業で学習する内容の概要を理解し、学習への意欲を高める。 【授業時間外学習】 幼児における教育の役割とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。(4.0hr)			第9回 諸外国の保育制度 【 到達目標 】 アメリカ、中国、オランダなど諸外国の保育制度の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 諸外国の幼児教育の実態を知るとともに、その特徴を学ぶ。(4.0hr)			
第2回 幼児教育を築いた人々(1) ルソーの思想 【 到達目標 】 ルソーの思想を中心に近代の教育思想を理解する。 【授業時間外学習】 ルソー『エミール』を読む中で、近代教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)			第10回 教育課程・保育課程 【 到達目標 】 教育課程や保育課程の全体的、基本的な事項について理解する。 【授業時間外学習】 幼児教育の教育計画の理念、作成方法、留意点などを学ぶ。(4.0hr)			
第3回 幼児教育を築いた人々(2) ベスタロッチ、フレーベルの思想 【 到達目標 】 ベスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育を中心にその思想を理解する。 【授業時間外学習】 ベスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育の特徴を学ぶ。(4.0hr)			第11回 子どもの発達の特徴と遊び 【 到達目標 】 子どもの発達にとって遊びが重要な役割を果たしていることを理解する。 【授業時間外学習】 子どもが発達する上で遊びが重要であることを学ぶ。(4.0hr)			
第4回 我が国の幼児教育と保育の歴史(1) 戦前の幼児教育・保育 【 到達目標 】 戦前・戦中日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。 【授業時間外学習】 日本で幼児教育が生まれる背景やその内容を学ぶ。(4.0hr)			第12回 特別支援教育とは 【 到達目標 】 日本の障害児教育の歴史を理解する。 【授業時間外学習】 障害児の特性と特別支援教育の理念について学ぶ。(4.0hr)			
第5回 我が国の幼児教育と保育の歴史(2) 戦後の幼児教育・保育 【 到達目標 】 戦後日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。 【授業時間外学習】 戦後日本において、幼稚園や保育園における学習内容を学ぶ。(4.0hr)			第13回 障害児に対する支援 【 到達目標 】 特殊教育から特別支援教育に変わって障害児への支援の仕方が変化したことを理解する。 【授業時間外学習】 障害の特性に応じた指導方法について学ぶ。(4.0hr)			
第6回 子どもの発達と教育 【 到達目標 】 ピアジェの発達論を中心にその意義を理解する。 【授業時間外学習】 ピアジェの発達論を通して人の環境に対する認識方法を学ぶ。(4.0hr)			第14回 生涯学習社会における幼児教育と保育 【 到達目標 】 生涯学習社会における幼児教育や保育のもつ意味について理解する。 【授業時間外学習】 生涯教育社会において幼児教育を知るの意味について学ぶ。(4.0hr)			
第7回 教育と児童福祉における目的と目標 【 到達目標 】 教育基本法やその他の法規から、幼稚園・保育所の目的や役割を理解する。 【授業時間外学習】 幼児教育に関する基本的な法令を学ぶ。(4.0hr)			第15回 幼児教育とはなにか 【 到達目標 】 幼児教育とはなにか、学生一人一人が自分の基本的な考え方をまとめる。 【授業時間外学習】 幼児にとって教育の意味とはなにか、その基本を学ぶ。(4.0hr)			
第8回 日本の幼児教育・保育の制度 【 到達目標 】 日本の幼児教育・保育制度について、その目的や課題を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園と保育園の二元体制が生まれた背景と、幼保一元化にむけた動きを学ぶ。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義に加え、グループワークやディスカッション、授業内でのレポートの作成などを課す予定である。学生諸君には、積極的に授業に参加することを求める。 【オンライン授業の場合】 以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。						
【教科書・参考書など】 教科書を使用するので、各自、用意をすること。 【教科書名】 『子どもの教育の原理』古橋和夫編著(萌文書林)						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業内小レポート(50%)、試験または課題レポート(50%)から総合的に評価する。						

科目名	幼児体育			担当者	森田陽子	
英文名	Physical Education for Preschool Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1					専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR103		
【目的とねらい】 幼児期になぜ運動あそびが必要なのか、幼児期の運動プログラム、運動あそび指導の実践例などについて、実技とともに大きな単元ごとに講義を行う。この授業で保育実践に必要な教材・教具・遊具の特性について理解し、実際の保育において適切な援助や補助、環境構成ができるようになることを目的とする。実際に幼稚園児・保育園児とかかわりながらさらにその理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション・コミュニケーションゲームなど 【 到達目標 】 (1) 授業の予定を知り、授業を受けるためのルールを理解する。 (2) オリエンテーションゲームで、五感の大切さを知る。 【授業時間外学習】 この授業における各自の目標、コミュニケーションゲームでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第9回 固定遊具を使ってのあそび①鉄棒を使って 【 到達目標 】 (1) 固定遊具に関する知識を得る。 (2) 鉄棒の基本動作と逆上がりの段階的な指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第2回 小さな遊具を使ってのあそび①ボールを使って 【 到達目標 】 (1) ボールの特性を考えたり、大きさや感触の違いを感じる。 (2) 身近にあるものを使ってあそぶ。 【授業時間外学習】 ボールを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第10回 固定遊具を使ってのあそび②鉄棒を使って 【 到達目標 】 (1) 基本動作を実践する。 (2) 逆上がりを実践する、補助の仕方を習得する。 【授業時間外学習】 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント、補助のポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第3回 小さな遊具を使ってのあそび②縄を使って 【 到達目標 】 (1) 縄の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) 一人・二人・大人数で、どんな跳び方ができるか挑戦する。 【授業時間外学習】 縄を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第11回 大きな遊具を使ってのあそび①跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1) 跳び箱運動に必要な感覚を養うあそびを体験する。(跳び箱を使用しない) 【授業時間外学習】 跳び箱を跳ぶことにつなげる遊び、跳び箱の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第4回 小さな遊具を使ってのあそび③フープを使って 【 到達目標 】 (1) フープの特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) 回す、転がす、投げる、受ける、くぐるなどに挑戦する。 【授業時間外学習】 フープを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第12回 大きな遊具を使ってのあそび②跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1) またぎ越し、踏み越し、とび上がり降りを楽しむ。(低い跳び箱を使って) 【授業時間外学習】 跳び箱を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第5回 小さな遊具を使ってのあそび④棒を使って 【 到達目標 】 (1) 棒の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2) バランスをとったり、リズムに合わせてあそぶ。 【授業時間外学習】 棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第13回 大きな遊具を使ってのあそび③跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1) いろいろな馬跳びを楽しむ。 (2) 開脚跳び越しを楽しむ。(好きな跳び箱を使って) 【授業時間外学習】 跳び箱を使った遊びでの学び、開脚跳びの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第6回 大きな遊具を使ってのあそび①マットを使って 【 到達目標 】 (1) マットの特性を知る。 (2) 前転のバリエーションを体験する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、前転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第14回 表現あそび…布やパラバルーンを使って 【 到達目標 】 (1) いろいろな大きさの布を使って表現遊びを楽しむ。 (2) パラバルーンの基本技術を体験する。 【授業時間外学習】 布やパラバルーンを使った表現遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			
第7回 大きな遊具を使ってのあそび②マットを使って 【 到達目標 】 (1) 側転のバリエーションを体験する。 (2) 補助の仕方を習得する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、側転の指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)			第15回 調整力を高めるあそび…いろいろな遊具を使って 【 到達目標 】 (1) バランス感覚を養うあそびを楽しむ。 【授業時間外学習】 いろいろな遊具を使った遊びでの学び、指導ポイント、この授業のまとめ等をレポートする。(4.0hr)			
第8回 大きな遊具を使ってのあそび③マットを使って 【 到達目標 】 (1) マットを使ったあそびを体験する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、マットの指導ポイント等をレポートする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 指導者として子どもの前に立つ場面を想定して身支度を整えて授業に臨むこと。 各単元の到達目標を達成できるよう努力するとともに、授業内容を振り返りレポートにまとめる。 【オンライン授業の場合】 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、実技を行うこととする(対面授業参照)ため、状況によって連絡をする。						
【教科書・参考書など】 『保育者のための幼児の運動遊び指導』幼児体育研究会編 不昧堂、『保育と幼児期の運動あそび』岩崎洋子 萌文書林、 『0から5歳児の運動あそび指導百科』前橋 明 ひかりのくに 『幼稚園教育要領』(最新版)文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 単元ごとの実技テスト80%、レポートおよび授業内の提出物の内容20%。 【オンライン授業の場合】 4回の配信レポート20%、実技テスト80%。						

科目名	保育・教育課程論			担当者	青木純一	
英文名	Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CMR201		
【目的とねらい】 保育園、幼稚園における保育や教育の目標達成をめざし、どのように保育・教育を進めていくのか。その内容を明らかにするために編成されるのが保育課程・教育課程である。そういった意味で保育所や幼稚園の根幹をなすものである。本科目では保育・教育課程の編成、指導計画の実際、評価と改善の過程を理解することがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育・教育課程と保育士の仕事 【到達目標】 保育教育課程が社会において果たす役割や機能を理解する。また、教育課程編成の基本原則を理解する。その上で、保育者の一日の仕事を理解し、記録はすべて一律に必要なものではなく、各園の実情に合わせて柔軟に使われるべきことを理解する。 【授業時間外学習】 保育園や幼稚園における「記録」の種類やその意味を学ぶ。(4.0hr)			第9回 援助計画の種類と書き方②-3～5歳児を対象に 【到達目標】 3～5歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。 【授業時間外学習】 3歳～5歳児の指導計画を作成する際の留意点を学ぶ。(4.0hr)			
第2回 保育者にとっての保育・教育課程 【到達目標】 保育者にとって保育・教育課程はなぜ必要なのかを理解する。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する。とくに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園や保育園において保育・教育計画がなぜ必要なのか、その理由を学ぶ。(4.0hr)			第10回 環境設定の方法 【到達目標】 幼児の主体性を引き出す環境はどのように構成されるべきか、その方法を理解する。とくに、環境設定をする際には教育課程の編成の基本原則を理解するとともに、教育課程や指導計画を検討する際には幼児・児童の実態を踏まえる重要性を理解する。 【授業時間外学習】 幼児の主体性を引き出すための保育環境とはどうあるべきか学ぶ。(4.0hr)			
第3回 保育・教育課程とは何か 【到達目標】 保育・教育課程とは何か、その目的と計画の手順を理解する。とくに、幼稚園教育要領や保育所保育指針の性格及び位置付け並びに保育・教育課程編成の目的を理解する。 【授業時間外学習】 実際に保育計画を作成する際の手順や留意点について学ぶ。(4.0hr)			第11回 保育・教育実践計画 【到達目標】 「設定保育」の意味を知り、縦割り保育や延長保育、預かり保育など、様々な保育方法の意図や課題を理解する。とくに、単元、学期、学年をまたいだ長期的視野から、教育課程や指導計画を検討することを理解する。 【授業時間外学習】 「設定保育」の意味を知り、様々な保育制度や保育方法について学ぶ。(4.0hr)			
第4回 子どもの遊びの理解 【到達目標】 保育・教育課程の編成を理解する一歩として、まず子どもの遊びを理解する方法を学ぶ。とくに、子どもの遊びを発達段階別に分けて援助方法と環境設定の在り方を理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園や保育園における幼児の遊びの意味を学ぶ。(4.0hr)			第12回 実践に応じた保育・教育課程の工夫 【到達目標】 地域・家庭との連携など、新たな課題に応じた保育・教育課程の作成方法を理解する。とくに幼保一元化を取り入れる際の課題や小学校の連携を深める際の課題を理解する。また子どもの実態に沿ったカリキュラム・マネジメントの必要性を理解する。 【授業時間外学習】 最近の幼児教育における諸課題について学ぶ。(4.0hr)			
第5回 子どもの発達と個性 【到達目標】 子どもの発達を理解し、併せて発達に応じた教育とはどうあるべきかを理解する。とくに、配慮すべき点として、子供の発達は一律ではなくそれぞれ個別に違うことを理解する。同時に、長期的な視野に立って教育課程や指導計画を検討することを理解する。 【授業時間外学習】 幼児の発達の特性についてこれまでの発達論が示した内容を学ぶ。(4.0hr)			第13回 実践の向上を図る記録のあり方 【到達目標】 カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、保育・教育課程作成のための記録の必要性を知り、様々な記録方法があることを理解する。併せて記録がカリキュラム評価の重要な資料となることを理解する。 【授業時間外学習】 保育・教育課程を作成する際の「記録」の活用の仕方について学ぶ。(4.0hr)			
第6回 幼稚園教育要領とはなにか 【到達目標】 幼稚園教育要領とはなにか、その変遷の歴史を理解する。とくに、教育要領は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかという問いの中から生まれてくるものである。その意味でカリキュラム・マネジメントの在り方を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園教育要領とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)			第14回 保育実践の向上とこれからの保育・教育課程 【到達目標】 保育実践における個別性、多様性、偶発性の意味を理解し、これからの保育・教育課程に必要な課題を理解する。とくに、幼児・児童や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することを理解する。 【授業時間外学習】 保育実践の個別性、多様性、偶発性といった特徴を事例を通して学ぶ。(4.0hr)			
第7回 保育所保育指針とはなにか 【到達目標】 保育所保育指針とはなにか、その性格、位置づけ及び教育課程編成上の目的を理解する。内容と歴史を理解する。とくに、保育指針は絶対的なものではなく、常に子どもにとって必要な計画とはなにかを考えて生まれることから、カリキュラム・マネジメントの在り方も理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。(4.0hr)			第15回 保育の専門性の向上をめざして 【到達目標】 この講義で重要だと思われる事項を再度確認し、あらためて幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解する。 【授業時間外学習】 保育・教育課程論の全体像を理解し、かつ重要事項をあらためて振り返る。(4.0hr)			
第8回 援助計画の種類と書き方①-0～2歳児を対象に 【到達目標】 0～2歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。とくに、計画の作成に際しては、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列することを理解する。 【授業時間外学習】 0～2歳児を対象とする指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実際に保育・教育課程を作成する活動を通して諸理論や課題についての理解を深めること。 【オンライン授業の場合】 オンラインで授業をする場合、以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。						
【教科書・参考書など】 教科書を使用するので、各自、用意すること。 【教科書名】「乳幼児の教育保育課程論」北野幸子編著（建帛社） 「幼稚園教育要領」（最新版）文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（最新版）文部科学省厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業出席2/3を満たした学生に対し試験（100%）を実施する。 【オンライン授業の場合】 小レポート（50%）と課題レポート（50%）から総合的に評価する。						

科目名	保育指導法			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Methods of Guidance for Child Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CMR202		
【目的とねらい】 保育現場においては、「環境を通して」保育することや「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことが求められる。こうした乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解を深め、その指導法について学ぶことを本科目の目的とする。特に、子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法について保育現場の写真や映像を通して具体的に学んでいく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育における指導 【 到達目標 】 (1) 保育の全体構造及び保育者の役割について理解する。 (2) 子どもの育ちを支える保育環境の重要性について理解する。 【授業時間外学習】 保育と指導の違いまたは共通点について考えて記す。(4.0hr)			第9回 人間関係の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 役割遊び、ごっこ遊び、けんかの場面について理解する。 (2) 視聴覚教材を活用しながら、遊びやけんかの場面への対応・指導法について理解する。 【授業時間外学習】 ごっこ遊びのリスト(必要な遊具や用具等も含めて)を作成する。(4.0hr)			
第2回 環境を通して行う保育 【 到達目標 】 (1) 保育のねらい及び内容について理解する。 (2) 視聴覚教材を活用しながら保育の環境構成について理解する。 【授業時間外学習】 環境構成と指導の関係について考えて記す。(4.0hr)			第10回 環境の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 自然との関わりや自然を活かした保育について考察する。 (2) 文字や記号など認識力に関する指導法について、小学校へのつながりと共に理解する。 【授業時間外学習】 自然に関わる遊びや活動のリストを作成する。(4.0hr)			
第3回 子どもの発達過程に応じた保育 【 到達目標 】 (1) 乳幼児期の発達過程と適切な対応(指導、援助)について理解を深める。 (2) 個別支援が必要な子どもの援助・指導について理解する。 【授業時間外学習】 発達の課題や支援の方法について調べて記す。(4.0hr)			第11回 言葉の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 話す、聴く、言葉の感覚を養うための指導法について、小学校のつながりとともに理解する。 (2) 絵本やお話を活用した指導法について理解する。 【授業時間外学習】 絵本のリストを作成する。(4.0hr)			
第4回 保育における個と集団の指導 【 到達目標 】 (1) 個の成長に寄り合い援助・指導することを学ぶ。 (2) 集団としての成長の過程に寄り合い指導することを学ぶ。 【授業時間外学習】 幼児期の集団活動や集団遊びを考えて書く。(4.0hr)			第12回 表現の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 絵画・造形に関する指導法について理解する。 (2) 音楽・身体表現に関する指導法について理解し、教材研究をする。 【授業時間外学習】 絵画造形に関する素材や道具等のリストを作成する。(4.0hr)			
第5回 生活にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 生活習慣の習得に関する指導の方法を理解する。 (2) 生活技術の習得及び社会生活に関する指導の方法を理解する。 【授業時間外学習】 必要な生活習慣を考えて書く。(4.0hr)			第13回 保育実践に向けて① 【 到達目標 】 (1) 指導計画の作成と保育の展開について理解する。 (2) 指導計画の理解と指導の多様性について理解し、教材研究をする。 【授業時間外学習】 指導計画を作成し、何通りかの実践を考える。(4.0hr)			
第6回 遊びにかかわる援助・指導の方法① 【 到達目標 】 (1) 遊びの意義及び遊具の種類や果たす役割について理解する。 (2) 遊びに必要な教材について理解する。 【授業時間外学習】 遊具のリストを作成する。(4.0hr)			第14回 保育実践に向けて② 【 到達目標 】 (1) 模擬保育を行う。 (2) 模擬保育の振り返りをして、保育の改善点を探す。 【授業時間外学習】 指導計画を改善する。(4.0hr)			
第7回 遊びにかかわる援助・指導の方法② 【 到達目標 】 (1) 遊びの導入・内容について理解する。 (2) 遊びの発展・展開について理解する。 【授業時間外学習】 遊びのリストを作成する。(4.0hr)			第15回 保育の総合性 【 到達目標 】 (1) 遊びの連続性、総合性を踏まえた保育実践について理解する。 (2) 養護と教育の一体性を踏まえた指導法について学ぶ。 【授業時間外学習】 保育における指導と何かを再考する。(4.0hr)			
第8回 健康の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1) 園庭の環境やその遊びについて考察する。 (2) 運動遊びの指導法について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 運動遊びのリストを作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 具体的な保育場面を想定した多岐にわたる保育の方法、指導の内容を主体的に学んでいく。これまでの体験、子どもとのかかわり、そして、授業や教科書、資料などから得たことをもとに、保育実践の礎を築いてほしい。この授業のノートは今後の実習や実践の場面で必ず活かされるので、しっかりノートをとり確認し自分のものにしてほしい。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減っても大幅な変更はしない。配信資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする(掲載期限はその都度確認のこと)。出席は各回の課題提出により確認する。						
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場で実務経験のある教員が、豊富な保育活動の実践事例を通し、保育内容及び活動展開、保育計画、具体的な保育活動の指導方法について講義を行う。						
【教科書・参考書など】 百瀬ユカリ著『実習に役立つ保育技術』創成社 文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) その他、資料プリントを配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎回の授業課題と最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業課題の評価を60%、最終課題レポート評価40%の合計100%として評価する。						

科目名	保育内容（健康）			担当者	森田陽子	
英文名	Child Care Studies (Child Health)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR203		
【目的とねらい】 幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容の取扱いについて理解し、健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 近年の子どもの状況 【 到達目標 】 (1) 近年の子どもの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2) 幼児期とはどのような時期なのかを理解する。 【授業時間外学習】 近年の子どもの状況についての学びをレポートする。(4.0hr)			第9回 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 【 到達目標 】 (1) 気になる子、障がい児、肥満児等に応じた援助の仕方を理解する。 (2) 家庭経験、性格特性に応じた援助の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助についての学びをレポートする。(4.0hr)			
第2回 保育における「健康」とは 【 到達目標 】 (1) 要領および指針の意義と改訂の趣旨を理解する。 (2) 領域「健康」の位置づけと意味を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針、幼稚園教育要領「健康」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についての学びをレポートする。(4.0hr)			第10回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2） 【 到達目標 】 (1) 様々な運動遊びを知る。 (2) 運動遊びを中心とした具体的な指導の在り方を理解する。 (3) 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。 【授業時間外学習】 いろいろな運動遊びについて、その指導の在り方をレポートする。(4.0hr)			
第3回 健康管理と安全能力を育む援助 【 到達目標 】 (1) 子どもの生活とケガや事故について理解する。 (2) 安全生活の習慣や態度の形成について理解する。 【授業時間外学習】 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。(4.0hr)			第11回 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究2） 【 到達目標 】 (1) 保育における運動遊びの実際をビデオで確認する。 (2) 空間や遊具の配置等運動遊びにおける環境構成を理解する。 【授業時間外学習】 運動遊びの指導案を立案する。(4.0hr)			
第4回 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1） 【 到達目標 】 (1) 基本的な生活習慣の概要、その形成を理解する。 (2) 安全生活の習慣や態度の形成について理解する。 (3) 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。 【授業時間外学習】 健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)			第12回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2） 【 到達目標 】 (1) 指導案の実践。 (2) 情報機器の活用法を理解する。 【授業時間外学習】 ビデオを見ながら、模擬保育を振り返りレポートする。(4.0hr)			
第5回 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1） 【 到達目標 】 (1) 健康指導の実際を知る。 (2) 安全指導の実際を知る。 【授業時間外学習】 保育の中の健康指導・安全指導についての学びをレポートする。(4.0hr)			第13回 健康な心と体を育む保育の評価と改善2 【 到達目標 】 (1) 模擬保育の実践を評価する。 (2) 模擬保育の実践を反省する。 【授業時間外学習】 模擬保育の評価と反省から指導案の再構成を行う。(4.0hr)			
第6回 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1） 【 到達目標 】 (1) 健康指導の指導案の立案をする。 (2) 安全指導の指導案の立案をする。 (3) 幼児の動機づけや意欲などを配慮した健康指導・安全指導の在り方を知る。 【授業時間外学習】 健康指導・安全指導の指導上の留意点についてレポートする。(4.0hr)			第14回 幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力 【 到達目標 】 (1) 幼児期の体や運動発達における発達課題と小学校における運動発達との関係性を確認する。 (2) 小学校の教科等とのつながりについて理解する。 【授業時間外学習】 幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習に活かされる力についての学びをレポートする。(4.0hr)			
第7回 健康な心と体を育む保育の評価と改善1 【 到達目標 】 (1) 健康な心と体を育む保育の評価方法について理解する。 (2) 健康な心と体を育む保育の改善方法について理解する。 【授業時間外学習】 立案した指導案を評価し、改善点をレポートする。(4.0hr)			第15回 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 【 到達目標 】 (1) 幼児を取り巻く現代的課題を確認する。 (2) 領域「健康」の指導の方向性を考察し、保育実践の動向をする。 【授業時間外学習】 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践についての学びをレポートする。(4.0hr)			
第8回 多様な動きの経験を促す援助 【 到達目標 】 (1) 遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成について理解する。 (2) 遊びや生活の中の動きの経験を促す援助の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 多様な動きの経験を促す援助方法についての学びをレポートする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。授業を展開していく。 【対面授業の場合】 授業時間外の学習に積極的に取り組むこと。毎回の授業を自筆のノートにまとめ、理解に繋げること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式での展開とする。授業内容については、授業回数に変更がなくても大幅な変更はしない。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。						
【教科書・参考書など】 テキスト：『コンパス保育内容健康』前橋明編著 建帛社出版（2018年） 参考書：『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）文部科学省厚生労働省、『保育所保育指針』（最新版）厚生労働省						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 ①授業への取り組みに対する意欲や態度（20%）、②毎回の講義内容に対する課題レポート作成（40%）、③最終課題レポート作成（40%） 【オンライン授業の場合】 ①毎回の講義内容に対する課題レポート（50%）、②最終課題レポート作成（50%）						

科目名	保育内容（環境）			担当者	鈴木信夫	
英文名	Child Care Studies (Environment)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR204		
【目的とねらい】 幼児は日常生活の中で自然を直接肌で感じ、さまざまな事象に興味や関心をもちながら成長していく。この授業では、領域「環境」の目的と意義を理解し、幼児になじみの深い動植物の飼育栽培の基本や、自然観察の方法を学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)			第9回 秋の自然(2) 【 到達目標 】 近くの公園に行って、ドングリのなる木を実際に観察し、雑木林の特徴を理解する。木の実など、自然の教材を利用する方法を、実際に教材として研究することにより理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで雑木林について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			
第2回 領域「環境」 【 到達目標 】 幼稚園教育要領および保育所保育指針における、「環境」の意義と目的を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)			第10回 冬の自然 【 到達目標 】 冬の典型的な気圧配置を理解する。また、冬に日本海側に大雪が降るメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】インターネットで、キーワード「過冷却」と「雪の結晶ができるまで」を検索し、動画を見ること。次回の授業のために指導案を準備すること。(4.0hr)			
第3回 小動物の飼育・ウサギ 【 到達目標 】 動物の飼育例としてウサギを取り上げる。ウサギの飼育の基本とウサギの生物学的な特徴を理解する。幼稚園・保育所での小動物の飼育の実践例を通して、動物介在教育の意義を再確認する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでカイウサギについて調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			第11回 おもちゃ作り 【 到達目標 】 ドングリや木の実、落ち葉など、自然の素材を利用しておもちゃを作成し、準備した指導案をもとにおもちゃを使った模擬授業を行う。課題を通して、実際に自然教材の扱い方を理解するとともに、生活科の内容にある、「身近な自然を利用し、みんなで遊びを楽しむことができる」とこととの関連を理解する。 【授業時間外学習】自然の素材を使っておもちゃを作成すること。指導案を作成し、模擬授業ができるよう準備をすること。(4.0hr)			
第4回 水槽で飼う生き物(1) 【 到達目標 】 メダカや金魚など、水槽で飼育する生き物の飼育の基本を理解する。 【授業時間外学習】 ペットショップに行って、水槽の種類や観賞魚を実際に観察すること。(4.0hr)			第12回 植物の栽培と観察(1) 【 到達目標 】 花壇作りの基本を理解する。 【授業時間外学習】身の回りがある花壇が、どのような種類の花壇で、どんな花が植えてあるか観察すること。(4.0hr)			
第5回 水槽で飼う生き物(2) 【 到達目標 】 オタマジャクシやザリガニ等の生き物の基本を理解する。また、幼稚園等で動物を飼育することの意義を理解する。小動物の飼育をテーマに、実際に指導案を作成することで、作成方法を理解する。 【授業時間外学習】インターネット等でアメリカザリガニの飼育について調べ、授業の理解を深めること。指導案の作成方法を確認すること。(4.0hr)			第13回 植物の栽培と観察(2) 【 到達目標 】 トマトやキュウリなどの野菜栽培の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 ホームセンターに行って、野菜の苗を実際に見て、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
第6回 春の自然 【 到達目標 】 春の野原に一齐に咲き出す、草花たちの繁殖戦略を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで、「スプリングエフェメラル」について調べること。(4.0hr)			第14回 園外活動(1) 【 到達目標 】 園外活動の意義を理解するとともに、園外活動の一例として、動物園を取り上げ、飼育されている代表的な動物の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットで東京にある代表的な動物園を調べ、その特徴を理解すること。(4.0hr)			
第7回 夏の自然 【 到達目標 】 夏の行事、七夕祭りに関連して、星座や星の一生について理解を深める。スマートフォンのアプリを利用して、星座や天体の見つけ方を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで夏の星座について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)			第15回 園外活動(2) 【 到達目標 】 潮干狩りに関連して、潮の満ち引きが起きるメカニズムを理解する。また、潮間帯に生息する生き物についての理解を深める。 【授業時間外学習】 インターネットなどで潮の満ち引きを調べ、今月の大潮の日を知ること。(4.0hr)			
第8回 秋の自然(1) 【 到達目標 】 紅葉のメカニズムを理解する。また、ドングリを取り巻く生き物達について、理解を深める。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドングリのなる木について調べ、授業の理解を深めること。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「おもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回のパワーポイントと補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのPholly上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は、各授業回の復習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】 文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版) 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版) 厚生労働省『保育所保育指針』(最新版)						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題を20%、テストを80%として評価する。 【オンライン授業の場合】 各授業回の復習課題を毎回評価し、授業終了時点でそれらを総合的に評価する。さらに全授業回終了時点でまとめのレポートを実施し評価する。各授業回の総合評価を60%、まとめのレポート評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	保育内容（言葉）				担当者	並木真理子	
英文名	Child Care Studies (Language)						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修	
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR205			
【目的とねらい】 言葉の機能や言語獲得のメカニズム、子どもの言葉の発達の流れを理解し、『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領』における子どもの言葉の育ちを支える保育のあり方を学ぶ。また、子どもの言葉に関する様々な課題とそれを踏まえた支援について理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス／領域「言葉」とは 【 到達目標 】 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。 幼稚園教育要領・保育所保育要領 領域「言葉」のねらいと内容について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第9回 子どもの言葉の発達（5） 【 到達目標 】 視聴覚教材を視聴しながら幼児期後期（4～5歳）の言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第2回 言葉の機能と獲得 【 到達目標 】 言葉の機能と子どもの言語獲得のメカニズムについて理解し、子どもの言葉の育ちにおける保育者の支援の重要性を認識する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第10回 幼児期における言葉の援助① 【 到達目標 】 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第3回 子どもの言葉の発達（1） 【 到達目標 】 視聴覚教材を視聴しながら乳児期の言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第11回 幼児期における言葉の援助② 【 到達目標 】 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第4回 乳児保育における言葉の援助 【 到達目標 】 『保育所保育指針』の乳児保育における保育者の援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第12回 子どもの言葉の発達（6） 【 到達目標 】 幼児期の書き言葉の発達について理解し、小学校国語との連携について理解を深める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第5回 子どもの言葉の発達（2） 【 到達目標 】 視聴覚教材を視聴しながら低年齢期（1～2歳）の言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第13回 言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援 【 到達目標 】 発達上の課題を抱える子どもや多様なルーツを持つ子どもに対する言葉の支援を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第6回 子どもの言葉の発達（3） 【 到達目標 】 視聴覚教材を視聴しながら幼児期前期（2～3歳）の言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第14回 言葉に親しむ保育教材 【 到達目標 】 言葉の面白さを感じられる保育教材の実際を理解し、教材を作成する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第7回 低年齢児保育における言葉の援助 【 到達目標 】 『保育所保育指針』の1歳以上3歳未満児保育の領域「言葉」における保育者の援助のあり方について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)				第15回 子どもを取り巻く言語環境と言葉の保育 【 到達目標 】 子どもの言葉を取り巻く現代的な課題について理解し、その課題を踏まえた言葉の保育について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)			
第8回 子どもの言葉の発達（4） 【 到達目標 】 視聴覚教材を視聴しながら幼児期中期（3～4歳）の言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。課題に取り組む。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 <ul style="list-style-type: none"> 授業は講義と演習を組み合わせて行う。グループワークやディスカッションには積極的に取り組み、多角的に授業内容の理解に努めること。 自主的に『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を読みこなし、内容の理解を深めること。 時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを記入する。振り返りシートをもとに次回授業でフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 <ul style="list-style-type: none"> オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、オンデマンド授業の課題提出状況によって順番を入れ替える場合がある。 配布資料はPDF資料や授業動画としてポータル配信する。ポータル配信の方法は初回授業で説明する。 相互に課題内容を共有するため、実践や作品について写真や動画での提出を求めることがある。 毎回、出席確認を兼ねた課題フォームを配信する。課題フォームの回答をもとに次回授業でフィードバックを行う。 							
【教科書・参考書など】							
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018 『保育所保育指針解説』厚生労働省（フレーベル館）2018 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 グループワークや提出物50%、試験課題50%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎回の課題50%、試験課題50%として総合的に評価する。							

科目名	保育内容（人間関係）			担当者	角田和也	
英文名	Child Care Studies (Social Relation of Nursery School and Kindergarten Teacher)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー		CMR206	
【目的とねらい】 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。発達過程に即した子どもの人間関係の変化を様々な視点から概観するとともに、子どもの状況に応じた援助の仕方について検討する。また、保育者同士および保護者や地域とのかかわりについても理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／領域「人間関係」における保育および教育の目標 【 到達目標 】 (1)人間関係を取り巻く現代社会の状況を理解する。 (2)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育の基本および目標を理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第9回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅲ—自己主張・葛藤・育ち合い— 【 到達目標 】 (1)事例を基に、子どもたちの「自己主張」「葛藤」「育ち合い」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第2回 領域「人間関係」におけるねらいと内容 【 到達目標 】 (1)幼保連携型認定こども園、幼稚園、保育所、それぞれの教育・保育のねらいおよび内容を理解する。 (2)「評価」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第10回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅳ—共同的遊び— 【 到達目標 】 (1)事例を基に、子どもたちの「共同的遊び」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第3回 身近な人とのかかわりと発達 【 到達目標 】 (1)人間関係の発達の指標となる発達課題について具体的に学ぶ。 (2)それぞれの発達課題が、その後の人間関係の成長にどのような影響を与えていくのかを理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第11回 人とのかかわりが難しい子どもへの支援 【 到達目標 】 (1)事例を基に、「人とのかかわりが難しい子ども」を支援する方策について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第4回 保育者に求められている人間関係Ⅰ 【 到達目標 】 (1)乳児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (2)幼児期の子どもたちとのかかわりを理解する。 (3)情報機器を活用した人とのかかわりを支援する方策について理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第12回 領域相互の関連性と保育展開Ⅰ—指導計画の意義・作成実践例(0～2歳児)— 【 到達目標 】 (1)未満児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第5回 保育者に求められている人間関係Ⅱ 【 到達目標 】 (1)保育者同士のかかわりについて理解する。 (2)保育者と保護者のかかわりについて理解する。 (3)情報機器を活用した関係づくりの方策について理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第13回 領域相互の関連性と保育展開Ⅱ—指導計画の意義・作成実践例(3歳児)— 【 到達目標 】 (1)3歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第6回 仲間とのかかわりと発達 【 到達目標 】 (1)自己調整力に育ちについて理解する。 (2)道徳性と規範意識の芽生えについて理解する。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第14回 領域相互の関連性と保育展開Ⅲ—指導計画の意義・作成実践例(4歳児)— 【 到達目標 】 (1)4歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第7回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅰ—イメージの共有— 【 到達目標 】 (1)事例を基に、子どもたちの「イメージの共有」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			第15回 領域相互の関連性と保育展開Ⅳ—指導計画の意義・作成実践例(5歳児)— 【 到達目標 】 (1)5歳児への指導計画を作成する際のポイントを理解する。 (2)模擬保育とその振り返りから、改善すべきポイントを見つけ出すことができる。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)			
第8回 遊びの中での人とのかかわりと保育者の役割Ⅱ—試行錯誤の過程— 【 到達目標 】 (1)事例を基に、子どもたちの「試行錯誤の過程」を支援する保育者のあり方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題への取り組み。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題の作成を、授業時間外学習で課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定URLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。 【オンライン授業の場合】 ①オンデマンド方式で授業を実施します。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しません。 ②各授業回に音声入りパワーポイント動画を閲覧できるようにします。閲覧については、授業開始時刻に動画のリンクURLを配信し、原則として5日後の17:00まで閲覧できるようにします。 ③出席は、各授業回の提出物の提出によって確認します。 ④授業に理解を深めるための課題作成を、授業時間外に課します。この作成した課題は後日インターネット上の所定のURLに提出してもらい、次回の授業で教材として使用したり、評価に反映させたりしていきます(下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します)。						
【教科書・参考書など】						
教科書：市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布する(オンライン形式の場合はオンライン上で配信する)プリント教材を使用します。 参考書：①田代和美他編著『演習保育内容人間関係』建帛社、②無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容2〈領域〉人間関係』萌文書林、 ③寺見陽子編著『子どもの心の育ちと人間関係』保育出版社、④田村美由紀・室井佑美著『〈領域〉人間関係ワークブック』萌文書林、 ⑤文部科学省『幼稚園教育要領』(最新版)、⑥文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(最新版)、⑦厚生労働省『保育所保育指針』(最新版)						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。 【オンライン授業の場合】 ・各授業時の提出物の評価……75% 期末課題の結果……25% ・提出物および期末課題は、クラウドシステムを活用して回収します。						

科目名	保育内容（表現A）			担当者	諸 富 満 希 子	
英 文 名	Child Care Studies (Expression A)					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CMR207		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し子どもたちの発達を踏まえた上で、表現領域の一分野である音楽の楽しさを子どもたちに伝え、また子どもたちからさまざまな表現を引き出すことのできる指導法を身につける。1年次の「歌唱法」で取り扱ってきた教材を、実際に子どもたちと歌ったり、楽器で演奏したり、音楽に合わせて動いたりしながら、子どもの「表現」を実際に感じ取る。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 領域「表現」のねらい及び内容の理解 【 到達目標 】 幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい・内容について理解する。 表現活動について、3・4・5歳を中心に、育みたい資質・能力について具体的に考える。 【授業時間外学習】 「発育発達論」や「保育・教育心理学」など、1年次に学習してきたことを復習する。(4.0hr)			第9回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 映像や音声の効果的な使用方法を実践的に学ぶとともに、「静」の環境を整える。 【授業時間外学習】 自らが「静」の環境を味わい、身の回りにある音に対しての感覚を磨く。(4.0hr)			
第2回 指導の進め方・教材研究（対象：年長児） 【 到達目標 】 年長児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。 ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。 【授業時間外学習】 いろいろな指導案の書き方を比較検討する。(4.0hr)			第10回 グループ③による体験授業 【 到達目標 】 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。 その振り返りを通して保育の改善について考える。 【授業時間外学習】 グループ③を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第3回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 年長児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。 【授業時間外学習】 年長児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)			第11回 グループ④による体験授業 【 到達目標 】 年中児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。 その振り返りを通して保育の改善について考える。 【授業時間外学習】 グループ④を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第4回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 ダルクローズなど海外の音楽メソッドの特色を理解し、実践の場で活用してみる。 【授業時間外学習】 国内外における音楽メソッドについて、どのようなものがあるか調べる。(4.0hr)			第12回 指導の進め方・教材研究（対象：年少児） 【 到達目標 】 年少児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。 ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。 【授業時間外学習】 年少児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)			
第5回 グループ①による体験授業 【 到達目標 】 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。 その振り返りを通して保育の改善について考える。 【授業時間外学習】 グループ①を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			第13回 年少児の指導（あそび歌を中心に） 【 到達目標 】 年少児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。 【授業時間外学習】 年少児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)			
第6回 グループ②による体験授業 【 到達目標 】 年長児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。 その振り返りを通して保育の改善について考える。 【授業時間外学習】 グループ②を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			第14回 グループ⑤による体験授業 【 到達目標 】 年少児を対象とした音楽表現の指導案を作成し模擬保育を行う。 その振り返りを通して保育の改善について考える。 【授業時間外学習】 グループ⑤を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。(4.0hr)			
第7回 指導の進め方・教材研究（対象：年中児） 【 到達目標 】 年中児に適した教材を選択し、指導案の作成についてモデル指導案を基に学ぶ。 ICTを活用した音楽表現活動の実践例を学ぶことにより、その効果について考える。 【授業時間外学習】 年中児にふさわしいと思われる曲を選択し、教材研究をおこなう。(4.0hr)			第15回 お楽しみ会を開こう 【 到達目標 】 卒園を間近に控えた年長児たちと共に、子どもたちが喜び表現活動を考える。 小学校の教科とものつながりを意識し、音楽だけでなく、造形・動きも取り入れた活動をする。 【授業時間外学習】 「内容が年齢に合っているか」「ことば掛けは適切か」などの観点を持ち、活動を工夫する。(4.0hr)			
第8回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 年中児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 子どもが主体的に学ぶことができたか、自身が対話的な働きかけができたか振り返りを行う。 【授業時間外学習】 年中児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 教材や指導方法など万全の準備を怠らない努力が必要であるが、それとともに実際の子どもの様子を観察し臨機応変に対応していく柔軟性が求められる。そのため、日頃から、ボランティアなどで子どもと接する機会があることが好ましい。園側の都合により、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においては、幼稚園での授業が難しい場合も想定される。その場合は、学生が指導する側と指導される側になり、体験授業を実施する。						
【教科書・参考書など】						
『子どものうた140選』ドレミ楽譜出版社、および1年次「歌唱法」の授業時に配ったプリント。 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他、適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 「指導の記録」およびレポート50%、グループ発表ならびに毎授業時における子どもとのコミュニケーション能力50%で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下において、幼稚園での授業実施が困難な場合は、学生を対象として行った授業発表時における指導内容30%、指導方法30%、音楽的レベル20%、コミュニケーション能力20%で評価する。						

科目名	保育内容（表現B）			担当者	望月久也	
英文名	Child Care Studies (Expression B)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR208		
【目的とねらい】 幼児期における表現活動の意義と特質、子どもの姿や発達を促す要因について造形表現を中心に学び、幼児の感性や創造性を豊かにする基本的教材について、素材、技法、ねらいや環境構成、指導上の留意点、評価方法等に関する専門的事項について実践的に理解する。また他の表現活動も視野に入れ、幼児の総合的な表現の可能性を考察する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 領域「表現」について（造形を中心に） 【到達目標】 子どもの表現活動を広く理解し、領域「表現」の位置づけについて説明できる。 【授業時間外学習】 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。(4.0hr)			第9回 立体素材と技法 1 【到達目標】 土粘土づくりとそれを用いた造形活動を実践し、その特性と楽しさを理解する。(また幼児用の油粘土との比較を行い、触感、可塑性の違いについて体感する。) 【授業時間外学習】 制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			
第2回 幼児の平面表現 1 【到達目標】 幼児期の平面表現の特質と発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を映像教材を参考にしながら身につける。 【授業時間外学習】 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。(4.0hr)			第10回 立体素材と技法 2 【到達目標】 紙粘土をはじめとする、固まる可塑材（含プラスチック、焼物）についてそれらの特性と楽しさを理解し、幼児の活動に活かす基礎を培う。 【授業時間外学習】 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。(4.0hr)			
第3回 幼児の平面表現 2 【到達目標】 幼児期の平面表現について、発達段階に合わせた楽しさを生み出す指導上のポイントを情報機器を用いて理解する。 【授業時間外学習】 児童文化財や美術、工芸作品等、広く造形的表現に触れる。			第11回 立体素材と技法 3 【到達目標】 紙粘土と厚紙、水彩絵具を併用した総合的立体造形の教材を各自考案し、指導案の素案を作成することができる。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
第4回 描画材と技法 1 【到達目標】 クレヨンを始めとする幼児の描画材の特質と楽しく使用方法を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第12回 総合的造形表現 1 【到達目標】 前回の授業成果に基づき、教材研究として制作を開始し、指導案の導入部分を明確化するとともに、自らの表現力を高めることができる。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
第5回 描画材と技法 2 【到達目標】 幼児の描画材の使用法の幅を広げて捉え、技法遊び等、子どもの興味を増やすような展開を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 制作進度の遅れを補う。(4.0hr)			第13回 総合的造形表現 2 【到達目標】 教材研究としての制作をすすめるなかで、子どもの活動の展開の可能性や環境設定を明確化するとともに、自らの表現力を高めることができる。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
第6回 描画材と技法 3 【到達目標】 非描画的な画材の使い方を数名のグループに分かれてPC等で検索、考案の上、実際に作品を制作して情報機器を用いたプレゼンテーションを行い、表現活動を構想する方法を身につける。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			第14回 総合的造形表現 3 【到達目標】 教材研究としての制作を完成させ、指導案をさらに練ってまとめることができる。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			
第7回 幼児の立体表現 1 【到達目標】 各種粘土の特質と造形的発達段階を理解し、作品の見方や環境設定等の知識を実材の比較映像教材を参考に身につける。 【授業時間外学習】 各作業の遅れを補う。(4.0hr)			第15回 プレゼンテーション（模擬授業）・まとめ 【到達目標】 各自が教材研究作品と指導案をもとに情報機器等を用いたプレゼンテーションを行い、子どもの活動のシミュレーションを明確に伝えることができる。（プレゼンテーションの内容は映像として各自にフィードバックする。） 【授業時間外学習】 全員のプレゼンテーションが終了しない場合は補講を行い、フィードバックされた映像について各自レポートを提出する。(4.0hr)			
第8回 幼児の立体表現 2 【到達目標】 小麦粉粘土づくりとそれを用いた造形活動を実践し、その特性と楽しさを理解する。 【授業時間外学習】 制作進度の遅れを補う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 実習が中心になるので自律的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（画材や文房具等）は各自で用意する。適宜、学生相互の作品鑑賞を行い、教員や学生同士で意見を交換することでフィードバックを行う。 【オンライン授業の場合】 対面による授業を原則とするが、状況に応じてオンライン形式の授業を導入する。その場合においても各授業回のテーマは変更せず、指定に応じて課題に取り組むこととする。						
【教科書・参考書など】 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針』（最新版） 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 ノートやレポート等の提出により制作過程を判断する。						

科目名	音楽表現			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Music for Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CMR209		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 子どもの「表現」の育ちを支えていくためには、まず子どもが潜在的に持っている資質を理解することが必要である。この授業では「表現」のなかでも「音楽」に焦点を当て、子どもが自らを豊かに表現できる環境づくりに寄与できる保育者となるよう、「ソルフェージュ（楽典）」「歌唱法」「器楽Ⅰ」など1年次に習得した音楽の知識をより実践的かつ統合的に学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 音楽による「表現」の教育 【 到達目標 】 領域「表現」のねらい及び内容について理解を深める。環境と音について考える。 【授業時間外学習】 身近にいる子どもの様子を観察する。(4.0hr)			第9回 季節のうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 秋・冬のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。 【授業時間外学習】 「歌唱法」で習った秋・冬のうたを復習する。(「どんぐりころころ」「お正月」など)(4.0hr)			
第2回 ハ長調のうたの弾き歌い 【 到達目標 】 平易な曲で、歌いながら弾くことに慣れる。「子どもの豊かな感性を引き出すような伴奏とはどういうものか」を考えながら弾く。 【授業時間外学習】 1年生で使用した「バーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。(4.0hr)			第10回 歌唱と伴奏のバランスの理解① 【 到達目標 】 うたに合った伴奏の音量や表現を理解する。また、音響機器や映像機器の活用および注意点について理解する。 【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
第3回 和音で伴奏する4拍子曲 【 到達目標 】 簡単な和音進行を理解し、マーチを弾く。 【授業時間外学習】 「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。(4.0hr)			第11回 歌唱と伴奏のバランスの理解② 【 到達目標 】 うたに合った伴奏の音量、またペダルの使用について理解する。 【授業時間外学習】 適宜ペダルを踏みながらピアノを弾く練習をする。(4.0hr)			
第4回 園生活のうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 「おはようのうた」「おべんとう」を正確に弾く。 【授業時間外学習】 「おはようのうた」「おべんとう」のうたを覚える。(4.0hr)			第12回 ハ長調・ニ長調の曲の弾き歌い 【 到達目標 】 調号の#やbに注意しながら弾く。 【授業時間外学習】 「ソルフェージュ（楽典）」で習った調性について復習する。(4.0hr)			
第5回 園生活のうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 「おかえりのうた」を正確に弾く。 【授業時間外学習】 「おかえりのうた」を覚える。(4.0hr)			第13回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。 【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
第6回 動きと表現について 【 到達目標 】 音楽と動きのかかわりについて、舞踊学的観点から学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの動きを観察する。(4.0hr)			第14回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。「さんぽ」などの曲を通して、小学校「音楽科」とのつながりを理解する。 【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。(4.0hr)			
第7回 マーチ・ランニング・スキップのリズム 【 到達目標 】 リズムを変えたり、調を移調したりして弾く。 【授業時間外学習】 「歩く」「走る」「スキップする」というそれぞれのリズムを身体で覚える。(4.0hr)			第15回 発表会 【 到達目標 】 子どもたちがいることを想定し、うたと伴奏のバランスを考えながら人前で演奏する。また自身の演奏が子どもの感性を呼び覚ますものとなるよう、表現を工夫する。 【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。(4.0hr)			
第8回 季節のうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 春・夏のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。 【授業時間外学習】 「歌唱法」で習った春・夏のうたを復習する。(「先生とおともだち」「うみ」など)(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。ピアノだけに力を注ぐのではなく、うたの部分をきれいに歌うことが肝心である。個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンデマンドで曲の模範演奏と学習上のポイントを配信するが、どのような状況下においても必ず数回は対面授業を行う。						
【教科書・参考書など】						
「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社） 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版）、文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） その他適宜楽譜を配布する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 実技演奏能力80％、授業における課題達成度・練習量20％で評価する。 【オンライン授業の場合】 新型コロナウイルスの感染状況下においても同様の基準で判断する。ただし、試験を行う時期については検討する。						

科目名	特別支援教育・障害児保育			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Special Support Education・ Childcare for Children with Disabilities					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR210		
【目的とねらい】 障害のある子ども、その他の特別な配慮を要する子どもを理解し、個別のニーズに対応するために必要な基礎的知識と支援方法を習得することを目的とする。障害児保育・特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について学び、個々の特性や心身の発達に応じた支援の方法や配慮について具体的に理解する。さらに、家庭への支援、関係機関との連携・協働、障害児保育（特別支援教育を含む）の現状と課題を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 障害児保育・特別支援教育を支える理念 【 到達目標 】 (1)障害の概念、障害児保育・特別支援教育の歴史の変遷について理解する。 (2)自立、地域社会への参加、インクルージョンなどの理念について理解する。 (3)合理的配慮の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第9回 障害児保育の実践（1）記録・評価、個別の指導計画・支援計画 【 到達目標 】 (1)行動観察、成育歴、検査等による発達の記録と評価について理解する。 (2)保育所保育指針および特別支援教育課程の趣旨に基づき、個別の指導計画・支援計画の作成について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第2回 障害のある子どもの理解と支援（1）視覚・聴覚・言語障害 【 到達目標 】 (1)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。 (2)視覚・聴覚・言語障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第10回 障害児保育の実践（2）環境づくり、子ども同士の育ち合い 【 到達目標 】 (1)個々の発達を促す生活や遊びの環境・体制の整備方法を具体的に理解する。 (2)子ども同士の関わりと育ち合いについて理解する。 (3)障害児保育における子どもの健康と安全について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第3回 障害のある子どもの理解と支援（2）肢体不自由、重症心身障害、病弱、医療的ケア児 【 到達目標 】 (1)肢体不自由・重症心身障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)病弱、医療的ケア児について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第11回 障害児保育の実践（3）職員間の連携・協働 【 到達目標 】 (1)クラス内の人的配置、保育所・幼稚園内の連携体制を理解する。 (2)情報の共有と守秘義務について理解する。 (3)特別な保育ニーズをもつ子どもへの保育者の専門性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第4回 障害のある子どもの理解と支援（3）知的障害 【 到達目標 】 (1)知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第12回 家庭への理解と支援 【 到達目標 】 (1)障害のある子どもを育てる家庭への子育て支援について理解する。 (2)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。 (3)保護者間の交流や支え合いの意義とその支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第5回 障害のある子どもの理解と支援（4）LD、ADHD 【 到達目標 】 (1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第13回 関係機関との連携 【 到達目標 】 (1)保育機関と児童発達支援センター・医療機関等との連携について理解する。 (2)保育機関と地域の小学校、教育委員会との連携について理解する。 (3)特別支援教育コーディネーターの役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)			
第5回 障害のある子どもの理解と支援（5）自閉スペクトラム症 【 到達目標 】 (1)ASD-自閉スペクトラム症について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			第14回 特別のニーズのある子どもの現状と課題（1）保健・医療 【 到達目標 】 (1)保健をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2)医療をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第6回 障害のある子どもの運動発達支援 【 到達目標 】 (1)DCD-発達性協調運動障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)障害のある子どもの発達を支援する運動あそびの理論と実際を理解する。 (3)支援課題に結び付けた環境設定（遊具等）の方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)			第15回 特別のニーズのある子どもの現状と課題（2）福祉・教育 【 到達目標 】 (1)福祉をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (2)教育をめぐる特別のニーズのある子どもの現状と課題を理解する。 (3)地域における支援の場の広がりとながりを理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第7回 障害はないが特別の支援ニーズのある幼児の把握や支援 【 到達目標 】 (1)母国語の違い、LGBT、貧困、虐待、DV、社会的養護等、特別な支援を必要とする子どもの、学習上または生活上の困難について理解する。 (2)多様な特別支援ニーズをもつ子どもへの、組織的な対応の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】障害のある子どもを保育するときも、一人ひとりの育ちを支援していくという保育の本質は変わらない。実際に児童発達支援や特別支援学校の児童とかかわる機会をもちながら学習することで、理論と実際を結び付け、適切な支援を行うための基礎的知識と実践的な技術を身につけていくことが重要である。家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など、子どもの育ちの支援について幅広い視点を学習し、自らが主体的に保育にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	幼児リトミック			担当者	森田陽子	
英文名	Eurhythmics for Children					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー			
授業形態	演習				CMR211	
【目的とねらい】 リトミックは、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。また、心で感じたものを、からだを使って自分なりに表現することで心とからだの協調・調和を作り出そうとするものである。授業では、天野式リトミックを基本に現在の保育の現場にあったリトミックを模索することで、保育者自身に必要な基礎的能力を養う。また、保育現場でのリトミックの取り入れ方を実践的に学び、応用する力をつける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 オリエンテーション：リトミックについてリトミックの特性について認識する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第9回 音楽反応② 【 到達目標 】 手足のコントロール、その他の音楽反応を理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第2回 基礎リズム① 【 到達目標 】 リズムとは何かを理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第10回 体育遊び① 【 到達目標 】 幼児テクニックを理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第3回 基礎リズム② 【 到達目標 】 身体や教具を用いて、基礎リズムを表現することができる。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第11回 体育遊び② 【 到達目標 】 幼児体操を理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第4回 リズムパターン① 【 到達目標 】 記憶したリズムパターンを身体表現することができる。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第12回 年齢別カリキュラム① 【 到達目標 】 1歳児と2歳児のカリキュラムについて理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第5回 リズムパターン② 【 到達目標 】 リズムパターンを作成し、教具で表現できる。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第13回 年齢別カリキュラム② 【 到達目標 】 3歳児のカリキュラムについて理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第6回 拍子① 【 到達目標 】 拍子の種類、各拍の役割について理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第14回 年齢別カリキュラム③ 【 到達目標 】 4歳児のカリキュラムについて理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第7回 拍子② 【 到達目標 】 各拍子に合わせた動作を表現することができる。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			第15回 年齢別カリキュラム④ 【 到達目標 】 5歳児のカリキュラムについて理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)			
第8回 音楽反応① 【 到達目標 】 和音遊び、拍子練習、音符の表現を理解する。 【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 本授業は毎回実技なので、動きやすい服装、素足で行う。授業で経験した活動、幼児のための指導については必ずノートを取り、気付いたことなど書きとめておくようにすること。 【オンライン授業の場合】 4回のみオンデマンド方式での展開とする。配信は、授業スケジュールに従い、その始業時間に大学ポータルサイトのGoogleDrive上にアップし、次の授業日の前日まで掲載する。配信された授業を視聴し、決められた期日までに課題を提出することで出席とする。残りの11回については、実技を行うこととする(対面授業参照)ため、状況によって連絡をする。						
【教科書・参考書など】						
天野式「幼児リトミック」第1集 永倉栄子編 (チャイルド本社) 天野式「幼児リトミック」第2集 永倉栄子編 (チャイルド本社)						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価50%、単元ごとの実技試験50%。 【オンライン授業の場合】 4回の配信レポート(20%)、授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価30%、単元ごとの実技試験50%。						

科目名	教育社会学			担当者	青木純一	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CMR301		
【目的とねらい】 学校や児童生徒に関する社会的かつ具体的問題について考える。その上で様々な教育問題は学校だけで解決できるものではなく、ひろく家庭、地域、社会との連携が必要であることを理解することが本科目の目的である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 日本の学校と教育の在り方について考える 【 到達目標 】 日本の学校を支える理念とはなにかを理解する。とくに、教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解する。併せて近年の学校をめぐる様々な変化について理解する。 【授業時間外学習】 日本の学校と教育の特徴について学ぶ。(4.0hr)			第9回 いじめ問題の歴史とその特徴を考える 【 到達目標 】 いじめが学校問題として登場した背景とその特徴について理解する。とくに近年の子どもの変化を踏まえ、指導上の課題を探る。また諸外国の教育事情や教育改革の動向と関連させて理解する。 【授業時間外学習】 いじめの歴史について、とくにいじめが学校問題となった経緯や背景を学ぶ。(4.0hr)			
第2回 教師の指導力を考える 【 到達目標 】 学校における体罰を例に教師の指導力とはなにかを理解する。併せて教師をめぐる教育関連法規法を理解するとともに、指導力を高める際に必要な学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。 【授業時間外学習】 教員や幼稚園教諭、保育士の体罰から指導力について学ぶ。(4.0hr)			第10回 いじめ対策の在り方を考える 【 到達目標 】 いじめ対策の一例として長野県の取り組みを中心にその具体策を探る。いじめ対策は地域との連携を基とする開かれた学校づくりが大切であることを理解する。また、公教育制度を構成する教育関連法規と関連させていじめ対策に取組む必要性や学級経営上の留意点等を理解する。 【授業時間外学習】 いじめ対策は学校だけで取組むのではなく、家庭、地域が一体になる必要性を学ぶ。(4.0hr)			
第3回 小学校における最近の児童の実態を考える 【 到達目標 】 小学校高学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、具体的な事例などを参考にしながら、その問題点を理解する。とくに子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルなど効果的な指導方法も併せて理解する。 【授業時間外学習】 小学校高学年の実態を学級崩壊の実態から学ぶ。(4.0hr)			第11回 子どもの病気や怪我を考える 【 到達目標 】 不幸にして病気や事故で大きなハンディを負う子どもがいる。そこで、学校の管理下で起こる事件、事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 【授業時間外学習】 いじめによる自殺者や病気・事故による子どもの死から大人の果たすべき役割を学ぶ。(4.0hr)			
第4回 中学校における最近の生徒の実態を考える 【 到達目標 】 中学校における荒れの実態を知るとともに、どのような生徒指導が必要か、その在り方を探る。とくに、最近の子どもの変化、社会の変化と関連させ、教職員が協同して取組む必要性を理解する。こうした取組を通して学級経営の仕組みやPDCAサイクルの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 中学校における生徒の実態を荒れた実際から学ぶ。(4.0hr)			第12回 世界の中の日本の子どもを考える 【 到達目標 】 各種の統計・実態調査を使って、諸外国の教育事情と教育政策の動向と比較して理解する。とくに、教育制度を支える教育理念の違いや教育制度をめぐる諸課題を日本と比較して理解する。 【授業時間外学習】 日本の子どもの実態について世界と比較しながら学ぶ。(4.0hr)			
第5回 幼小の連携の在り方について考える 【 到達目標 】 幼児教育と小学校とのスムーズな連携を図るために、どのような取組が必要かを理解する。とくに近年の教育政策の動向を理解し、小1プロブレムのような問題を起ささないためにスタートカリキュラム等の実践例を挙げて、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 保育所、幼稚園と小学校の連携のあり方について学ぶ。(4.0hr)			第13回 子どもの貧困とその対策を考える 【 到達目標 】 日本の子どもの貧困について理解する。とくに、子ども食堂など、ボランティアによる支援など、子どもの貧困問題の解決には地域との連携・協力が欠かせないことを理解する。こうした子どもへ配慮する、効果的な学級経営の方法や指導法を理解する。 【授業時間外学習】 貧困に関する日本や世界の实態を統計から学ぶ。(4.0hr)			
第6回 不登校の歴史とその特徴を考える 【 到達目標 】 登校拒否から不登校に至る歴史とその特徴について理解する。その際には社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響と不登校を生み出す学校制度をめぐる諸課題についても理解する。併せて、子どもの生活の変化を踏まえ指導上の課題を理解する。 【授業時間外学習】 不登校の歴史的経過や最近の実態について学ぶ。(4.0hr)			第14回 子どもの健康・安全について考える 【 到達目標 】 子どもの健康や安全の視点から、学校は地域とどのように連携・協力すべきか、その具体的な対策について考える。とくに学校事故を未然に防ぐための安全管理、安全教育の両面から具体的な取組を理解する。 【授業時間外学習】 日本における子どもの健康の実態とその対策の歴史を学ぶ。(4.0hr)			
第7回 インクルーシブなカリキュラムを考える 【 到達目標 】 不登校や障害者問題を契機に学校におけるインクルーシブ教育の在り方を理解する。とくに、地域との連携をもとに開かれた学校づくりの観点から障がい者と健康者が一体となった学びの在り方を理解するとともに、最近の特別支援教育の動向も理解する。 【授業時間外学習】 多文化共生社会にあって、どのようなカリキュラムが必要になるかを学ぶ。(4.0hr)			第15回 これからの学校・教育の在り方について考える 【 到達目標 】 第1回～第14回の講義を踏まえ、これからの学校や教育の在り方を探る。とくに公教育の原理及び理念を理解する。また、学校を巡る近年の様々な状況の変化も併せて理解する。 【授業時間外学習】 これからの学校に必要なものとはなにか、教師に必要な資質とはなにかを学ぶ。(4.0hr)			
第8回 学校外の教育活動について考える。 【 到達目標 】 フリースクールや学習塾など、学校外で教育を保障する活動を理解する。具体的にはフリースクールや予備校、塾などの果たす役割を公教育の原理及び理念と絡めて理解する。また、諸外国の教育事情と、関連させながら理解する。 【授業時間外学習】 学校教育以外の教育活動の実態とその特徴を学ぶ。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 最近の教育問題について新聞、雑誌などに目を通しておくことが大切である。 【オンライン授業の場合】 オンラインで授業をする場合、以下の点に留意すること。 (1) 授業に関する資料はGoogle Driveにアップし、資料にアクセスするためのアドレス等は随時メールにて配信する。 (2) 資料の配信期間やレポート等の提出期限等もその都度メールでお知らせするので、見逃さないように十分に注意すること。						
【教科書・参考書など】 参考書：「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省、その他の参考書は随時紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業出席2/3を満たした学生に対し試験（100%）を実施する。 【オンライン授業の場合】 小レポート（50%）と課題レポート（50%）から総合的に評価する。						

科目名	教育方法学			担当者	田中君枝	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修
授業形態	講義		科目ナンバー	CMR302		
【目的とねらい】 これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育について広く捉え、教育者としての素養と実践へとつながる基礎として、適切な教育方法及び技術、教材や情報機器等の活用の仕方に関する知識・技能を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教育方法の基礎理論 【到達目標】 教育方法の基礎的な理論を理解する。 【授業時間外学習】 「教育原論」等で学習した内容を復習する。(4.0hr)			第9回 幼児教育・保育における情報機器 (ICT) の活用 【到達目標】 子供たちの興味・関心を高めたり学習内容を振り返ったりするために、幼児の体験と関連を考慮しながら、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
第2回 日本の幼児教育方法の歴史 【到達目標】 教育方法の実践の基本を理解する。 【授業時間外学習】 「保育原理」等で学習した内容を復習する。(4.0hr)			第10回 情報機器等の活用1 【到達目標】 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解する。情報機器等を活用した授業(活動)について、数グループに分かれて保育教材を作成し、その結果を発表することで、教材作成や活用の基礎的な能力を身に付ける。 【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
第3回 環境を通して行う教育 子どもの育ちと物的環境 人的環境 【到達目標】 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			第11回 情報機器等の活用2 【到達目標】 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解する。情報機器等を活用した授業(活動)について、数グループに分かれて保育教材を作成し、その結果を発表することで、教材作成や活用の基礎的な能力を身に付ける。 【授業時間外学習】 情報機器等の教育的使用例をインターネットなどで調べる。(4.0hr)			
第4回 学習指導について(幼稚園) 【到達目標】 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材等、授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。 【授業時間外学習】 先輩が作成したものや公開されている学習指導案について調べる。(4.0hr)			第12回 幼児教育・保育における遊び 【到達目標】 話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			
第5回 教材研究・学習指導案作成1 【到達目標】 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 【授業時間外学習】 教材研究と学習指導案作成の不足を補う。(4.0hr)			第13回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と教育課程 【到達目標】 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解する。備に対する基礎的な考え方を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園設置基準、幼稚園教育要領の復習を行う。(4.0hr)			
第6回 教材研究・学習指導案作成2 【到達目標】 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容を教材・教具、授業・保育展開、学習形態評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 【授業時間外学習】 教材研究と学習指導案作成の不足を補う。(4.0hr)			第14回 幼児教育・保育のこれから 【到達目標】 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解する。 【授業時間外学習】 今回のプレゼンテーションに向けて準備をする。(4.0hr)			
第7回 模擬授業1 【到達目標】 数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業(活動)を行い互いに講評しあうアクティブラーニングを通じて、話法を始めとする保育を行う上での基礎的な指導技術を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業に向けての教材、教具等の準備を行う。(4.0hr)			第15回 考察・プレゼンテーション 【到達目標】 授業全体を通じて学んだ内容について各自が要点をまとめ、分かりやすく発表する。 【授業時間外学習】 ノート、資料等を整理し、教育方法について自らの考えをまとめる。(4.0hr)			
第8回 模擬授業2 【到達目標】 数グループに分かれ、学生を幼児に見立てて、各自指導案に基づいた模擬授業(活動)を行い互いに講評しあうアクティブラーニングを通じて、話法を始めとする保育を行う上での基礎的な指導技術を身につける。 【授業時間外学習】 模擬授業に向けての教材、教具等の準備を行う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 適宜小レポート、発表を課すので、授業内容について教育実践を念頭において、考えをまとめる習慣をつけておく。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と補足資料である。配信は、対面授業のスケジュールに従い、同一曜日の8:30に本学ポータルサイトのGoogledrive上にアップし、翌日の12:00まで掲載する。出席は各授業の復習課題の提出と次回授業の予習課題の提出によって確認する。						
【教科書・参考書など】						
参考書:「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」小櫃智子(編者)田中君枝 小山朝子、遠藤純子(わかば社) 「幼稚園・保育園・学童保育まで使える楽しい手遊び50」百瀬ユカリ 田中君枝(創成社) 「幼稚園教育要領解説」(最新版)文部科学省 資料のプリントも配付する。						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 授業内における小レポートと学習指導案の合計を30%、各発表の合計を30%として評価する。さらに、全授業終了時点でのまとめのレポート40%を実施し、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。 【オンライン授業の場合】 授業内における小レポート、学習指導案、提出課題の合計を60%、さらに、全授業終了時点でのまとめのレポート40%を実施し、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。						

科目名	保育内容（総合）			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Child Care Studies (Seminar)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー	CMR303		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 保育内容として、教育の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）があり、各領域ごとの科目が設定されている。本科目ではそれらの領域及び養護に関する保育の内容が、関連性をもって総合的に展開されることを具体的な保育実践につなげて理解することを目的とする。特に、多様な要素を含む子どもの遊びの内容や、その展開を助けるための環境構成に関する知識・技術について視聴覚教材や模擬保育などのグループ学習を通して、具体的に学んでいく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 幼児教育・保育の基本 【 到達目標 】 (1)環境を通して行う教育・保育について理解する。 (2)幼児期に育みたい資質・能力について理解する。 【授業時間外学習】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について資料を読み、理解を深める。(4.0hr)			第9回 保育の実践 【 到達目標 】 (1)指導計画に沿って、模擬保育を行う（グループ学習）。 (2)模擬保育を振り返り、保育を改善するための視点を持つ。 【授業時間外学習】 模擬保育の後に、指導計画案を修正する。(4.0hr)			
第2回 幼稚園の一日 【 到達目標 】 (1)幼稚園の一日の流れについて理解する。 (2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 保育者の援助の観点から幼稚園の一日について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)			第10回 保育環境の構成と再構成 【 到達目標 】 (1)環境構成の重要性やその意図について理解を深める。 (2)環境の再構成について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 保育の事例を調べ、環境構成の重要性を理解する。(4.0hr)			
第3回 保育所の日 【 到達目標 】 (1)保育所の一日の流れについて理解する。 (2)保育内容と保育者の援助について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 保育者の援助の観点から保育所の日について振り返る。認定こども園についても考察する。(4.0hr)			第11回 遊びの導入と展開① 【 到達目標 】 (1)遊びの導入の方法について理解する。 (2)視聴覚教材を活用しながら遊びの展開の方法について学ぶ（グループ学習）。 【授業時間外学習】 導入～展開に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)			
第4回 保育内容の考え方・捉え方 【 到達目標 】 (1)幼稚園教育要領と保育内容について確認する。 (2)保育所保育指針と保育内容について確認する。 【授業時間外学習】 幼稚園教育要領、保育所保育指針等を読み、授業内容の理解を深める。(4.0hr)			第12回 遊びの導入と展開② 【 到達目標 】 (1)遊びの導入と展開を具体的に理解する。 (2)遊びの導入と展開を考察し、適切な教材について理解する。 【授業時間外学習】 映像や写真から遊びの導入と展開を予測したり考えたりする。(4.0hr)			
第5回 子どもの発達過程と保育内容① 【 到達目標 】 (1)3歳未満児の発達過程について理解する。 (2)3歳未満児の発達に応じた保育内容について理解する。 【授業時間外学習】 3歳未満児の資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)			第13回 遊びと保育内容① 【 到達目標 】 (1)遊びをみる視点と保育者の援助について理解する。 (2)「物とのかかわり」「人とのかかわり」について理解する。 【授業時間外学習】 遊びをみる視点に関する教科書の該当箇所から、理解を深める。(4.0hr)			
第6回 子どもの発達過程と保育内容② 【 到達目標 】 (1)3歳以上児の発達過程について理解する。 (2)3歳以上児の発達に応じた保育内容について理解する。 【授業時間外学習】 3歳～5歳児の資料により、発達のな特徴を捉える。(4.0hr)			第14回 遊びと保育内容② 【 到達目標 】 (1)5領域の特性に応じた保育実践と総合的指導について理解する。 (2)視聴覚教材を活用しながら遊びの援助の実際を理解する（グループ学習）。 【授業時間外学習】 ”○○ごっこ”を5領域の観点から分析してみる。(4.0hr)			
第7回 保育の計画① 【 到達目標 】 (1)保育課程と指導計画について理解する。 (2)指導計画の内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育課程及び指導計画に関する教科書の該当箇所を読み、理解を深める。(4.0hr)			第15回 保育内容の更なる充実をめざして 【 到達目標 】 (1)接続期（年長～小1）のカリキュラムについて理解する。 (2)長期指導計画・短期指導計画について再確認し理解を深める。 【授業時間外学習】 小学校との連続性に関する資料やアプローチカリキュラムについての資料を読む。(4.0hr)			
第8回 保育の計画② 【 到達目標 】 (1)指導計画に基づく保育実践を理解する。 (2)指導計画案を具体的に作成し、必要な教材研究を行う。 【授業時間外学習】 保育現場の指導計画を参考に、指導計画案を作成する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 保育内容を総合的に理解するために、様々な科目と関連づけて学ばなければならない。今後の保育実習や実践に活かすべく、具体的な保育場面を想定しながら学びを深めてほしい。毎時間、授業内容に関する小レポートを作成し、次回の授業にフィードバックをして理解度を深める。模擬保育及び視聴覚教材によるグループ学習からの学びも大切にすること。なお、理解度確認のため授業内試験を行う。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式及びリアルタイム方式の授業を実施する。授業内容は、大幅な変更はしない。授業配信の場合は、対面授業の時間割と同一時間に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップする（掲載期限はその都度確認のこと）。出席は各回の課題提出及びリアルタイムの場合は各回の冒頭に画面を通して確認する。						
【教科書・参考書など】						
教科書：津金美智子、新井美保子編 安部孝、伊藤博美、百瀬ユカリ他著『子どもの主体性を育む保育内容総論』（株式会社みらい） 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領解説書』（最新版）、厚生労働省『保育所保育指針解説書』（最新版）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（最新版）（フレーベル館）						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内試験の結果を40%として総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 毎回の授業レポートと最終課題レポートの内容を評価する。毎回の授業レポート（メールで提出）の評価を60%、最終課題レポート（メールで提出）の評価40%として総合的に評価する。						

科目名	保育指導法演習				担当者	桐川 敦子	
英文名	Seminar in Method of Child Care						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別				専門・必修	
授業形態	演習		科目ナンバー	CMR304			
【目的とねらい】 幼稚園の保育は基本的に次のような考え方によって行われる。「幼児の主體的な生活を中心に展開される。」「環境を通して行う。」「幼児一人ひとりの特徴や発達に応じて行う。」「あそびを通して総合的な指導によって行われる。」 子どもが主體的につくるあそびに保育者はどのようにかわかっていったらいいのか。どのように援助し、働きかけていくべきか。保育の中で指導とは何か。子どもと共にある保育者の姿勢とは。これらを、具体的な実践の場を設定し、学んでいく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 本授業におけるオリエンテーション 【 到達目標 】 幼稚園教育要領や保育所保育指針で述べられている保育の基本的な考え方について確認し、附属幼稚園の子どもたちとかわりながら「おみせやさんごっこ」等を展開するといった具体的な実践の場で学ぶこの授業の在り方を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料の確認をする。(4.0hr)				第9回 保育活動の実践2 【 到達目標 】 4歳児、5歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
第2回 保育と指導 【 到達目標 】 保育形態について学び、自分たちが行おうとする保育活動の位置づけを明らかにする。グループごとに保育活動のねらいとテーマを考える。幼児の認識・思考、動き等を視野に入れて保育活動を構想する。情報機器や教材の活用等も考慮し、保育の構想に役立てる。 【授業時間外学習】 保育の形態についての復習をする。(4.0hr)				第10回 保育活動の実践3 【 到達目標 】 4歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
第3回 保育活動の指導計画作成 【 到達目標 】 グループごとに保育活動の指導計画を立て、発表する。指導案立案に際しては、ねらい及び内容について考慮し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解しながら行う。子ども達への働きかけ、かわり方等十分に検討する。子どもと共にある保育者としてどのようにあるべきか検討する。 【授業時間外学習】 指導計画の立案をする。(4.0hr)				第11回 保育活動の実践4 【 到達目標 】 3歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
第4回 教材研究 【 到達目標 】 教材などについて検討し、グループごとに発表する。安全面、子どもの年齢、発展性など様々な角度から検討する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。(4.0hr)				第12回 保育活動の実践5 【 到達目標 】 3歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)			
第5回 保育活動の準備1 【 到達目標 】 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。途中、中間報告会を設ける。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。(4.0hr)				第13回 実践の振り返り1 【 到達目標 】 実践で学んだことを、様々な思想、学問と照らし合わせる。理論と実践を融合させながら考察し、保育について理解を深める。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
第6回 保育活動の準備2 【 到達目標 】 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。(4.0hr)				第14回 実践の振り返り2 【 到達目標 】 反省点などをまとめ、資料を整理する。学習した事柄を記録として残す。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
第7回 環境構成 【 到達目標 】 子どもたちにとって良い環境構成とは何かを考える。安全面など様々な角度から検討する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。(4.0hr)				第15回 実践の振り返り3 【 到達目標 】 活動中の映像を見ながら総合的に振り返り、保育と指導、あそびと援助について理解を深める。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。(4.0hr)			
第8回 保育活動の実践1 【 到達目標 】 保育活動を行う。(5歳児)子どもと関わる回においては、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を確実に身に付けようとする。5歳児とかわりながら、子どもの理解を深め、かわり方を学ぶ。5歳児については小学校との接続を考慮しながら援助を行う。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 附属幼稚園の子どもたちとかわる授業なので、保育者を目指す学生の真剣な取り組みを期待する。コロナ禍において、子どもとかわる授業が難しい場合は、写真や動画を活用しながら子どもの様子の詳細を伝え、子どもの育ちに適した保育指導方を学ぶようにする。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育指導法の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育指導法についての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書(所定の様式)の提出(メール)によって行う。							
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場で実務経験のある教員が、保育活動の位置づけ、指導計画の作成、教材研究などについて、具体的な実践的の場を設定し指導を行う。							
【教科書・参考書など】 教科書「離れてあそぼう」桐川敦子著 東洋館出版 「幼稚園教育要領」(最新版)文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(最新版)文部科学省厚生労働省							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 授業中の発表50%、レポート50% 【オンライン授業の場合】 毎時間のレポートを40%(回答を撮影した写真及び回答用紙をメール添付で提出)、期末のレポートを60%(メール添付で提出)として評価する。							

科目名	子どもの保健			担当者	沢田真喜子	
英文名	Children's Health					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		科目ナンバー	CME101		
授業形態	講義					
【目的とねらい】 子どもの心身の健康増進を目指す保健活動の意義を理解し、子どもの発育発達過程や心身の健康状態とその把握方法、子どもに多い病気や事故の実態と母子保健政策を学び、集団保育の場で行う子どもの健康管理と安全管理について修得することを目的とする。さらに、子どもの心身の健康を守り適切な対応や望ましい援助を行い、子どもが自らの健康について関心をもてるようはたらきかける保育者として、必要な保健管理・保健教育の資質・能力の修得を目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保健活動の意義と目的 【 到達目標 】 ・子どもの健康に保健活動は、どのように役立ってきたかを理解する。 ・子どもの保健活動で扱う範囲を知る。 ・子どもの保健の知識を子どもの保育でどのように役立っているかを理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第9回 感染症の予防および適切な対応 【 到達目標 】 ・感染経路による予防方法と、感染者が集団生活を控えるべき期間を理解する。 ・予防接種について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第2回 子どもの出生と母子保健の意義 【 到達目標 】 ・胎児の発育と出生の過程を知る。 ・胎児の発育と出生に影響する因子および新生児の特徴を理解する。 ・母子保健が子どもの健康を守るために果たしている意義について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第10回 救急疾患の特徴と適切な対応 【 到達目標 】 ・子どもの救急疾患の特徴とその対応を理解する。 ・重症児の判断と子どもの心肺蘇生法を理解する。 ・救急疾患が重症化しないようにするにはどうしたらよいかと理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第3回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 【 到達目標 】 ・わが国の出生と子どもの死亡に関する統計から、子どもの健康に関する現状を知る。 ・子どもの健康に関する時代の推移を理解し、現代社会における現状と課題を考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第11回 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応 【 到達目標 】 ・新生児特有の病気と対応を知る。 ・早産児や低出生体重児の定義と対応を知る。 ・新生児期にわかる主な先天性の病気と対応を知る。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第4回 子どもの身体発育と運動機能の発達 【 到達目標 】 ・子どもの正しい身体計測の仕方を知る。 ・わが国の子どもの身体発育の標準と評価の仕方について知る。 ・子どもの身体発育や発達に影響するものを理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第12回 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 【 到達目標 】 ・アレルギー疾患の特徴と対応を知る。 ・集団生活におけるアレルギー疾患児の対応を知る。 ・アレルギーを抱える子どもの発達をどのように見守るか考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第5回 生理機能の発達と生活習慣 【 到達目標 】 ・子どもと大人の生理機能の違いを理解する。 ・子どもの生理機能の評価の仕方を理解する。 ・生理機能の発達に応じた生活習慣を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第13回 慢性疾患の特徴と適切な対応 【 到達目標 】 ・子どもの主な慢性疾患の種類とそれぞれの症状、対応を理解する。 ・慢性疾患を抱えている子どもの支援について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第6回 地域における保健活動と子どもの虐待防止 【 到達目標 】 ・地域の子どもの健康支援において、どのような活動を行っているかを理解する。 ・子どもの虐待の現状を理解し、虐待防止の取り組みを考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第14回 保護者との情報共有と家族の支援 【 到達目標 】 ・保護者との情報共有は、具体的にどのように行うかを理解する。 ・様々な子どもたちの健康状況と支援や情報共有にはどのようなことがあるか理解する。 ・子どもを育てるための家族への支援や子育て支援の実際を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第7回 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 【 到達目標 】 ・子どもの健康状態の把握の方法について理解する。 ・子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			第15回 子どもの健康診断と関連機関との連携 【 到達目標 】 ・子どもに関連する健康診断の内容と意義を理解する。 ・健康診断を通じた関係機関との連携の実際と意義を理解する。 ・健康診断を通じた子育て支援を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)			
第8回 子どもの免疫の発達と感染症の特徴 【 到達目標 】 ・子どもの免疫の発達について理解する。 ・感染症の種類と感染経路を知る。 ・子どもがかかりやすい感染症の特徴を知る。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、確認度チェックとレビューを行う。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 教科書や配布資料を用いて講義を進めていくが、グループ学習やディスカッションを中心に、提示されている事象をもとに、関係性や規則性を見つけ定義等を理解し、それらを具体的に説明できるよう主体的に取り組むことを期待する。そのため、各回の課題（リフレクションシート等への記入）を通して、講義内容を主体的に振り返り、疑問や不明な点については自ら調べたり質問できるようにして欲しい。さらに、子どもの健康や病気、事件や事故に関する書籍やニュース等、日頃からチェックする習慣を身につけて授業に臨んで欲しい。 オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。						
【教科書・参考書など】 教科書は、第1回授業前に掲示にて示す。参考書については、第1回授業時に紹介する。						
【成績評価方法】 オンライン・オフライン授業ともに、各回の課題達成度（70%）、課題レポート（30%）の加重平均にて総合的に評価する。						

科目名	子ども家庭福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child and Family Welfare					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー			
授業形態	講義				CME201	
【目的とねらい】 子どもや家庭を取り巻く社会的環境は、子どもの育ちという側面からみても、子育てという側面からみても、昨今非常に厳しいものがある。本講義では、子どもの育ちや子育てを社会的に支える仕組みや制度について、基礎的事項を学ぶことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 子ども家庭福祉の理念・概念 【 到達目標 】 (1) 現代社会における子ども家庭福祉の理念を理解する。 (2) 現代社会における子ども家庭福祉の概念について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第9回 母子保健と子どもの健全育成 【 到達目標 】 (1) 母子保健施策の現状と課題を理解する。 (2) 子どもの健全育成施策の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 子ども家庭福祉の歴史の変遷 【 到達目標 】 (1) 日本の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 (2) 欧米の子ども家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第10回 障がいのある子どもとその家族への支援 【 到達目標 】 (1) 障がいのある子どもと家族について現状と課題を理解する。 (2) 障がいのある子どもと家族を支援する制度について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 現代の養育環境 【 到達目標 】 (1) 子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容を理解する。 (2) 現代社会の子ども家庭をめぐる多様な問題を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第11回 社会的養護・少年非行等と家族への支援 【 到達目標 】 (1) 社会的養護について、現状と課題を理解する。 (2) 非行児童とその家族を支援する制度について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 子どもの人権擁護 【 到達目標 】 (1) 子どもの人権擁護の歴史の変遷を理解する。 (2) 児童の権利に関する条約について理解する。 (3) 子どもの人権擁護と現代社会における課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第12回 児童虐待防止への取り組み 【 到達目標 】 (1) 児童虐待の定義、現状と課題について説明できる。 (2) 子どもを虐待から保護する仕組みについて説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)			
第5回 子ども家庭福祉の法体系 【 到達目標 】 (1) 児童福祉法をはじめとする児童福祉六法について説明できる。 (2) その他の子ども家庭福祉関連法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第13回 ドメスティックバイオレンスへの対応 【 到達目標 】 (1) ドメスティックバイオレンスの現状と課題を理解する。 (2) ドメスティックバイオレンスへの対応について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 子ども家庭福祉の実施体制、行財政、専門職 【 到達目標 】 (1) 子ども家庭福祉行政の実施機関、児童福祉施設について説明できる。 (2) 子ども家庭福祉の財政、専門職について説明できる。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第14回 現代的課題への対応 【 到達目標 】 (1) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について理解する。 (2) 地域における連携・協働とネットワークについて理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 少子化と地域子育て支援 【 到達目標 】 (1) 少子化と子育て支援・次世代育成支援施策の動向を理解する。 (2) 地域における子育て支援サービスの概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第15回 諸外国の動向 【 到達目標 】 (1) 諸外国の子ども家庭福祉の動向を理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
第8回 多様な保育ニーズへの対応 【 到達目標 】 (1) 保育制度と保育施策の現状と課題について説明できる。 (2) 多様な保育ニーズに対応するサービスについて説明できる。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 現代社会に実際に起こっている子どもの育ち、子育てをめぐる問題を、新聞やTVのニュース報道より適宜取り上げる。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチし、多様な視点から思考できる力を養っておくことが大切である。子ども家庭福祉をめぐる課題について、自身の子ども時代と結びつけながら、あるいは親になったときのことを思いながら、具体的に考えてみると理解が深まるであろう。 パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	乳児保育 I			担当者	沢田真喜子	
英文名	Early Child Care I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CME202		
授業形態	講義					
【目的とねらい】 乳児保育の理念と歴史の変遷及び社会的役割等について学び、多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の心身の発育・発達過程について理解を深め、各年齢・月齢の発達の特徴や環境とのかかわりを理解する。また、健康、安全及び保健衛生面についての配慮や運営体制、胎児期からの保護者支援の重要性について具体的な事例を通して学び、地域との交流、関係機関との連携の重要性など、現代における保護者支援と乳児保育の役割について修得することを目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 乳児保育の意義 【 到達目標 】 乳児保育のとらえ方、子ども子育て支援制度における乳児保育について理解する。 【授業時間外学習】 母性神話や三歳児神話とはどのような考え方だったのか調べ、まとめる。(4.0hr)			第9回 児童福祉法と児童福祉施設 【 到達目標 】 児童福祉法の根本思想、乳児保育が行われる施設の位置づけと保育士の役割について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第2回 現代における子育て支援と乳児保育 【 到達目標 】 保護者の就労を支える乳児保育、保護者の子育てを支える乳児保育について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を調べ、保育を必要とする事由についてまとめる。(4.0hr)			第10回 労働基準法が示す女性への配慮 【 到達目標 】 妊娠・出産と労働基準法、育児・介護休業法とその対象及び現状について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第3回 乳児保育の成り立ち 【 到達目標 】 乳児保育のはじまり、児童福祉法の制定と保育所の位置づけについて理解する。 【授業時間外学習】 保育所における子育て支援事業について調べる。(4.0hr)			第11回 乳児期の特性と乳児保育 【 到達目標 】 0～3歳児（低年齢児）の発達の特徴と発達過程、自我の芽生えと人格形成について理解し、保育や保護者支援について考えをまとめる。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第4回 乳児保育の現状 【 到達目標 】 乳児保育需要の拡大、認可外保育施設をめぐる問題について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			第12回 保育所保育指針と乳児保育① 【 到達目標 】 保育所保育指針の方向性と3歳以上児の保育内容の共有化、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育計画について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第5回 子ども・子育て支援新制度 【 到達目標 】 新制度の仕組みとして、保育を提供する施設・事業及び保育の利用手続きについて理解し、新しい乳児保育の事業と待機児童問題について考えをまとめる。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			第13回 保育所保育指針と乳児保育② 【 到達目標 】 0・1・2歳児の保育に関する事項と保育の「ねらい」「内容」「個別的な計画」について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第6回 新しい乳児保育の事業と待機児童問題 【 到達目標 】 待機児童解消をめざした地域型保育事業、企業主導型保育事業の新設について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			第14回 乳児保育の計画・評価① 【 到達目標 】 乳児のための指導計画作成の視点を学び、年間指導計画、月間指導計画、週案・日案の作成方法と評価方法について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			
第7回 乳児院と福祉施設の現状 【 到達目標 】 乳児院における保育の特徴について理解し、24時間保育と子どもの成長について考えをまとめる。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)			第15回 乳児保育の計画・評価②と家庭との連携 【 到達目標 】 生活リズムと保育園の日課、保育日誌と家庭との連絡の実践について理解する。 【授業時間外学習】 課題をもとに、保護者とのパートナーシップについてまとめる。(4.0hr)			
第8回 認定こども園の現状と課題 【 到達目標 】 認定こども園の機能、認定こども園導入の社会的背景と課題について理解する。 【授業時間外学習】 指定した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 配布資料や参考書を用いて授業を進めるが、ノートを作成し授業のポイントや資料等を整理して欲しい。乳児保育は、3歳以上児の保育の基盤となるものであり、社会的ニーズが高く、保護者支援を含めた取り組みが期待されていることを自覚し、総合的に学ぶことが重要になる。そのため、グループ学習や学生によるプレゼンテーションを取り入れながら、相互に学びあう機会を多く設けたり、動画をもとにディスカッションできる機会を設けるため、内容を適確に捉え表現し、知識や経験と関連付けて説明できることが大切になる。また、主体的・積極的に乳児や1・2歳児に接する機会をつくって欲しい。オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。						
【教科書・参考書など】 参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。						
【成績評価方法】 オンライン・オフライン授業ともに、各回の課題達成度（40％）、課題テスト（30％）、課題レポート（30％）の加重平均にて総合的に評価する。						

科目名	子ども家庭支援の心理学			担当者	倉盛美穂子	
英文名	Psychology for Child and Family Support					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		科目ナンバー	CME203		
授業形態	講義					
【目的とねらい】 1年次に履修する「保育・教育心理学」で学んだ内容を基に、乳幼児の発達や学習を支える保育者になるために必要な心理学的知識を深めることを目的とする。具体的には、乳幼児期の発達や学習の特徴、それを支える家庭環境や教育環境の重要性について講義する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 乳幼児期～青年期の発達 【 到達目標 】 (1) 乳幼児期～青年期の発達の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 多様な家族とその理解 (2) ステップファミリー 里親 【 到達目標 】 (1) 現代家庭の多様さ、ステップファミリーや里親について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 成人期の発達 【 到達目標 】 (1) 成人期の発達の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 多様な家族とその理解 (3) 外国にルーツをもつ子どもたち 【 到達目標 】 (1) 現代家庭の多様さ、外国にルーツをもつ子どもたちについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 老年期の発達 【 到達目標 】 (1) 老年期の発達の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 しつけと虐待 (1) 【 到達目標 】 (1) 虐待の背景と虐待対応の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 家族とは 【 到達目標 】 (1) 家庭の意義と機能を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 しつけと虐待 (2) 【 到達目標 】 (1) 虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 家族の発達とは 【 到達目標 】 (1) 親になることの発達について理解する。 (2) 家族の発達システムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 愛着理論の基本的枠組み 【 到達目標 】 (1) 愛着理論の基本的枠組みを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 親と子の発達を支える 【 到達目標 】 (1) 親子間の相互作用システムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 愛着の発達 【 到達目標 】 (1) 愛着の発達プロセス、愛着の世代間伝達、愛着障害の出現について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第7回 ライフコースと仕事・子育て 【 到達目標 】 (1) 親子の間で安定した愛着が形成されるためのメカニズムを説明できる。 (2) 子育て家庭を取り巻く現状と保育者にとっての支援課題について理解を深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第15回 支援者・指導者にはどのような資質や能力が求められるのか 【 到達目標 】 (1) 支援者・指導者の役割について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 多様な家族とその理解 (1) ひとり親 貧困 【 到達目標 】 (1) 現代家庭の多様さ、ひとり親、貧困家庭について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】						
【対面授業の場合】 講義ではパワーポイントを使用する。適宜資料を配布する。授業のターゲットとなる年齢や事象をイメージするために、映像教材を活用する。事例をもとに討議しながら、対象者や問題への理解を深める。質問は適宜受け付け、次回の授業冒頭で全員で共有する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出をすること。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する (Pholly)。質問は適宜受け付ける。動画は、授業日の前日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。						
【教科書・参考書など】						
参考書 「子ども家庭支援の心理学」相良順子・沖住佐江子（編）ナカニシヤ出版 「子ども家庭支援の心理学」白川佳子・福丸由佳（編）中央法規						
【成績評価方法】						
【対面授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50% 【オンライン授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、最終レポート 50%						

科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Early Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CME204		
【目的とねらい】 乳児保育Ⅰで学習した内容をもとに、3歳未満児の発育・発達過程や特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。養護および教育の一体性をふまえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法および環境について具体的に理解し、乳児保育における配慮の実践について学びを深めることをねらいとする。						
第1回 乳児保育の基本 【到達目標】 乳児期の発達特性と周囲からの影響について理解し、乳児の生きていく力を育む保育や保護者支援について考えることができる。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第9回 1歳児クラスのデイリープログラム① 【到達目標】 1歳児クラスのデイリープログラムについて理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第2回 0～1か月児の育ちと保育 【到達目標】 胎児期と母体の健康、新生児期の特徴と母親を中心とした家族への支援について理解する。新生児期以降の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第10回 1歳児クラスのデイリープログラム② 【到達目標】 1歳児クラスのデイリープログラムを立案する。 【授業時間外学習】 立案したデイリープログラムを改善し、まとめる。(4.0hr)						
第3回 2～3か月児の育ちと保育 【到達目標】 2～3か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。最善の利益と家庭との連携、養護と教育の一体性について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第11回 2歳児の育ちと保育 【到達目標】 2歳児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第4回 4か月～6か月児の育ちと保育 【到達目標】 4～6か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第12回 2歳児のデイリープログラム① 【到達目標】 2歳児クラスのデイリープログラムについて理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第5回 7か月～1歳未満児の育ちと保育 【到達目標】 7か月～1歳未満児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第13回 2歳児のデイリープログラム② 【到達目標】 2歳児クラスのデイリープログラムを立案する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第6回 0歳児クラスのデイリープログラム 【到達目標】 0歳児クラスのデイリープログラムについて理解し、立案する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第14回 基本的な生活習慣の獲得と保育 【到達目標】 乳児期の食事・排泄行動の整理と発達、睡眠と午睡について理解し、発育・発達をふまえた保育者の援助やかかわりについてまとめる。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第7回 1歳～1歳6か月未満児の子どもの育ちと保育内容 【到達目標】 1歳～1歳6か月未満児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
第15回 乳児保育における連携とパートナーシップ 【到達目標】 職員間および保護者との連携のあり方について、乳児の養育環境及び保育の課題をふまえて理解することができる。保護者支援については、自治体や地域の関係機関等との連携・協働の実践例から理解を深める。 【授業時間外学習】 課題をもとに地域に関連専門機関の役割についてまとめる。(4.0hr)						
第8回 1歳6か月～2歳未満児の子どもの育ちと保育内容 【到達目標】 1歳6か月～2歳未満児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 配布資料や参考書を用いて授業を進めるが、ノートを作成し授業のポイントや資料等を整理して欲しい。乳児保育は、3歳以上児の保育の基盤となるものであり、社会的ニーズが高く、保護者支援を含めた取り組みが期待されていることを自覚し、総合的に学ぶことが重要になる。そのため、グループ学習や学生によるプレゼンテーションを取り入れながら、相互に学びあう機会を多く設けたり、動画をもとにディスカッションできる機会を設けるため、内容を適確に捉え表現し、知識や経験と関連付けて説明できることが大切になる。また、主体的・積極的に乳児や1・2歳児に接する機会をつくって欲しい。 オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。						
【教科書・参考書など】 参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。						
【成績評価方法】 オンライン・オフライン授業ともに、各回の課題達成度(40%)、課題テスト(30%)、課題レポート(30%)の加重平均にて総合的に評価する。						

科目名	子どもの健康と安全				担当者	沢田真喜子	
英文名	Children's Health and Safety						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2					専門・選択	
授業形態	演習		科目ナンバー		CME205		
【目的とねらい】 「子どもの保健」で学んだ知識を基に、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や子どもに多い疾病への対応、事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組と対策、救急処置及び救急蘇生法、災害への備えと危機管理について具体的に学ぶ。子どもの発育発達の特徴について理解を深め、子どもの心身の健康について評価し、集団保育において保育者が行うべき健康・安全管理の基礎を修得する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 子どもの健康と保育環境 【 到達目標 】 子どもの環境を整えるための保育環境整備について、参照し理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)				第9回 救急処置と救急蘇生法② 【 到達目標 】 事例をもとに、救急処置法の適切な対応を修得する。 子どもの健康、衣服による事故と防止について理解し、子どもの発育・発達に適した方法を説明することができる。 【授業時間外学習】 修得した技能を整理し、改善点についてまとめる。(4.0hr)			
第2回 子どもの保健に関する対応と健康・安全管理 【 到達目標 】 子どもの健康と安全管理について、関連法規・ガイドラインに基づく基準を個別対応と集団管理の実際を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、健康状態の評価方法に沿って測定し記録する。(4.0hr)				第10回 感染症の予防と対策 【 到達目標 】 感染症の集団発生予防と感染症対策について、事例をもとに適切な対応方法をふまえた計画を立案することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所 (p110-117) を読み、不明な点を調べ観察の要点をまとめる。(4.0hr)			
第3回 保育現場における衛生管理 【 到達目標 】 環境衛生の基準について、関連法規・ガイドラインを基に理解し、室内外の衛生管理の方法を習得する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)				第11回 保育所における保健的対応 【 到達目標 】 保育所における保健的対応の基本的な考え方を理解し、3歳未満児に必要となる技術について、観察項目や手順を理解できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、不明な点を調べ整理する。(4.0hr)			
第4回 事故防止および安全対策 【 到達目標 】 子どもの事故の特徴と種類を理解し、事故防止のための方法及び安全対策の具体的な方法について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)				第12回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応① 【 到達目標 】 子どもの主な慢性疾患の特徴と対応方法について理解し、主治医や保護者と連携した保育のあり方について修得する。健康診断および保護者受け渡しまでの対応方法について実践することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)			
第5回 危機管理と災害への備え 【 到達目標 】 災害対策計画の整備及び対応マニュアルの作成の必要性を理解し、関連法規・ガイドラインを参照し、計画を立案することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ計画立案する。(4.0hr)				第13回 個別な配慮を必要とする子どもへの対応② 【 到達目標 】 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」等の最新の資料を参照し、アレルギー疾患の特徴と適切な対応方法について理解する。異物誤嚥を行さないための安全管理対策と保護者等への受け渡しまでのケアを適切に説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)			
第6回 災害への備えと危機管理 【 到達目標 】 災害対策計画の整備及び対応マニュアルの作成の必要性を理解し、関連法規・ガイドラインを参照し、計画を立案することができる。子どもや保護者への安全教育と災害時及び災害後の対応方法について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)				第14回 障害のある子どもへの対応 【 到達目標 】 障害の種類と保育を行う上での配慮について理解する。医療的ケアを必要とする子どもへの配慮と保健医療福祉の専門職との連携や保護者を含めた支援の方法について、事例をもとに理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、多職種との連携を含めた支援方法をまとめる。(4.0hr)			
第7回 子どもの主な症状と応急処置 【 到達目標 】 打撲、骨折、熱傷、出血、誤嚥・窒息等の事例をもとに、適切な応急処置を修得する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、不明な点を調べ整理し練習を行う。(4.0hr)				第15回 健康・安全への取り組みに必要となる体制整備 【 到達目標 】 組織的取り組みの必要性と方法、母子保健・地域保健における自治体との連携や過程、専門機関、地域の関係機関等との連携について既習内容と照らし合わせて、理解する。保育における保健活動の計画立案および評価方法を理解し立案することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、関係機関との連携のあり方をまとめる。(4.0hr)			
第8回 救急処置と救急蘇生法① 【 到達目標 】 救急処置法の意義を理解し、事例をもとに救急処置の手順と観察項目について理解し、発育・発達に適した方法を説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所を読み、指示した資料を調べ整理する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 基礎となる概念やガイドライン等を土台とし、グループ学習やディスカッションによって、子どもや家族の個性や保育の場を想定した応用力を高めるための演習となる。そのため、教科書や配付資料を事前によく読む等の準備を行った上で、主体的かつ積極的に取り組み、使用備品は丁寧に扱うよう留意して欲しい。なお、既習科目の学習内容を踏まえた実践的な内容となるため、不明な部分は復習したり自主的に調べたりして授業に取り組むことを期待する。 オンライン授業となった場合には、オンデマンドで実施し、授業内容によってはオンライン・グループ演習も実施する。また、授業回数数が減った場合でも、大幅には変更しない。配信される資料は、各授業回の動画と補足資料とする。							
【教科書・参考書など】 教科書は、第1回目の授業開始前に指示し、参考書等については、第1回目の授業時に紹介する。							
【成績評価方法】 オンライン・オフライン授業ともに、各回の課題達成度 (40%)、課題テスト (30%)、課題レポート (30%) の加重平均にて総合的に評価する。							

科目名	子どもとあそび			担当者	桐川 敦子・倉盛美穂子	
英文名	Children's play					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2					専門・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CME206		
【目的とねらい】 子どものあそびに対する理解を深め、その意義を学ぶ。子どものあそびに対する保育者の援助、指導について学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 あそびの意義 【 到達目標 】 子どもにとってあそびとは何かを考え、その重要性を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 子どもがあそぶ環境 【 到達目標 】 近年の子どもを取り巻く環境の変化やあそびの実態を学ぶ。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 身体的あそびと発達 【 到達目標 】 リズムあそび、運動あそび、取っ組み合いあそびにおける発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 子どものあそびと保育者の役割 【 到達目標 】 保育者として子どものあそびにどのようにかかわっていくべきか理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 ごっこあそびと発達 【 到達目標 】 ごっこあそびにおける発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 伝承あそびなどの実践 【 到達目標 】 伝承あそびなどを理解し、体験する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 構成あそびと発達 【 到達目標 】 積み木やブロックなど物を構成するあそびの発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 季節のあそび 【 到達目標 】 四季折々のあそびについて理解し、体験する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 ルールのあるあそびと発達 【 到達目標 】 鬼ごっこ、ドッチボールなどルールのあるあそびの発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 手作りのおもちゃ 【 到達目標 】 手作りのものを使うあそびについて理解し、製作に取り組む。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 乳幼児期のあそびにおける親の役割 【 到達目標 】 乳幼児のあそびを親がどのようにサポートしているのか、また親のサポートの効果や意義について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 親子のあそび 【 到達目標 】 子育て支援の現場における親子のあそびの実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 あそびとメディア 【 到達目標 】 あそびに対するテレビやゲームなどの影響について説明できるようになる。 【授業時間外学習】 文献を読み、レポートを作成する。(4.0hr)			第15回 保育者のあそびごころ 【 到達目標 】 ワークショップを通し、あそびの楽しさを体験する。 あそびごころについて考える。 【授業時間外学習】 教材研究とレポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 あそびを中心とした保育 【 到達目標 】 幼稚園、保育園における子どものあそびについて学ぶ。 【授業時間外学習】 授業で配布された資料を見直しながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 全ての授業に対し積極的にかつ自主的に学習すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。あそびの体験や教材研究の回においても、子どもの視座に立ち受講することが求められる。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による子どもと遊びの知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の子どもと遊びについての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オン デマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書(所定の様式)の提出(メール)によって行う。						
【教科書・参考書など】 教科書「離れてあそぼう」桐川敦子著 東洋館出版社 参考書「保育園・幼稚園のわくわく運動遊び」桐川敦子監修(成美堂出版) その他、適宜、参考資料を配布する。						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 授業の中の発表50% レポート50%						

科目名	社会的養護			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child Care and Protection					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	講義				CME301	
【目的とねらい】 社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。本講義では、社会的養護の基礎的事項を理解することを目的とする。特に、現代の社会的養護において、施設養護中心から家庭養護へと大きな政策転換が推進されていることを理解することが重要である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 現代社会における社会的養護の意義 【 到達目標 】 (1)子どもの養育問題の現状と社会的養護の必要性を理解する。 (2)社会的養護の理念と概念を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第9回 家庭養護と施設養護 【 到達目標 】 (1)家庭養護と施設養護の実際について理解する。 (2)施設の小規模化、里親委託等の推進について、具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 社会的養護の歴史の変遷 【 到達目標 】 (1)社会的養護の歴史の変遷について理解する。 (2)社会的養護にかかわる先駆者の取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第10回 社会的養護に関わる専門職 【 到達目標 】 (1)社会的養護において求められている職員の資質・専門性について理解する。 (2)社会的養護に関わる専門職について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 子どもの人権擁護と社会的養護 【 到達目標 】 (1)社会的養護における子どもの権利の捉え方について理解する。 (2)社会的養護における子どもの権利擁護とその課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第11回 社会的養護に関する社会的状況 【 到達目標 】 (1)社会的養護問題と家庭・地域・社会的状況との関連について理解する。 (2)家庭支援の重要性について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 社会的養護の基本原則 【 到達目標 】 (1)社会的養護の理念に基づく基本原則を理解する。 (2)運営指針と第三者評価について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第12回 施設等の運営管理 【 到達目標 】 (1)施設等の運営管理にかかわる法制度、基準、利用類型、財源等について理解する。 (2)施設等の運営管理の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 社会的養護における保育士等の倫理と責務 【 到達目標 】 (1)社会的養護におけるケアと倫理について理解する。 (2)専門職の倫理としての職業倫理について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第13回 被措置児童等の虐待防止 【 到達目標 】 (1)被措置児童等虐待防止の経緯と現状について理解する。 (2)被措置児童等虐待の発生要因と虐待防止の課題について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 社会的養護の制度と法体系 【 到達目標 】 (1)社会的養護の制度の根幹としての「措置制度」について理解する。 (2)社会的養護の基本法とさまざまな関連法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第14回 社会的養護と地域福祉 【 到達目標 】 (1)社会的養護関係の施設と地域とのかかわりについて理解する。 (2)社会的養護関係の施設の地域貢献のあり方、諸機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 社会的養護の仕組みと実施体系 【 到達目標 】 (1)社会的養護の基本的な仕組みを理解する。 (2)社会的養護に関する実施体系の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第15回 社会的養護の今後の課題 【 到達目標 】 (1)施設養護中心から家庭養護への大きな政策転換とその推進について理解する。 (2)社会的養護の今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
第8回 社会的養護の対象 【 到達目標 】 (1)社会的養護の対象となる子どもの特徴と背景について理解する。 (2)社会的養護の対象となる子どもの家庭、親子関係について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】ここでの学びは、施設実習の前に習得しておくべき基礎的事項である。入所児童福祉施設の状況については具体的にイメージしにくいという問題がある。ビデオ教材や事例を多く提示して多面的な理解を促していくが、実習以外でもボランティア活動等を通じて体験的に理解していくことが望まれる。パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が増えた場合でも、大幅には変更しない。音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割の曜日の時刻前にポータル配信する。講義内容に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】各回の授業時での小レポート課題60%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	社会的養護内容				担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Practice in Care and Protection of Children						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択	
授業形態	演習		科目ナンバー	CME302			
【目的とねらい】 社会的養護とは、保護者のない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことである。社会的養護の基礎的事項を具体的に理解し、子どもとその家庭の理解を踏まえ、援助にあたり必要となる実践力を習得することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 社会的養護の視点 【 到達目標 】 (1)社会的養護の基本理念と原理について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第9回 施設ごとの支援の実際(4) 児童自立支援施設 【 到達目標 】 (1)児童自立支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)自立支援、リビングケア、アフターケアについて具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 社会的養護が必要な子どもと家庭の理解 【 到達目標 】 (1)子どもの貧困・家庭の孤立など、子どもと家庭を取り巻く現状と課題を理解する。 (2)被虐待児、障害のある子ども等、社会的養護における子どもの理解を深める。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第10回 施設ごとの支援の実際(5) 児童心理治療施設 【 到達目標 】 (1)児童心理治療施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)被虐待児への治療的支援のあり方について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 施設養護と家庭養護 【 到達目標 】 (1)施設養護(入所施設・通所施設)の生活特性と実際について理解する。 (2)家庭養護の生活特性と実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第11回 施設ごとの支援の実際(6) 障害児入所施設・児童発達支援センター 【 到達目標 】 (1)障害児入所施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童発達支援センターにおける専門的支援について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 個別の支援計画 【 到達目標 】 (1)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を理解する。 (2)アセスメントと個別支援計画の作成について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第12回 家庭的養護 里親制度・ファミリーホーム 【 到達目標 】 (1)子どもと里親との関係形成について具体的に理解する。 (2)里親委託・ファミリーホーム等の家庭的養護の推進について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 相談支援の方法・技術 【 到達目標 】 (1)施設養護における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。 (2)里親委託等における基本的な相談支援の方法・技術について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第13回 社会的養護の支援の実際(1) 【 到達目標 】 (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成および発表を行い、理解を深める。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 施設ごとの支援の実際(1) 乳児院 【 到達目標 】 (1)乳児院での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)乳児院における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第14回 社会的養護の支援の実際(2) 【 到達目標 】 (1)施設実習と関連づけながら、社会的養護の実際を考察する。 (2)レポート作成および発表を行い、理解を深める。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 施設ごとの支援の実際(2) 児童養護施設 【 到達目標 】 (1)児童養護施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)児童養護施設における保育の専門性に関わる知識・技術とその実践を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第15回 今後の課題と展望 【 到達目標 】 (1)社会的養護における家庭支援の重要性を理解する。 (2)社会的養護の課題を理解し、家庭的養護の推進等、今後の展望を考察する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。(4.0hr)			
第8回 施設ごとの支援の実際(3) 母子生活支援施設 【 到達目標 】 (1)母子生活支援施設での生活環境整備と日常的なかかわりを具体的に理解する。 (2)DV被害者への支援について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 社会的養護をめぐる問題は、入所型児童福祉施設に限らず、保育所や教育機関等、すべての子どもの現場に共通の課題となっている。厳しい環境に置かれた児童の社会的養護を日常生活場面で担う保育士の福祉専門職としての役割を十分認識して、学びを深めてほしい。 演習に先立ち、パワーポイントと補足資料を用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的な事例を確認しながら理解を深めていく。事例分析では、毎回異なるメンバーのグループで検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。施設実習と関連付けながら、学生によるプレゼンテーションも実施し、実践への基礎づくりに取り組む。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。演習に先立ち、音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。演習に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。							
【教科書・参考書など】 教科書：「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅱ」雨宮由紀枝・下尾直子編著(大学図書出版) 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。							
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題30%、課題レポート30%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。レポート課題の発表、および学期末試験を行う。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業の場合、各回の小レポート課題により評価を行う。							

科目名	子どもの食と栄養			担当者	北島光子	
英文名	Child Nutrition and Diet					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー	CME207		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 食事をおいしく楽しく摂ることは、子どもが心身ともに健康に育つ上で基本となる。本授業は、現代の子どもの食生活の現状や課題について理解し、子どもの望ましい食生活、保育施設等での食の支援のあり方や食育の重要性について考えるとともに、子どもの発育の段階や身体状況に対応した食生活の支援が適切に行えるようになることをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 子どもの健康と食生活の意義 【 到達目標 】 授業内容や進め方について理解する。 子どもの心身の健康と食生活の関わりや子どもの食生活の現状と課題について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第1章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			第9回 幼児期の食生活① 【 到達目標 】 幼児期の食生活の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第5章を読み、予習する。(4.0hr)			
第2回 栄養と食品① 【 到達目標 】 栄養素のはたらきや代謝の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			第10回 幼児期の食生活② 実習 幼児食 【 到達目標 】 幼児期の栄養や献立、望ましい幼児食について理解を深める。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)			
第3回 栄養と食品② 【 到達目標 】 食事摂取基準や食品分類について理解する。 栄養バランスの良い食事のあり方や食品分類を用いた献立作成について理解する。 【授業時間外学習】 栄養バランスのとれた献立を考える。(4.0hr)			第11回 学童期・思春期・妊娠期の食生活 【 到達目標 】 学童期・思春期・妊娠期の心身の特徴を踏まえた望ましい食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第5章を読み、予習する。(4.0hr)			
第4回 子どもの発育と食生活 【 到達目標 】 子どもの発育を栄養の視点から理解する。 子どもの栄養・生理の特徴を食との関わり（食欲、味覚、消化・吸収等）から理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第3章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			第12回 食育の基本と内容① 【 到達目標 】 食育における食育の意義について理解する。 食育の具体例から、食育のあり方を考える。 【授業時間外学習】 テキスト第6章を読み、予習する。食育計画を考える。(4.0hr)			
第5回 授乳期の食生活① 【 到達目標 】 授乳期の食生活の特徴や乳汁栄養について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章を読み、予習する。			第13回 食育の基本と内容② 演習 食育媒体と食育計画 【 到達目標 】 食育計画立案や食育媒体等の作成を通じて食育について理解を深める。 【授業時間外学習】 テキスト第6章を読み、予習する。食育媒体を考える。(4.0hr)			
第6回 授乳期の食生活② 実習 調乳 【 到達目標 】 無菌操作法による衛生管理や調乳について理解し、適切に行えるようになる。 【授業時間外学習】 テキスト第4章を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)			第14回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 【 到達目標 】 家庭や児童福祉施設における食事と栄養について理解する。 食を通じた保護者への支援について具体的に考える。 【授業時間外学習】 テキスト第7章を読み、予習する。(4.0hr)			
第7回 離乳期の食生活① 【 到達目標 】 離乳の意義や離乳期の食生活および食事摂取機能の発達について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。(4.0hr)			第15回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 【 到達目標 】 疾病や体調不良の子ども、アレルギーや障がいのある子等の対応について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの第8章を読み、予習する。(4.0hr)			
第8回 離乳期の食生活②、実習 離乳食 【 到達目標 】 離乳の段階や摂食機能の発達に応じた離乳食について、実習を通して理解を深める。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。実習内容を理解する。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 日頃から子どもを取り巻く食生活や栄養に関心を持ち、授業内容と関連付けて考える。 【対面授業の場合】 パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、実習（演習）を通じて理解を深めていく。実習（演習）やグループ活動に積極的に参加し、自身の視野を広げたり、考えを深めたりする。授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問する。授業中の飲食・携帯使用・私語は厳禁とする。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド形式の授業を中心とするが、実習（演習）は対面形式で行う場合もある。オンデマンド方式の授業では、各授業回のテーマは原則的には変更しない。学習は配信された音声入りパワーポイント動画と授業資料を基に進める。その後、指定された課題に取り組み、提出する。さらに、提出課題のフィードバックや共有を通じて、内容の理解や自身の考えを深めていく。配信は、各授業日午前9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、6日間程度掲載する。出席の確認は、各授業回の課題提出によって行う。						
【教科書・参考書など】 「子どもの食と栄養演習（第4版）」 小川雄二編著 建邦社 食品成分表があるとわかりやすい。各種「指針」や「ガイドライン」およびその他の参考図書は授業中に適宜紹介する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 原則として、試験の結果（50%）、実技（演習）の達成度（20%）、レポート（30%）を用いて評価する。 【オンライン授業の場合】 原則として、毎回のレポートを70%、期末のレポートを30%として評価する。						

科目名	子育て支援			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Childcare Support					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー			
授業形態	演習				CME303	
【目的とねらい】 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解することを目的とする。様々な場や対象に即した子育て支援の内容と方法および技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育士の行う子育て支援の特性（1） 【 到達目標 】 (1)保育士の行う子育て支援の特性を理解する。 (2)子どもの保育とともに行う保護者の支援について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第9回 保育士の行う子育て支援の展開（5） 【 到達目標 】 (1)社会資源の活用について理解する。 (2)自治体・関係機関・専門職との連携・協働について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 保育士の行う子育て支援の特性（2） 【 到達目標 】 (1)日常的・継続的な関わりを通じた保護者の支援について理解する。 (2)保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第10回 保育士の行う子育て支援とその実際（1） 【 到達目標 】 (1)保育所・認定こども園等における支援とその実際について理解する。 (2)通園施設における支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 保育士の行う子育て支援の特性（3） 【 到達目標 】 (1)保護者や家庭の抱える支援のニーズについて理解する。 (2)保護者や家庭の多面性について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第11回 保育士の行う子育て支援とその実際（2） 【 到達目標 】 (1)地域の子育て家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)地域子育て支援拠点における支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 保育士の行う子育て支援の特性（4） 【 到達目標 】 (1)子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供について理解する。 (2)保育士の行う子育て支援の特性についてまとめる。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第12回 保育士の行う子育て支援とその実際（3） 【 到達目標 】 (1)障害のある子どもと家族に対する支援とその実際について理解する。 (2)アレルギー児・医療的ケア児等と家族に対する支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 保育士の行う子育て支援の展開（1） 【 到達目標 】 (1)子どもの状況・状態の把握について理解する。 (2)保護者の状況・状態の把握について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第13回 保育士の行う子育て支援とその実際（4） 【 到達目標 】 (1)特別な配慮を必要とする保護者への支援とその実際について理解する。 (2)日本語を母語としない保護者への支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第6回 保育士の行う子育て支援の展開（2） 【 到達目標 】 (1)支援の計画について理解する。 (2)環境の構成について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第14回 保育士の行う子育て支援とその実際（5） 【 到達目標 】 (1)子ども虐待の予防に向けた支援とその実際について理解する。 (2)虐待傾向にある保護者への支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第7回 保育士の行う子育て支援の展開（3） 【 到達目標 】 (1)支援の実践・記録について理解する。 (2)支援の評価・カンファレンスについて理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			第15回 保育士の行う子育て支援とその実際（6） 【 到達目標 】 (1)要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について理解する。 (2)入所施設における支援とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第8回 保育士の行う子育て支援の展開（4） 【 到達目標 】 (1)園内の保育者間の連携・協働について理解する。 (2)園内の他職種との連携・協働について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。次回の授業の準備を進める。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】保育者として知っておくべき事項や現場で遭遇することの多い出来事について、事例を提示し、演習形式で子育て支援の理論や技術を学ぶ。保育現場で活用できる実践力を身につけるため、体験的な学びを重視する。ほぼ毎時間、演習内容に関する小レポートを作成し、理解度を確認する。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。 演習に先立ち、パワーポイントと補足資料を用いて要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的な事例を確認しながら理解を深めていく。事例分析では、グループワークにより検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。 【オンライン授業の場合】オンデマンド方式の授業を実施する。授業内容は、授業回数が減った場合でも、大幅には変更しない。演習に先立ち、音声入りパワーポイントの動画と補足資料をGoogle Drive上にアップし、時間割通りの曜日・時刻前にポータル配信する。演習に関する小レポート課題も同時に配信し、1週間後までに提出した場合に出席とする。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜提出された回答一覧をGoogle Drive上にアップして、相互の意見交換につなげていく。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。期末に試験を行う。 【オンライン授業の場合】 各回の小レポート課題により評価を行う。						

科目名	子どもの理解と援助			担当者	倉盛美穂子	
英文名	Child understanding and support					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		科目ナンバー	CME304		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 「子どもの理解」は、保育者の専門性の根幹となるものである。本授業は、子どもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。ことを目的とする。具体的には、子どもを理解する。基本的な視点について学んだ上で、より確かな理解に基づいた発達援助を行うために、観察や記録の手法、職員間や保護者との連携の取り方などを習得することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育における「子どもの理解」 【 到達目標 】 (1) 保育における「子どもの理解」の意義について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 保育の環境の理解と構成(2) 【 到達目標 】 (1) 環境調整の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 子ども理解に基づく養護と教育の一体的展開 【 到達目標 】 (1) 「子どもの理解」に基づく養護および教育の一体展開について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 子どもを理解するための観察・記録・省察・評価 【 到達目標 】 (1) 多角的な視点から子どもを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 子どもに対する共感的理解と保育 【 到達目標 】 (1) 子どもを共感的に見る姿勢について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 職員間の対話 【 到達目標 】 (1) 「子どもの理解」を深めるための職員間の日々の連携のあり方について理解する。 (2) 「子どもの理解」に基づく園内研修・保育カンファレンスについて具体的に理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 子どもの生活と遊び 【 到達目標 】 (1) 生活や遊びのなかで見せてくれる姿や行為から、子どもを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 保護者との情報共有 【 到達目標 】 (1) 子どもの発達を概観し、各時期に生じる様々な課題について理解する。 (2) 「子どもの理解」を保護者と共有し、援助につなげていくことについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 保育者の人的環境としての保育者と子どもの発達 【 到達目標 】 (1) 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達について、多角的に理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 発達の課題に応じた援助と関わり 【 到達目標 】 (1) 発達の課題に応じた保育者の援助と関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 子どもの集団での育ち 【 到達目標 】 (1) 子どもの集団における経験と育ちの視点から、子どもを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 【 到達目標 】 (1) 特別な配慮を要する子どもを理解し、人間の多様性への理解を深める。 (2) 個々の子どもに応じた発達支援のあり方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第7回 葛藤やつまづき 【 到達目標 】 (1) 子ども発達や学びの過程で生ずる葛藤やつまづきについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			第15回 発達の連続性と就学への支援 【 到達目標 】 (1) 発達の連続性について理解する。 (2) 「幼保小連携」の今日的課題を知り、就学に向けた支援について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)			
第8回 保育の環境の理解と構成 【 到達目標 】 (1) 保育の環境や構成の視点から、子どもを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 指定教科書に準拠して授業をすすめる。受講者は講義を聞きながらメモを取ったり、教科書に書き込むんだりしながら、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料を配布する。授業後、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。受講者は、毎授業後、課題を提出すること。松原校舎で授業を行うこともある。 【オンライン授業の場合】 オンデマンド方式で授業を行う。出席は、毎授業後の課題提出によって確認する（Pholly）。質問は適宜受けつける。動画は、授業日の前日9時に本学ポータルサイトにアップし、一週間掲載する。						
【教科書・参考書など】 教科書 「子どもの理解と援助 演習ハンドブック」松本峰雄（監修）ミネルヴァ書房						
【成績評価方法】 【対面授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50% 【オンライン授業の場合】 毎授業後の課題提出 50%、期末試験 50%						

科目名	保育実習指導 I				担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3		科目ナンバー	CME401			
授業形態	演習						
【目的とねらい】 保育園(所)及び児童福祉施設における実習の意義、目的、内容、方法(観察、実践、記録、評価)を理解するとともに、自らの実習の課題を明らかにする。子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務を理解する。 実習後の事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業の目的と流れ 【 到達目標 】 保育実習 I (施設実習・保育所実習) の目的と全体的な流れを理解する。 【授業時間外学習】 テキストを見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第9回 保育所実習における実習の意義と心構え 【 到達目標 】 保育所実習における実習の意義と心構えについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第2回 施設の社会的役割や業務内容について 【 到達目標 】 施設の社会的役割や業務内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針の理解を深める。(4.0hr)				第10回 保育所の社会的役割や業務内容についての理解 【 到達目標 】 保育所の社会的役割や業務内容について理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第3回 施設実習における実習の意義 【 到達目標 】 施設実習における実習の意義や心構えを理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第11回 保育所実習の目標の設定 【 到達目標 】 保育所実習における目標の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第4回 施設実習における目標の設定 【 到達目標 】 施設実習における目標の立て方を理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第12回 保育実習における文書について 【 到達目標 】 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)			
第5回 施設実習における文書について 【 到達目標 】 実習記録の意味を理解し、記入の仕方を修得する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第13回 保育実習における指導案について 【 到達目標 】 指導計画について理解し、部分指導案を作成する。 【授業時間外学習】 指導案を作成する。(4.0hr)			
第6回 施設実習に関する全体的な学習 【 到達目標 】 子どもの人権の尊重、守秘義務、プライバシーの保護など、保育士の職業倫理と社会的責任について理解する。 【授業時間外学習】 テキストや配布資料を見直ししながら次回の授業の準備を進める。(4.0hr)				第14回 保育実習に関する実践的指導 【 到達目標 】 子どもの姿をイメージしながら模擬保育を行う。 【授業時間外学習】 実践できる教材を研究する。(4.0hr)			
第7回 施設実習に関する個別指導 【 到達目標 】 実習を行う施設ごとに個別の課題を見出す。 【授業時間外学習】 配布資料を見直ししながら個別の課題に取り組む(4.0hr)				第15回 保育実習の振り返り 【 到達目標 】 保育実習終了後に実習の振り返りを行う。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 施設実習の振り返り 【 到達目標 】 施設実習終了後に実習の振り返りを行う。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)							
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 質の高い保育者になるという自覚を持ち出席すること。実習に向けて、全ての授業において積極的にかつ自主的に学習すること。書類の提出は期限を守ること。ほぼ毎時間レスポンスカードなどで、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導の講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書(所定の様式)の提出(メール)によって行う。							
【教科書・参考書など】 「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著(建帛社) 「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著(萌文書林)、「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著(創成社) 「保育所保育指針」厚生労働省、プレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省、プレーベル館							
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。							

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CME402		
【目的とねらい】 保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、観察、記録、事例研究、実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 観察実習の振り返り 【 到達目標 】 保育実習Ⅰで理解したことを踏まえ、実習の意義、目的などについて再確認する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第9回 責任実習指導案立案 【 到達目標 】 保育所の1日の流れをイメージし、保育者の援助について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第2回 子ども理解を深める① 【 到達目標 】 0～2歳児の特徴とかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第10回 責任実習指導案立案 【 到達目標 】 保育所の1日の流れをイメージし、適切な環境構成について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第3回 子ども理解を深める② 【 到達目標 】 3～5歳児の特徴とかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第11回 指導案展開 【 到達目標 】 模擬保育を行い指導案の在り方について深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第4回 保育計画を立てることの意味について理解する。 【 到達目標 】 保育計画を立てることの意味を理解し、全体的計画、長期計画と短期計画について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第12回 計画案の実践後の自己評価と改善 【 到達目標 】 作成した指導案について、子どもの発達に即したものであったか、子どもたちの最善の利益を考慮した保育計画であったかを自己評価をする。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第5回 子ども理解に基づく保育計画について理解する。 【 到達目標 】 子ども理解に基づく保育計画について理解し、適切な環境構成などを学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第13回 保育士の業務と職業倫理の理解 【 到達目標 】 専門家としての保育士の業務と職業倫理について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			
第6回 指導案の立て方について理解する。 【 到達目標 】 具体的な指導案の立て方について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第14回 実習の心構えについて 【 到達目標 】 実習の心構えについて理解する。 【授業時間外学習】 実習ノートに必要な事項を記入する。(4.0hr)			
第7回 部分指導案の立案① 【 到達目標 】 子どもをイメージしながら保育を構想する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)			第15回 自己課題の明確化 【 到達目標 】 実習にむけての目標や自己課題を明確にする。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 部分指導案立案② 【 到達目標 】 保育全体の見通しをもって構想する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践を基に保育実習Ⅱに臨めるように、保育実習Ⅰでの記録や資料等を整理しておくこと。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習Ⅱの知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導Ⅱについての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オン デマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書(所定の様式)の提出(メール)によって行う。						
【実務経験のある教員による授業科目】 保育現場での実務経験および実習指導の実績を活かし、観察・記録・事例研究・実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理等について理解できるように演習を行う。						
【教科書・参考書など】 「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著(建帛社)						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。						

科目名	保育実習 I				担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care I						
単位数	4	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択	
授業形態	実習		科目ナンバー	CME403			
<p>【目的とねらい】 保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育園(所)の機能と保育士の職務を学ぶ。 保育園(所)以外の居住型及び通所型児童福祉施設の養護と機能を実習を通して具体的に学習し、施設を利用する対象児とその養護内容の理解、現状の問題点を考察する。様々な職種の専門教職員との中で働く保育士の職務内容を理解すると共に、具体的な支援方法を学ぶ。</p>							
<p>【授業内容】 【保育園(所)】 9月上旬を標準的期間として12日間の保育園(所)実習を行う。終了後は実習報告会を行う。 【居住型及び通所型児童福祉施設】 11月を標準的期間として12日間の児童福祉施設の実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。</p>							
<p>【到達目標】 【保育園(所)】 1. 保育の一日の流れを理解し、保育園(所)の生活に参加する。 2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 3. 保育計画・指導計画を理解する。 4. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。 5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。 【施設】 1. 児童福祉施設等の生活に参加し、施設の実際(養護の一日の流れ)を理解する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 3. 援助計画・内容の実際を理解する。 4. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。</p>							
<p>【授業時間外学習】 実習記録をまとめる。</p>							
<p>【学習上の留意点】 「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。</p>							
<p>【教科書・参考書など】 「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著(建帛社) 「よくわかる保育所実習[第6版]」百瀬ユカリ著(創成社)</p>							
<p>【成績評価方法】 レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。</p>							

科目名	保育実習Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Practice of Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3					専門・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	CME404		
【目的とねらい】 <p>保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。</p>						
【授業内容】 <p>2月中旬を標準的期間として12日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。</p>						
【到達目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 3. 指導計画を作成し、実際に実践する。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 5. 地域社会に対する理解を深め、地域との連携について理解する。 6. 保育士としての職業倫理を理解する。 7. 保育士として求められる資質等について、自己の課題を確認する。 						
【授業時間外学習】 <p>実習記録をまとめる。</p>						
【学習上の留意点】 <p>「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。</p>						
【実務経験のある教員による授業科目】 <p>保育現場での実務経験および実習指導経験のある教員が、保育実習に関する個別の事前事後指導および巡回指導を行う。</p>						
【教科書・参考書など】 <p>「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）</p>						
【成績評価方法】 <p>レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。保育実習指導Ⅱの授業を受講し、準備を行うこと。</p>						

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			担当者	青木 純一・桐川 敦子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		科目ナンバー	CME405		
授業形態	演習					
【目的とねらい】 この科目は、教職課程及び保育士養成課程の総仕上げとなる科目である。これまでの教職課程の学修や教育実習及び保育実習の経験を振り返り、自己の成長と課題について認識するとともに、学生による発表やグループ討論により、学生一人ひとりが自己の課題解決のための学修を積極的に進めていく。さらに、今日の教育と学校についての理解を深め、それを担う教職の意義や保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について理解を深めるとともに、自らの保育者（幼稚園教諭・保育士）となるための発達課題を明らかにする。また、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるよう演習を構成する。 授業全体としては、保育者としての指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認 【 到達目標 】 授業開始までの夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、それをもとに討論する。課題レポートを提出する。 【授業時間外学習】 実習の振り返りに関するレポートを作成する。(4.0hr)			第9回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（討論・発表） 【 到達目標 】 学生によるグループ討論と発表を行う。こうした取組みを通して学生は保育者としての自己の課題を明確化し卒業までの自己目標を確認する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第2回 子どもの理解を深めるためのビデオカンファレンス 【 到達目標 】 子どもへのかかわり方について考える力を養う。また、経験とともにその変化があるのかを考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			第10回 学級経営、学校経営についての理解（講義） 【 到達目標 】 学級の経営や園経営の実際を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第3回 保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルと成長の課題（講話） 【 到達目標 】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルの実際について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			第11回 小学校との連携について（講話） 【 到達目標 】 現職保育者を招き、現場の事情について講話を聞く。こうした取組みを通して幼小の連携の実際やスタートカリキュラムの内容を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第4回 保育者に求められる教科の指導力を高めるためのロールプレイ 【 到達目標 】 教育・保育に関わる基本的知識及び実技能等への補完指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			第12回 保育者として求められる社会性・対人関係能力 【 到達目標 】 これまでの授業を通して得た知見をもとに討論する。こうした取組みを通して保育者にとって親や保護者とのコミュニケーションが大切なことを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第5回 行事について考える 【 到達目標 】 附属幼稚園等の運動会を見学し、各園の保育の方針と行事の在り方について討論する。 【授業時間外学習】 幼稚園、保育所における行事の見学とレポートを作成する。(4.0hr)			第13回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価1 【 到達目標 】 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第6回 保護者との連携についての理解（講話） 【 到達目標 】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保護者との連携の現状を知り、連携のために必要とされていることについて学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			第14回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価2 【 到達目標 】 自己課題を認識し、解決するまでのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			
第7回 前半の授業のまとめ 【 到達目標 】 前半の授業を通して得た知見をもとに、自己の課題を整理する。自己課題解決に向けての取り組みについて計画し、開始する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)			第15回 魅力ある保育者を目指してレポート作成と意見交換ー 【 到達目標 】 保育者としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。 【授業時間外学習】 本科目のまとめに関するレポートを作成する。(4.0hr)			
第8回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（講義） 【 到達目標 】 今日の教育について理解を深め教職の意義、教員の役割について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容をまとめる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 【対面授業の場合】 夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、各自の課題等についてまとめ、レポートとして提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。授業前半は、実習で体験した保育活動に近い具体的な内容であり、各人の課題を振り返り、さらに新たな課題を見つけ出したり、課題解決のための計画を立てやすいように進める。授業後半は、より深く保育、教職について深めながら、各人の課題解決への取り組みをサポートしていく。ほぼ毎時間レスポンスカードを配布し、理解度の確認を行うと共に、質問に回答する。1回～7回は桐川が、8～15回は青木が担当する。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育教職実践演習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育教職実践演習についての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オン デマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」厚生労働省 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実習」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習・保育実習時に作成する指導案、「実習ノート」等						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 各種レポートの提出（50%）、授業時の発表、発言内容（50%）						

科目名	保育実習指導Ⅲ				担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction III						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	4					専門・選択	
授業形態	演習		科目ナンバー	CME406			
【目的とねらい】 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践をもとに、さらに保育所以外の児童福祉施設で行う実習を有意義なものとするための事前指導を行う。また、事後指導では実習の総括と自己評価を行い、施設における保育士としての課題や認識を明確にする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 保育実習Ⅰを振り返る① 【 到達目標 】 保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を再確認する。 【授業時間外学習】 保育実習Ⅰの実習日誌や自己評価などを見直す。(4.0hr)				第9回 個別の支援計画の理解 【 到達目標 】 個別の支援計画について理解し、対象児にあわせて立案する。 【授業時間外学習】 施設における個別の支援計画に目を通し、その意図等を理解する。(4.0hr)			
第2回 保育実習Ⅰを振り返る② 【 到達目標 】 保育実習Ⅲの進め方と概要、評価方法について確認し、保育実習Ⅲの目標と内容を理解する。 【授業時間外学習】 これまでの振り返りをもとに、実習の課題を明らかにして書き記す。(4.0hr)				第10回 支援の計画・実践・評価 【 到達目標 】 個別の支援計画に基づく実践を評価し、改善点等について省察する。 【授業時間外学習】 作成した個別の支援計画を再考する。(4.0hr)			
第3回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例（資料）を用いて、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例（資料）を収集し、整理する。(4.0hr)				第11回 子どもをとりまく環境を踏まえた地域社会との連携 【 到達目標 】 子どもをとりまく環境や生活状況等を理解し、地域社会との連携や支援体制について学ぶ。 【授業時間外学習】 新聞記事や雑誌などを通して子どもを取り巻く環境を考察する。(4.0hr)			
第4回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例から必要な支援や関わりを考えて書く。(4.0hr)				第12回 職員間の連携や役割分担の理解 【 到達目標 】 保育士等の職員間の連携や役割分担について学ぶ。 【授業時間外学習】 施設の職員の職種とその役割をまとめる。(4.0hr)			
第5回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、グループ活動を通して、明確にしたいテーマを決める。 【授業時間外学習】 資料及び参考文献を用いて施設への理解を深め、グループ内報告の準備をする。(4.0hr)				第13回 専門職としての倫理と子どもの最善の利益の理解 【 到達目標 】 子どもの人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等の職業倫理について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 子どもの権利条約や人権擁護にかかわる法律等を読み、理解を深める。(4.0hr)			
第6回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 グループごとに事例検討を行い、それぞれの施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 グループ報告での内容を整理し、子どもの心理や行動を理解しようとする。(4.0hr)				第14回 実習の振り返りと自己評価 【 到達目標 】 実習を振り返り、子どもへの支援や養護的かかわり等について省察する。 【授業時間外学習】 自己評価の観点を踏まえて実習を自己評価する。(4.0hr)			
第7回 施設を利用する子どもの理解 【 到達目標 】 子どもの観察と記録および援助のかかわりについて具体的に学ぶ。 【授業時間外学習】 教科書を読み、観察の観点や記録の重要性を知る。(4.0hr)				第15回 実習に基づく自己課題の明確化 【 到達目標 】 自己評価をもとに新たな課題や学習目標を明確にする。 【授業時間外学習】 施設からの実習評価と自己評価を照らし合わせながら自己課題を見出す。(4.0hr)			
第8回 一人一人の子どもの状態に応じた援助やかかわりの理解 【 到達目標 】 入所の事由や子どもの状態に応じたかかわりや援助の実践について学ぶ。 【授業時間外学習】 参考文献を読む等して、援助の実践を知る。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
【対面授業の場合】 個人学習及びグループ学習を通して、児童福祉や社会的養護の学びを踏まえ、施設に入所する子どもへの理解や施設の役割についての理解を深め、支援の内容や方法を具体的に学んでほしい。また、実習先となる施設と異なる種類の施設についても、事前学習や実習報告等様々な機会を利用して理解できるよう努めることが望ましい。実習で得た学びを、自己評価するとともに、実習生全体の学びとして共有できるよう、フィードバックしていく。 【オンライン授業の場合】 オンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による保育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の保育実習指導の講義・質疑応答を行う。動画は、各授業週の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オンデマンド方式の授業回の出席確認は、各授業週の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。							
【教科書・参考書など】							
教科書：『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林） 参考書：『教育、保育、施設実習テキスト 第4版』二階堂邦子編著（建帛社） 『施設で育った子どもたちの語り』（明石書店）、『この子を受け止めて、育むために 育てる・育ち合ういとなみ』（全国児童養護施設協議会）							
【成績評価方法】							
【対面授業の場合】 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。 【オンライン授業の場合】 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。							

科目名	保育実習Ⅲ			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care III					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4					専門・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	CME407		

【目的とねらい】

保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解を深める。また、保育士の職業倫理について具体的に理解し、入所児童の人権やプライバシーに配慮しながら子どもへの理解を深める。さらに、施設の現状や課題に着目しながら、様々な専門職と連携を図り子どもと保護者を支援する保育士の役割や、具体的な支援の内容について学び、保育士としての自己課題を明確にする。

【授業内容】

1 1月を標準的期間として、12日間の児童福祉施設での実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。

【到達目標】

1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について、実習を通して理解を深める。
2. 施設における支援の実際を理解する。
 - ①受容し、共感する態度
 - ②個人差や生活環境に伴うニーズの把握と子ども理解
 - ③個別支援計画の作成と実践
 - ④子どもの家庭への支援と対応
 - ⑤多様な専門職との連携
 - ⑥地域との連携
3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
4. 保育士としての自己課題を明確化する。

【授業時間外学習】

子ども一人一人の理解を深めるために、社会的養護や児童養護に関わる書物や資料を読む。また、新聞や雑誌などで現代の家庭や社会が抱える問題・課題に関する記事を読み、考察する。

【学習上の留意点】

現代社会における児童福祉や社会的養護の重要性について理解を深めながら、施設の在り方や子どもの最善の利益を踏まえた支援の実際について意欲的に学んでほしい。施設実習の経験は保育や福祉の根幹にかかわる重要な学びとなり、貴重な経験になることを踏まえ、課題意識をもって実習に臨んでほしい。

【教科書・参考書など】

教科書：『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林）
参考書：『教育・保育・施設テキスト 第3版』二階堂邦子編著（建帛社）、『児童福祉施設における子どもの育ちと貧困』（明石書店）、『虐待を受けた子どもへの自立支援』（中央法規出版）、『児童養護施設近未来像Ⅱ～子どもを未来とするために』（全国児童養護施設協議会）

【成績評価方法】

レポート30%、実習日誌30%、施設からの評価40%によって総合的に評価する。

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）			担当者	桐川 敦子	
英文名	Guidance Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		科目ナンバー	CME408		
授業形態	実習					
【目的とねらい】 「教育実習」は大学での「事前・事後指導」（1単位）と幼稚園での4週間の「幼稚園実習」（4単位）からなる。幼稚園における実際の保育にかかわり、幼稚園教育（教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等）の理解を深め、保育者としての資質を高めることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 幼稚園実習について 【 到達目標 】 授業の進め方について理解する。 幼稚園教育要領、幼稚園生活の流れなどを学ぶ。 附属幼稚園での実習の仕方、記録の書き方を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 保育実践の留意点 【 到達目標 】 作成した指導案を展開することにより、保育に取り組む姿勢などを学ぶ。 指導案については個人指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 子どもの理解 【 到達目標 】 様々な角度から子どもを理解する方法を学ぶ。 保育者は子どもとどのように向き合っていくべきか考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 実習に向けての心構え 【 到達目標 】 実習中、実習前後の心構えについて理解する。 服装、持ち物、健康管理など、実習中の詳細について確認する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 附属幼稚園での見学、参加実習 1 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 実習の振り返りと自己評価 【 到達目標 】 実習を振り返り、自己評価を行う。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第4回 附属幼稚園での見学、参加実習 2 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。			第12回 実習報告会 1 【 到達目標 】 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 附属幼稚園での見学、参加実習 3 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。 【授業時間外学習】 事後学習として、観察記録を書き指導を受ける。			第13回 実習報告会 2 【 到達目標 】 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 教材研究 【 到達目標 】 絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアターの教材研究を行い、オリジナルのものを作成する。 造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。 【授業時間外学習】 事後学習として、教材研究を進める。			第14回 保育者を目指すにあたって 【 到達目標 】 保育者を目指すにあたって、今、何をすべきか検討する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 指導計画立案 【 到達目標 】 幼稚園教育課程を学び、指導案を作成する。 指導案作成の際の注意事項などを学ぶ。 教育要領に基づく教育課程の理解を深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、指導案を書く作業をすすめる。			第15回 実習ノートの分析 【 到達目標 】 返却された実習ノートを読み返ししながら自己の課題について認識する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第8回 保育実技についての検討 【 到達目標 】 絵本、紙芝居などを子どもの前で読んだり、パネルシアターやエプロンシアター、ペープサートを演じる際の配慮すべき点を学ぶ。 子どもとの心の交流や子どもの想像力について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 全ての授業に対し、幼稚園教諭免許取得を目指し、実習に臨む積極的な態度で臨むこと。課題には自主的に取り組み、提出物は必ず期限を守り提出すること。講義においてはパワーポイントを用いて要点を示し、口頭で詳細を説明する。具体的な子どもの姿を思い浮かべながら受講することが大切である。 現場における実習以外の授業をオンライン授業を行うことになった場合は、オンデマンド方式による教育実習の知識に関する授業を単元全体の90%実施する。残りの10%は、リアルタイム方式の教育実習についての講義・質疑応答を行う。動画は、各授業回の週の月曜日12:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、その週の金曜日まで掲載する。オン デマンド方式の授業回の出席確認は、各授業回の学習報告書（所定の様式）の提出（メール）によって行う。						
【教科書・参考書など】 テキスト：「教育・保育実習テキストブック-幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園-」小泉裕子・園田巖編著（建帛社）、「保育記録のとり方・生かし方」関草信編著（すずき出版）、「幼稚園教育要領」文部科学省／参考書：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「遊びや生活の中で"10の姿"を育む保育 事例で見る幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（チャイルド本社）						
【成績評価方法】 【対面授業・オンライン授業共通】 事前事後の授業でのレポート・課題の評価（50%） 実習園からの評価（50%）						

科目名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	森田陽子	
英文名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単位数	3	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3	／選択の区別				専門・選択
授業形態	実習		科目ナンバー	CME208		
【目的とねらい】						
<p>本学における部活動を通して、得られた経験や成果をまとめ、より専門的なスポーツ活動に繋げることを目的とする。1年次から3年次まで継続して活動することが単位取得のための必要条件となる。選手だけではなく、選手をサポートするマネージャー等も受講対象とする。</p> <p>履修者は、1年次から3年次まで年次ごとに活動報告書を作成し、優れた成績や自らのパフォーマンス向上に繋がるような分析や考察をすることが求められる。</p>						
【授業内容】						
<p>1、1年次 4月：ガイダンス 授業の目的やねらいについて説明を行う。また、活動報告書の作成方法及び提出についても説明する。</p> <p>2、1年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、2年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>3、2年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、3年次以降の充実につながるような目標を記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p> <p>4、3年次： 部活動を継続して行い、その活動報告書を作成し、提出する（1月末）。日々の部活動の練習状況や、それ以外の自主的な練習の状況、トレーニングなどについて実際に行った内容を中心にまとめる。戦績についても、競技会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。また、最終年次、部活動の集大成としての具体的な目標を記す。さらに、大学での競技を終え、卒業後にこの経験をどのように生かしていくのかについても記す。12月頃、ガイダンスを行う。</p>						
【到達目標】						
<p>継続した活動を通して、競技者として競技力を向上させ、より優れた成績を残すことが到達目標となる。さらに、大学生競技者として、年次を重ねるごとに人間的にも成長していることを実感できることが目標となる。卒業後、競技者の継続を希望する者、指導者を希望する者等、将来の自分をイメージしながら日々の活動を行い、報告書を作成することが望ましい。</p>						
【授業時間外学習】						
<p>日々の部活動には、目的意識をもって取り組み、練習ノート等にその日の練習内容に加えて、反省すべき点や今後活かせる点等も記録する。自らの課題を解決するために必要な情報については、授業や書籍等を活用しながら、それらを積極的に取り入れ、より有効な活動ができるようにする。</p>						
【学習上の留意点】						
<p>大学でスポーツ活動を実施する学生が、さらにそのスポーツ活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、スポーツ活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は、1年ごとに実施したスポーツ活動の内容について報告書を提出する。不定期でガイダンスを実施するので、掲示をよく見て、必ず出席すること。また、学年をまたいでの課題提出はいかなる理由であっても認めない。その場合は、次年度の履修は取り消しとなるので注意すること。</p>						
【教科書・参考書など】						
<p>各競技種目に関する専門書や指導書など。</p>						
【成績評価方法】						
<p>3年間を通じたスポーツ活動実績と活動報告書に基づき総合的に評価を行う。</p>						

科目名	卒業研究			担当者		
英文名	Graduation Thesis					
単位数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4					専門・選択
授業形態	演習		科目ナンバー	CME409		
【目的とねらい】 子ども運動学科において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。3年次からの2年間にわたる活動をとおして幼児発達の理解をさらに深めるとともに、専門的な能力を高める。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果をまとめ、プレゼンテーション（発表）を行う。						
【授業内容】 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 3. 研究活動の展開 4. 結果の考察とまとめ 5. 論文の作成、研究成果の発表						
【到達目標】 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 専門的に学ぶ分野の先行研究の概要や、問題の所在を十分に理解する。 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 対象分野の研究の動向や、研究方法及び手法の特色を理解し、各自のテーマと方法を構想する。 3. 研究活動の展開 各自のテーマと研究計画を明確にして、具体的に展開する。 4. 結果の考察とまとめ 論文のまとめを構想しながら、さらに研究を進め、考察を深める。 5. 論文の作成、研究成果の発表 構成を練り、論理的にまとめよく、的確に伝えることができる。						
【授業時間外学習】 各担当教員の指示による。						
【学習上の留意点】 各担当教員の指示による。						
【教科書・参考書など】 状況に応じて参考図書・資料等を紹介する。						
【成績評価方法】 2年間の論文作成に至る過程での状況と、論文の内容を総合的に評価する。						